

# 宮ノ本遺跡Ⅰ 大原遺跡 庄境遺跡

—桑野川床上浸水対策特別緊急事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告—

## 第1分冊

2008

徳島県教育委員会  
財団法人 徳島県埋蔵文化財センター  
国土交通省 四国地方整備局

# 宮ノ本遺跡 I 大原遺跡 庄境遺跡

—桑野川床上浸水対策特別緊急事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告—

## 第1分冊

2008

徳島県教育委員会  
財団法人 徳島県埋蔵文化財センター  
国土交通省 四国地方整備局



宮ノ本遺跡全景（西から）左上の林は泉八幡神社、右下は I - 4 区第 1 遺構面（中世）



宮ノ本遺跡II-5区第2構造面（南東から）弥生時代前期の竪穴住居



宮ノ本遺跡II地区SX2020 弥生土器ミニチュア壺（197）出土状況



宮ノ本遺跡II-4区第1遺構面（中世）完掘状況（西から）



宮ノ本遺跡II-3区第1遺構面完掘状況（南から）中世の区画溝と近世の掘立柱建物

## 序 文

本書は桑野川床上浸水対策特別緊急事業に伴い、平成15～18年度にかけて調査を実施した阿南市長牛町他に所在する宮ノ本遺跡、大原遺跡、庄境遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。

この3遺跡とも沃野である那賀川平野の南端、桑野川のはとりに営まれた遺跡です。

長牛町・宝田町に所在する宮ノ本遺跡は縄文時代晚期から中世にかけての集落遺跡です。縄文時代晚期と弥生時代前期では堅穴住居跡群が検出され、微高地に営まれた集落の様相を知ることができました。中世では12～13世紀代を中心にして区画溝や130軒もの掘立柱建物群が検出され、大規模な聚落であることが判明しました。当地一帯は竹原莊と呼ばれる莊園で、藤原摶関家領のうち1157年に後白河院領となり、14世紀初頭まで院領地であったことが記録に残っています。莊園の記録と発掘調査によって確認された遺跡の年代が重なることは、大きな成果であるといえます。また本遺跡は中世後半期まで継続しており、集落の変遷を追うことができる貴重な調査事例です。

大原遺跡は宮ノ本遺跡から約1km 上流に位置する、弥生時代後期末および中世末～近世の集落遺跡です。弥生時代終わり頃の造構・遺物が確認されたことは、本地域における古墳時代前夜の様相を知る上で貴重な資料を得ることができました。

庄境遺跡は宮ノ本遺跡から約1.3km 下流の富岡町に所在する遺跡で、平安時代を中心とする集落遺跡です。円面鏡が出土したことで公的施設の存在が推測でき、古代の役所や交通路を考える上で好資料になると考えられます。

これまで本県においては、開発が進む吉野川流域と比較して県南域の資料が少ないことが歴史解明の障壁になっていました。多くの方々によって本書が活用され、学術研究および埋蔵文化財に対する意識の向上と文化財保護の一助となり、あわせて地元の方々が郷土の歴史に誇りをもっていただく契機になれば幸いです。

なお、発掘調査および本報告書の作成にあたり、国土交通省及び関係機関並びに地元の皆様にはご理解をいただき、あわせてご援助、ご協力を賜りました。また多くの方々や研究機関からご指導ならびにご教示を賜りました。ここに深く感謝の意を表します。

平成21年3月

財團法人 徳島県埋蔵文化財センター

理事長 福家清司

# 例　　言

1. 本書は桑野川床上浸水対策特別緊急事業に伴い、平成15(2003)年度から平成18(2006)年度にかけて調査を実施した阿南市に所在する宮ノ本遺跡・大原遺跡・庄境遺跡の調査成果報告書である。
2. 発掘調査及び整理業務は、徳島県から委託を受けた財団法人徳島県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 発掘調査及び報告書作成についての実施期間は次の通りである。

・発掘調査期間（宮ノ本遺跡）	平成15年 9月 1日	～	平成15年11月30日	（試掘調査）
	平成16年 4月 1日	～	平成17年 3月31日	（本調査）
	平成16年 9月16日	～	平成16年 9月30日	（試掘調査）
	平成17年 4月 1日	～	平成18年 3月31日	（本調査）
	平成18年 4月 1日	～	平成18年 9月30日	（本調査）
・発掘調査期間（大原遺跡）	平成18年10月 1日	～	平成19年 1月31日	（本調査）
・発掘調査期間（庄境遺跡）	平成19年 2月 1日	～	平成19年 3月31日	（本調査）
・報告書作成期間	平成18年 4月 1日	～	平成21年 3月31日	
4. 遺構の表示は財団法人徳島県埋蔵文化財センターが定める標準記号を用いた。

SB 竪穴住居　　SA 掘立柱建物　　SG 構列　　SK 土坑　　SD 溝　　SI 水田跡  
SX 不明造構ほか SP 柱穴・小穴　　SR 自然流路

遺構内道構はSD・SPのSに替えてEを付けてED・EPと表記する。EHは遺構内の炉跡・窓である。

アルファベットに続く4～5桁の数字は頭の数字が造構面を、以下が造構の番号を示す。SXについては、不明造構のほか第Ⅲ章【1】～【2】では住居跡の要件を満たさない竪穴住居状造構を含め、【3】では整地状造構を含めるものとする。
5. 方位は世界測地系座標の第Ⅳ座標系を用いた。標高は東京湾標準潮位（T.P.）を基準とした。
6. 本書で用いた土壤及び土器の色調は小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』1997年度版 日本色研事業株式会社発行に拠った。釉の色調は細野尚志編『標準色彩図表A』日本色研事業株式会社発行に拠った。色調は、目中の十分な照度もしくは昼白色ライトの下で目視による観察によって決定した。ただし色調の決定には個人差があることをご了承いただきたい。
7. 地区・調査区名、遺構番号はすべて全体を統一して新番号に振り替えた。したがって調査時における仮調査区名や仮遺構番号とは一致しない。遺構番号は地区ごとに1から始まる通し番号とした。挿図・図版番号、遺物番号は遺跡ごとの通し番号とした。

8. 本報告書の土器実測図で断面白抜きは縄文土器・弥生土器・土師器・黒色土器・土師質土器、網掛けは瓦器・瓦質土器、黒塗りは須恵器・須恵質土器・陶磁器を示す。
9. 遺物番号を○で囲んだものは遺物写真図版に掲載したものである。
10. 遺物実測図の掲載サイズは、大型品（直径または展開時に45cmを超えるもの）は1/4、土器・土製品・瓦・金屬製品（錢貨除く）・石器石製品（全長5cm以上）は1/3、碁石・小型鉄製品（全長12cm未満）1/2、石器（全長5cm未満）2/3、錢貨1/1を原則とした。遺構実測図は、遺構平・断面図1/40、遺物出土状況図は1/20、掘立柱建物は1/80を原則として掲載した。遺物図・遺構図とも若干の例外がある。すべての実測図にスケールを添付した。
11. 断面図における遺物のドットは、●は土器を、△は石を、■はその他（錢貨・鉄製品等）を表す。
12. 掘立柱建物の計測に関しては、次のように行った。
- ①建物規模は東西の間数・長さ、南北の間数・長さ、面積、主軸方向の順で記載する。
  - ②東西・南北それぞれで間数が異なる場合、数が多い方を記す。
  - ③四隅のいずれかの柱穴を欠く場合でも、想定線を延ばして建物の復元を行った。ただし、想定線のみによって復元した隅部は柱穴数に加えない。よって間数は現存部を記載する。
  - ④東西・南北それぞれの長さは、両端に位置する柱穴の中心間の平均値を記す。
  - ⑤面積は東西・南北の長さを乗じて算出した。
  - ⑥庇付き建物は庇部分を除いた計測値を記し、次いで庇を含めた計測値を〈〉内に記入する。
  - ⑦主軸方向は長軸方向を主軸とする。短軸両辺をそれぞれ二等分した点を結んで中心線とし、真北からの角度を計測した。
13. 出土遺物に関して土師器・土師質土器は、古代の製品を土師器、中世以降のものを土師質土器とし、可能な限り分類を行った。同様に須恵器は古代の製品を指し、中世のものは須恵質土器と表記した。
14. 出土遺物の自然科学分析は次の方々にお願いし、報告をいただいた。
- 熱残留磁気年代測定は兵庫県立大学の森永速男氏
  - 土器・土製品胎土分析は岡山理科大学の白石純氏
  - 木製品の樹種同定は徳島大学の中原計氏
15. 本書の執筆は、第Ⅰ章を久保脇美朗、第Ⅱ章を木村哲也、第Ⅲ章のうち縄文時代の遺物・まとめを湯浅利彦、古墳時代の遺物を藤川智之、弥生時代の遺物・まとめを久保脇、第Ⅳ章本文とまとめの弥生・古墳時代遺物およびまとめと第Ⅴ章の弥生・古代の遺物・まとめを久保脇、自然科学分析結果をそれぞれの分析担当者、その他を島田農影が執筆し、全体の編集は島田が行った。遺物写真は植地岳彦が、遺構写真はそれぞれの調査担当者が撮影した。

16. 本書における遺物の分類や編年、および年代の決定は基本的に下記の文献に拠った。

縄文土器：家根祥多 1981 「近畿地方の土器」『縄文文化の研究4 縄文土器Ⅱ』雄山閣

泉拓良 1990 「西日本凸巻文土器の編年」『文化財学報』第8集 奈良大学文学部文化財学科他

弥生土器：菅原康夫他 2000 「阿波地域」『弥生土器の様式と編年 四国編』木耳社

古代の土器：古代の土器研究会編 1992 『古代の土器1 都城の土器集成』

古代の土器研究会編 1993 『古代の土器2 都城の土器集成2』

古代の土器研究会編 1994 『古代の土器3 都城の土器集成3』

古代の土器研究会編 1996 『伴侶的土器様式の西・東3 施釉陶器』古代の土器研究会第3回

シンポジウム

古代の土器研究会編 1996 『律令的土器様式の西・東4 煮炊具』古代の土器研究会第4回

シンポジウム

古代の土器研究会編 1998 『古代の土器5-2 7世紀の土器（近畿西部編）』

黒色土器：森降 1995 「2. 黒色土器」『概説 中世の上器・陶磁器』中世土器研究会

緑釉陶器（高橋編年）：高橋照彦 2003 「平安京近郊の綠釉陶器生産」『古代の土器研究 平安時代の綠釉陶器—生産地の様相を中心に—』古代の土器研究会第7回シンポジウム資料

和泉型瓦器椀：島森康雄 1995 「6. 瓦器椀」『概説 中世の上器・陶磁器』中世土器研究会

西村系須恵器椀（佐藤編年）：佐藤卓馬 2000 「西村系土器椀の系譜」『研究紀要Ⅶ』財團法人香川県埋蔵文化財調査センター

吉備系土師質土器（山本編年）：山本悦世 「吉備系土師器椀の成立と展開」『鹿田遺跡3』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

中世煮炊具：吉成承三 2007 「四国の七製鹽・羽釜・鍋—古代末から中世の上製煮炊具の様相—」

『中近世土器の基礎研究21 土製煮炊具の様相』日本中世土器研究会

島田豊影 2008 「徳島県における中世羽釜の様相」『青蘿』第5号 考古フォーラム蔵本

播磨型羽釜（長谷川編年）：長谷川眞 2007 「播磨における上製煮炊具の様相」『中近世土器の基礎研究21 上製煮炊具の様相』日本中世土器研究会

畿内産瓦質煮炊具（奥井分類）：奥井智子 2007 「畿内における土製煮炊具の様相」『中近世土器の基礎研究21 土製煮炊具の諸様相』日本中世土器研究会

紀伊型鉢付鍋：渋谷高秀 1984 「II 野田地区遺跡」『野田・藤並地区遺跡発掘調査報告書』和歌山県教育委員会

亀山焼甕（草戸編年）：篠原芳秀 1987 「草戸千軒町遺跡の亀山焼甕」『中近世土器の基礎研究Ⅲ』

十瓶山產須恵質土器（佐藤編年）：佐藤卓馬 1993 「香川県十瓶山窯跡群における須恵器編年」『関西大学考古学研究室開設四十周年記念 考古学論叢』

東播系須恵質土器（森田編年）：森田稔 1995 「8. 中世須恵器」『概説中世の土器・陶磁器』中世土器研究会

備前焼（重根編年）：重根弘和 2003 「中世備前焼に関する考察」『山口大学考古学論集』

常滑焼（中野編年）：中野晴久 1995 「9. 中世陶器（常滑・渥美）」『概説中世の土器・陶磁器』中世土器研究会

瀬戸美濃系陶器：財團法人瀬戸市埋蔵文化財センター編 1997 『財團法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要】

愛知県教育委員会編 1985『愛知県古窯跡群分布調査報告（IV）瀬戸・藤岡（瀬戸古窯跡群）』  
肥前系陶磁器：九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年一九州近世陶磁学会10周年記念一』  
青磁・白磁（大宰府分類）：森田勉・横田賛次郎 1978「大宰府出土の輸入陶磁器について 一型式分類と編年  
を中心として」『九州歴史資料館研究論集』4  
青磁（上田分類）：上田秀夫 1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究No.2』  
白磁（森田分類）：森田勉 1982「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究No.2』  
染付（小野分類）：小野正敏 1982「14～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究No.2』  
滑石製石鍋（木戸分類）：木戸雅寿 1995「13. 石鍋」『概説中世の土器・陶磁器』中世土器研究会  
※上記以外の参考・引用文献は各文末に記載する。

17. 調査にあたっては下記の機関の指導・援助を得た。

国土交通省四国地方整備局 徳島県教育委員会

18. 発掘調査・整理期間を通しての方々にご協力・ご教示を得た。記して感謝いたします。

（五十音順・敬称略）

池澤 俊幸	茨木 靖	岡本 和彦	小野 正敏	片桐 孝浩	北野 隆亮	重見 高博
柴田 主子	下川 清	須藤 茂樹	首藤 久上	高島 芳弘	中野 良一	中原 計
中村 豊	橋本 久和	松田 朝由	松村さをり	向井 公紀	森島 康雄	吉成 承三

# 本文目次

## 第1分冊

### 第Ⅰ章 遺跡の立地と環境

1. 地理的環境	1
2. 歴史的環境	3

### 第Ⅱ章 調査の経緯

1. 調査に至る経緯	6
2. 発掘調査および整理業務態勢	7
3. 調査の経過	8
4. 調査日誌抄	13

### 第Ⅲ章 宮ノ本遺跡の調査成果

1. 基本層序	17
2. 造構と遺物	20

#### 【1】縄文時代の造構・遺物

##### (I)地区 第4造構面

竪穴住居状造構(SX)	20
-------------	----

(II)地区 第4包含層出土遺物	25
------------------	----

##### (II)地区 第3造構面

竪穴住居(SB)	28
----------	----

竪穴住居状造構・不明造構(SX)	41
------------------	----

土坑(SK)	47
--------	----

小穴(SP)	51
--------	----

(II)地区 第3包含層出土遺物	51
------------------	----

#### 【2】弥生時代の造構・遺物

##### (I)地区 第2造構面

竪穴住居(SB)	52
----------	----

竪穴住居状造構・不明造構(SX)	78
------------------	----

土坑(SK)	98
--------	----

溝(SD)	116
-------	-----

小穴(SP)	116
--------	-----

(I)地区 第2包含層出土遺物	122
-----------------	-----

(II)地区 第2包含層出土遺物	122
------------------	-----

<b>【3】古代・中世の遺構・遺物</b>	
<b>(I 地区 第1 遺構面)</b>	
豊穴住居 (SB) .....	134
掘立柱建物 (SA) .....	146
柵列 (SG) .....	201
土坑 (SK) .....	209
溝 (SD) .....	255
不明遺構 (SX) .....	292
小穴 (SP) .....	297
(1地区 第1 包含層出土遺物) .....	314
報告書抄録 .....	321
<b>第2分冊</b> _____	
<b>(II地区 第1 遺構面)</b>	
豊穴住居 (SB) .....	3
掘立柱建物 (SA) .....	9
柵列 (SG) .....	64
土坑 (SK) .....	67
溝 (SD) .....	93
不明遺構 (SX) .....	135
小穴 (SP) .....	138
(II地区 第1 包含層出土遺物) .....	158
<b>(III地区 第1 遺構面)</b>	
土坑 (SK) .....	170
溝 (SD) .....	170
小穴 (SP) .....	171
3. 宮ノ木遺跡のまとめ .....	171
縄文時代の様相 .....	171
弥生時代の様相 .....	175
古墳時代・古代・中世・近世の様相 .....	176
<b>第IV章 大原遺跡の調査成果</b>	
1. 基本層序 .....	183
2. 遺構と遺物 .....	183

（1区 第1遺構面）	
掘立柱建物 (SA) .....	183
土坑 (SK) .....	188
溝 (SD) .....	190
不明遺構 (SX) .....	195
小穴 (SP) .....	195
（1区 第1包含層出土遺物） .....	200
（2区 第1遺構面）	
溝 (SD) .....	210
水田跡 (SI) .....	210
3. 大原遺跡のまとめ .....	212
 第V章 庄境遺跡の調査成果	
1. 基本層序 .....	217
2. 遺構と遺物 .....	217
（第1遺構面）	
掘立柱建物 (SA) .....	217
土坑 (SK) .....	217
溝 (SD) .....	223
不明遺構 (SX) .....	223
小穴 (SP) .....	225
（第1包含層出土遺物） .....	229
3. 庄境遺跡のまとめ .....	240
 第VI章 自然科学分析	
1. 宮ノ木遺跡で検出された焼上の考古・古地磁気年代 .....	243
2. 宮ノ木遺跡出土土器の胎土分析 .....	248
3. 宮ノ木遺跡平成17年度調査出土木製品の樹種 .....	254
報告書抄録 .....	258

# 挿図目次

## 【第1分冊】

第1図 宮ノ木遺跡I・大原遺跡・庄境遺跡の位置と周辺の道路	2	第38図 II地区SK3004遺構・遺物実測図	48
第2図 調査地およびグリッド配置図	9	第39図 II地区SK3013遺構・遺物実測図	49
第3図 宮ノ木遺跡調査区・グリッド配置図	11	第40図 II地区SK3018遺構・遺物実測図	49
第4図 大原遺跡グリッド配置図	12	第41図 II地区SK3021遺構・遺物実測図	50
第5図 庄境遺跡グリッド配置図	12	第42図 II地区SK3064遺物実測図	50
第6図 調査区土層堆積状況図(1)	18	第43図 II地区第3包含層遺物実測図	51
第7図 調査区土層堆積状況図(2)	19	第44図 II-3~5・7~10区第2遺構面遺構配置図	53
第8図 II-5区第4遺構面遺構配置図	20	第45図 II地区SB2001遺構実測図	55
第9図 II地区SX4001遺構・遺物実測図	21	第46図 II地区SB2002遺構・遺物実測図	56
第10図 II地区KSX4002遺構・遺物実測図	22	第47図 II地区SB2003遺構実測図	57
第11図 II地区SX4003遺構実測図(1)	24	第48図 II地区SB2003遺構断面図	58
第12図 II地区SX4003遺構実測図(2)	25	第49図 II地区SB2003遺物実測図	58
第13図 II地区SX4003遺物実測図	26	第50図 II地区KS2004遺構・遺物実測図	59
第14図 II地区第4包含層遺物実測図	26	第51図 II地区SB2005遺構実測図	61
第15図 II-3~5区第3遺構面遺構配置図	27	第52図 II地区SB2005遺物実測図	62
第16図 II地区SB3001遺構実測図	29	第53図 II地区SB2006遺構実測図	63
第17図 II地区SB3001遺構断面図	30	第54図 II地区SB2006遺構断面図	64
第18図 II地区SB3001遺物実測図	30	第55図 II地区SB2006遺物実測図	64
第19図 II地区SB3002遺構実測図	31	第56図 II地区SB2007遺構断面図	65
第20図 II地区SB3002遺構断面図	32	第57図 II地区KS2007遺構断面図	66
第21図 II地区KS3002遺物実測図	32	第58図 II地区SB2007遺物実測図(1)	66
第22図 II地区SB3003遺構実測図	33	第59図 II地区SB2007遺物実測図(2)	67
第23図 II地区SB3004遺構実測図	34	第60図 II地区SB2008遺構・遺物実測図(1)	68
第24図 II地区KS3004遺物実測図	35	第61図 II地区SB2008遺物実測図(2)	69
第25図 II地区SB3005遺構・遺物実測図	36	第62図 II地区SB2009遺構実測図	70
第26図 II地区SB3006遺構実測図	37	第63図 II地区SB2009遺構断面図	71
第27図 II地区SB3006遺物実測図	38	第64図 II地区KS2009遺物実測図	71
第28図 II地区SB3007遺構実測図	39	第65図 II地区SB2010遺構・遺物実測図(1)	72
第29図 II地区SB3008遺構実測図	40	第66図 II地区SB2010遺物実測図(2)	74
第30図 II地区SB3008遺物実測図	41	第67図 II地区KS2011遺構実測図	75
第31図 II地区SX3001遺構実測図	42	第68図 II地区SB2011EH1遺物実測図	76
第32図 II地区SX3001遺物実測図	43	第69図 II地区SB2011櫻土遺物実測図(1)	76
第33図 II地区SX3003遺構・遺物実測図	44	第70図 II地区KS2011櫻土遺物実測図(2)	77
第34図 II地区KSX3004遺構・遺物実測図	45	第71図 II地区SX2001遺構実測図	78
第35図 II地区SX3005遺構・遺物実測図	46	第72図 II地区SX2002遺構・遺物実測図	80
第36図 II地区SX3006遺構実測図	47	第73図 II地区SX2003遺構実測図	81
第37図 II地区SK3002遺構・遺物実測図	48	第74図 II地区SX2003遺物実測図	82
		第75図 II地区SX2004遺構実測図	82
		第76図 II地区SX2005遺構・遺物実測図	83
		第77図 II地区SX2006遺構実測図	84

第 78 図 II 地区SX2006遺物火測図	85	第121図 II 地区SD2002遺構断面図	118
第 79 図 II 地区SX2008遺構・遺物実測図	86	第122図 II 地区KSP2036遺物実測図	120
第 80 図 II 地区KSX2010遺構・遺物実測図	87	第123図 II 地区SP2094遺物実測図	120
第 81 図 II 地区SX2012遺構・遺物実測図（1）	88	第124図 II 地区SP2115遺物実測図	120
第 82 図 II 地区SX2012遺構・遺物実測図（2）	89	第125図 II 地区SP2136遺物実測図	120
第 83 図 II 地区SX2013遺構・遺物実測図	90	第126図 II 地区KSP2174遺物実測図	120
第 84 図 II 地区SX2015遺構実測図	91	第127図 II 地区SP2210遺物火測図	120
第 85 図 II 地区KSX2016遺構・遺物実測図	92	第128図 II 地区SP2216遺物実測図	120
第 86 図 II 地区SX2018遺構実測図	92	第129図 II 地区SP2230遺物実測図	120
第 87 図 II 地区SX2018遺物火測図	93	第130図 II 地区SP2240遺物実測図	120
第 88 図 II 地区SX2019遺構・遺物実測図	94	第131図 II 地区KSP2212遺物実測図	120
第 89 図 II 地区SX2020遺物出土・遺物実測図（1）	95	第132図 II 地区SP2261遺物火測図	120
第 90 図 II 地区SX2020遺物火測図（2）	96	第133図 II 地区SP2225遺構・遺物実測図	121
第 91 国 II 地区SX2020遺物実測図（3）	97	第134図 II 地区SP2245遺構・遺物実測図	121
第 92 国 II 地区SK2017遺構・遺物実測図	99	第135図 I 地区第 2 包含層遺物火測図	123
第 93 国 II 地区SK2018遺構実測図	99	第136図 II - 1 ~ 6 区第 2 包含層遺物実測図（1）	124
第 94 国 II 地区SK2018遺物火測図	100	第137図 II - 1 ~ 6 区第 2 包含層遺物実測図（2）	125
第 95 国 II 地区SK2019遺構・遺物実測図	101	第138図 II - 1 ~ 6 区第 2 包含層遺物実測図（3）	126
第 96 国 II 地区SK2020遺構・遺物実測図	101	第139図 II - 1 ~ 6 区第 2 包含層遺物火測図（4）	127
第 97 国 II 地区SK2031遺構・遺物火測図	103	第140図 II - 1 ~ 6 区第 2 包含層遺物実測図（5）	128
第 98 国 II 地区SK2032遺構・遺物実測図	103	第141図 II - 7 ~ 11 区第 2 包含層遺物実測図（1）	130
第 99 国 II 地区SK2033遺構・遺物実測図	103	第142図 II - 7 ~ 11 区第 2 包含層遺物実測図（2）	131
第100図 II 地区KS2034遺構・遺物実測図	104	第143図 II - 7 ~ 11 区第 2 包含層遺物火測図（3）	132
第101図 II 地区SK2035遺構・遺物実測図	104	第144図 II - 7 ~ 11 区第 2 包含層遺物実測図（4）	133
第102図 II 地区SK2042遺構・遺物実測図	106	第145図 I 地区第 1 遺構面遺構配置図	135
第103図 II 地区SK2043遺構・遺物実測図	106	第146図 I - 7 ~ 8 K 第 1 遺構面SA配置図	137
第104図 II 地区KS2048遺構・遺物火測図	107	第147図 I 地区SB1001遺構火測図（1）	139
第105図 II 地区SK2055遺構・遺物実測図	107	第148図 I 地区SB1001遺構火測図（2）	140
第106図 II 地区SK2071遺構・遺物実測図	108	第149図 I 地区SB1001遺構实測図（3）	141
第107図 II 地区KS2078遺構・遺物実測図	108	第150図 I 地区KS1001遺構实測図（4）	142
第108図 II 地区SK2080遺構・遺物実測図	108	第151図 I 地区SB1001遺物火測図（1）	143
第109図 II 地区SK2089遺構・遺物実測図	110	第152図 I 地区SB1001遺物火測図（2）	144
第110図 II 地区SK2091遺構・遺物実測図	110	第153図 I 地区KS1001出土洋分布図	145
第111図 II 地区SK2092遺構火測図	110	第154図 I 地区SA1001遺構・遺物火測図	147
第112図 II 地区SK2092遺物実測図	111	第155図 I 地区SA1002遺構実測図	148
第113図 II 地区SK2094遺構・遺物実測図	112	第156図 I 地区SA1003遺構実測図	148
第114図 II 地区SK2097遺構火測図	112	第157図 I 地区SA1004遺構・遺物火測図	149
第115図 II 地区SK2097遺物実測図	113	第158図 I 地区SA1005遺構火測図	149
第116図 II 地区SK2103遺構・遺物实測図	114	第159図 I 地区SA1006遺構实測図	151
第117図 II 地区SK2104遺構火測図	114	第160図 I 地区SA1059遺構火測図・遺物火測図	151
第118図 II 地区SK2104遺物火測図	115	第161図 I 地区SA1060遺構火測図・遺物火測図	152
第119図 II 地区SK2105遺構・遺物实測図	117	第162図 I 地区SA1011遺構火測図	152
第120図 II 地区SK2106遺構・遺物实測図	118	第163図 I 地区SA1061遺構・遺物实測図	154

第164图	I 地区SA1007遭構実測図	154	第207图	I 地区SA1042遭構実測図	186
第165图	I 地区SA1008遭構・遺物実測図	155	第208图	I 地区SA1043遭構実測図	186
第166图	I 地区SA1009遭構実測図	157	第209图	I 地区SA1044遭構実測図	187
第167图	I 地区SA1010遭構実測図	157	第210图	I 地区SA1045遭構実測図	187
第168图	I 地区SA1012遭構実測図	158	第211图	I 地区SA1046遭構実測図	188
第169图	I 地区SA1013遭構・遺物実測図	159	第212图	I 地区SA1047遭構実測図	188
第170图	I 地区SA1014遭構実測図	160	第213图	I 地区SA1048遭構・遺物実測図	190
第171图	I 地区SA1015遭構実測図	160	第214图	I 地区SA1067遭構実測図	190
第172图	I 地区SA1016遭構・遺物実測図	161	第215图	I 地区SA1049遭構・遺物実測図	191
第173图	I 地区SA1017遭構実測図	161	第216图	I 地区SA1050遭構実測図	191
第174图	I 地区SA1018遭構実測図	162	第217图	I 地区SA1051遭構実測図	193
第175图	I 地区SA1019遭構実測図	162	第218图	I 地区SA1054遭構実測図	193
第176图	I 地区SA1020遭構・遺物実測図	163	第219图	I 地区SA1052遭構・遺物実測図	194
第177图	I 地区SA1021遭構実測図	163	第220图	I 地区SA1053遭構実測図	194
第178图	I 地区SA1022遭構実測図	164	第221图	I 地区SA1055遭構・遺物実測図	195
第179图	I 地区SA1023遭構実測図	164	第222图	I 地区SA1056遭構実測図	197
第180图	I 地区SA1024遭構実測図	165	第223图	I 地区SA1057遭構実測図	197
第181图	I 地区SA1062遭構実測図	165	第224图	I 地区SA1068遭構実測図	198
第182图	I 地区SA1025遭構実測図	167	第225图	I 地区SA1069遭構実測図	198
第183图	I 地区SA1025遭構実測図	167	第226图	I 地区SA1070遭構実測図	199
第184图	I 地区SA1040遭構実測図	167	第227图	I 地区SA1071遭構実測図	199
第185图	I 地区SA1040遭構実測図	167	第228图	I 地区SA1058遭構実測図	200
第186图	I 地区SA1041遭構実測図	167	第229图	I 地区SA1072遭構実測図	200
第187图	I 地区SA1026遭構実測図	168	第230图	I 地区SA1073遭構実測図	200
第188图	I 地区SA1027遭構・遺物実測図	168	第231图	I 地区SG1001遭構実測図	202
第189图	I 地区SA1028遭構・遺物実測図	170	第232图	I 地区SG1002遭構実測図	202
第190图	I 地区SA1029遭構実測図	170	第233图	I 地区SG1002 EP1遭構・遺物実測図	202
第191图	I 地区SA1030遭構実測図	171	第234图	I 地区SG1003遭構・遺物実測図	203
第192图	I 地区SA1030遭構実測図	172	第235图	I 地区SG1104遭構実測図	203
第193图	I 地区SA1031遭構・遺物実測図	173	第236图	I 地区SG1005遭構実測図	203
第194图	I 地区SA1032遭構・遺物実測図	175	第237图	I 地区SG1006遭構実測図	203
第195图	I 地区SA1033遭構・遺物実測図	175	第238图	I 地区SG1007遭構実測図	203
第196图	I 地区SA1034遭構・遺物実測図	176	第239图	I 地区SG1008遭構実測図	205
第197图	I 地区SA1035遭構・遺物実測図	177	第240图	I 地区SG1009遭構実測図	205
第198图	I 地区SA1036遭構実測図	178	第241图	I 地区SG1010遭構実測図	205
第199图	I 地区SA1037遭構実測図	178	第242图	I 地区SG1011遭構実測図	205
第200图	I 地区SA1037 EP5遭構・遺物実測図	179	第243图	I 地区SG1012遭構実測図	207
第201图	I 地区SA1038遭構実測図	179	第244图	I 地区SG1013遭構実測図	207
第202图	I 地区SA1039遭構・遺物実測図	181	第245图	I 地区SG1014遭構実測図	207
第203图	I 地区SA1063遭構・遺物実測図	183	第246图	I 地区SG1015遭構実測図	207
第204图	I 地区SA1064遭構実測図	183	第247图	I 地区SG1016遭構実測図	208
第205图	I 地区SA1065遭構・遺物実測図	184	第248图	I 地区SG1017遭構実測図	208
第206图	I 地区SA1066遭構実測図	185	第249图	I 地区SG1018遭構実測図	208

第260图	I 地区SG1019遗構実測図	208	第293图	I 地区SK1296遺構・遺物実測図	233
第251图	I 地区SK1020遺構実測図	210	第294图	I 地区SK1297遺構・遺物実測図	234
第252图	I 地区SK1001遺構・遺物実測図	210	第295图	I 地区SK1302遺構・遺物実測図	234
第253图	I 地区SK1002遺構・遺物実測図	211	第296图	I 地区SK1304遺構・遺物実測図	234
第254图	I 地区SK1014遺構・遺物実測図	212	第297图	I 地区SK1310遺構・遺物実測図 (1)	236
第255图	I 地区SK1023遺構・遺物実測図	212	第298图	I 地区SK1310遺物実測図 (2)	237
第256图	I 地区SK1025遺構・遺物実測図	213	第299图	I 地区SK1310遺物実測図 (3)	238
第257图	I 地区SK1040遺構実測図	213	第300图	I 地区SK1318遺構・遺物実測図	238
第258图	I 地区SK1040遺物実測図	215	第301图	I 地区SK1325遺構・遺物実測図	240
第259图	I 地区SK1043遺構・遺物実測図	215	第302图	I 地区SK1326遺構・遺物実測図	240
第260图	I 地区SK1046遺構・遺物実測図	215	第303图	I 地区SK1327遺構・遺物実測図	241
第261图	I 地区SK1052遺構・遺物実測図	216	第304图	I 地区SK1332遺構・遺物実測図	241
第262图	I 地区SK1090遺構・遺物実測図	216	第305图	I 地区SK1343遺構・遺物実測図	241
第263图	I 地区SK1101遺構・遺物実測図	217	第306图	I 地区SK1349遺構・遺物実測図	243
第264图	I 地区SK1103遺構・遺物実測図	217	第307图	I 地区SK1352遺構・遺物実測図	243
第265图	I 地区SK1105遺構・遺物実測図	217	第308图	I 地区SK1355遺構・遺物実測図	244
第266图	I 地区SK1114遺構・遺物実測図	219	第309图	I 地区SK1372遺構・遺物実測図	244
第267图	I 地区SK1120遺構・遺物実測図	219	第310图	I 地区SK1378遺構・遺物実測図	244
第268图	I 地区SK1136遺構・遺物実測図	219	第311图	I 地区SK1384遺構・遺物実測図	245
第269图	I 地区SK1149遺構・遺物実測図	220	第312图	I 地区SK1385遺構・遺物実測図	245
第270图	I 地区SK1152遺構・遺物実測図	220	第313图	I 地区SK1413遺構・遺物実測図	245
第271图	I 地区SK1156遺構・遺物実測図	220	第314图	I 地区SK1425遺構・遺物実測図	247
第272图	I 地区SK1158遺構・遺物実測図	222	第315图	I 地区SK1435遺構・遺物実測図	247
第273图	I 地区SK1173遺構・遺物実測図	222	第316图	I 地区SK1465遺構・遺物実測図	247
第274图	I 地区SK1175遺構・遺物実測図	222	第317图	I 地区SK1475遺構・遺物実測図	249
第275图	I 地区SK1176遺構・遺物実測図	224	第318图	I 地区SK1496遺構・遺物実測図	249
第276图	I 地区SK1177遺構・遺物実測図	224	第319图	I 地区SK1497遺構・遺物実測図	250
第277图	I 地区SK1180遺構・遺物実測図	224	第320图	I 地区SK1508遺構・遺物実測図	250
第278图	I 地区SK1181遺構・遺物実測図	225	第321图	I 地区SK1515遺構・遺物実測図	251
第279图	I 地区SK1185遺構・遺物実測図	225	第322图	I 地区SK1517遺構・遺物実測図	251
第280图	I 地区SK1186遺構・遺物実測図	225	第323图	I 地区SK1519遺構・遺物実測図	251
第281图	I 地区SK1206遺構・遺物実測図	227	第324图	I 地区SK1529遺構・遺物実測図	251
第282图	I 地区SK1210遺構・遺物実測図	227	第325图	I 地区SK1533・1534遺構実測図	253
第283图	I 地区SK1220遺構・遺物実測図	227	第326图	I 地区SK1533遺物実測図 (1)	253
第284图	I 地区SK1239遺構実測図	229	第327图	I 地区SK1533遺物実測図 (2)	254
第285图	I 地区SK1244遺構・遺物実測図	229	第328图	I 地区SK1534遺物実測図	254
第286图	I 地区SK1257遺構・遺物実測図	229	第329图	I 地区SK1541遺構・遺物実測図	254
第287图	I 地区SK1274遺構・遺物実測図	230	第330图	I 地区SD1001遺構断面図	257
第288图	I 地区SK1275遺構・遺物実測図	230	第331图	I 地区SD1002・1003・1004 遺構・遺物実測図	257
第289图	I 地区SK1284遺構・遺物実測図	230	第332图	I 地区SD1005遺構・遺物実測図	258
第290图	I 地区SK1287遺構・遺物実測図	232	第333图	I 地区SD1011遺構・遺物実測図	260
第291图	I 地区SK1294遺構・遺物実測図	232	第334图	I 地区SD1024遺構・遺物実測図	260
第292图	I 地区SK1295遺構・遺物実測図	233			

第335回	I 地区SD1025遺構・遺物実測図	262	第378回	I 地区SP10167遺物実測図	301
第336回	I 地KSD1027遺構・遺物実測図（1）	264	第379回	I 地区SP10168遺物実測図	301
第337回	I 地区SD1027遺物実測図（2）	265	第380回	I 地区SP10339遺構・遺物実測図	301
第338回	I 地区SD1028遺構・遺物実測図（1）	267	第381回	I 地KSP10385遺構・遺物実測図	304
第339回	I 地区SD1028遺物実測図（2）	268	第382回	I 地区SP10392遺物実測図	304
第340回	I 地KSD1028遺物実測図（3）	270	第383回	I 地区SP10655遺物実測図	304
第341回	I 地KSD1028遺物実測図（4）	271	第384回	I 地区SP10664遺物実測図	304
第342回	I 地区SD1028遺物実測図（5）	272	第385回	I 地区SP10734遺物実測図	304
第343回	I 地区SD1028遺物実測図（6）	273	第386回	I 地KSP10823遺物実測図	304
第344回	I 地KSD1029遺構・遺物実測図	275	第387回	I 地区SP11088遺物実測図	304
第345回	I 地KSD1030遺構・遺物実測図	275	第388回	I 地区SP11229遺物実測図	304
第346回	I 地区SD1038遺構・遺物実測図	276	第389回	I 地区SP11264遺物実測図	306
第347回	I 地区SD1044遺構・遺物実測図	276	第390回	I 地区SP11280遺物実測図	306
第348回	I 地KSD1045遺構・遺物実測図	276	第391回	I 地区SP11294遺物実測図	306
第349回	I 地KSD1048遺構・遺物実測図	276	第392回	I 地区SP11314遺物実測図	306
第350回	I 地区SD1049遺構・遺物実測図	278	第393回	I 地KSP11331遺物実測図	306
第351回	I 地区SD1052遺構・遺物実測図（1）	278	第394回	I 地区SP11355遺物実測図	306
第352回	I 地KSD1052遺物実測図（2）	279	第395回	I 地区SP11430遺物実測図	306
第353回	I 地区SD1055遺構・遺物実測図	279	第396回	I 地KSP11473遺物実測図	306
第354回	I 地区SD1056遺構・遺物実測図（1）	282	第397回	I 地区SP11480遺物実測図	306
第355回	I 地KSD1056遺物実測図（2）	283	第398回	I 地区SP11502遺物実測図	308
第356回	I 地KSD1056遺物実測図（3）	285	第399回	I 地区SP11523遺物実測図	308
第357回	I 地区SD1056遺物実測図（4）	286	第400回	I 地KSP11559遺物実測図	308
第358回	I 地区SD1056遺物実測図（5）	287	第401回	I 地区SP11590遺物実測図	308
第359回	I 地KSD1056遺物実測図（6）	288	第402回	I 地区SP11633遺構・遺物実測図	308
第360回	I 地KSD1057遺構・遺物実測図（1）	290	第403回	I 地KSP11643遺物実測図	311
第361回	I 地区SD1057遺物実測図（2）	291	第404回	I 地区SP11668遺物実測図	311
第362回	I 地KSD1058遺構・遺物実測図	291	第405回	I 地区SP11705遺物実測図	311
第363回	I 地KSD1059遺構・遺物実測図	293	第406回	I 地KSP11743遺物実測図	311
第364回	I 地区SD1060遺構・遺物実測図	293	第407回	I 地KSP11755遺物実測図	311
第365回	I 地区SX1005遺構・遺物実測図	295	第408回	I 地区SP11771遺物実測図	311
第366回	I 地KXSX1008遺構・遺物実測図（1）	296	第409回	I 地区SP11838遺物実測図	311
第367回	I 地区SX1008遺物実測図（2）	297	第410回	I 地区SP11870遺物実測図	311
第368回	I 地区SX1009遺構・遺物実測図	298	第411回	I 地区SP11908遺構・遺物実測図	311
第369回	I 地KXSX1011遺構・遺物実測図	299	第412回	I 地区SP11998遺物実測図	311
第370回	I 地区SP10002遺物実測図	301	第413回	I 地KSP12110遺物実測図	311
第371回	I 地区SP10055遺物実測図	301	第414回	I 地区SP12359遺構・遺物実測図	313
第372回	I 地KSP10117遺物実測図	301	第415回	I 地区SP12553遺物実測図	313
第373回	I 地区SP10123遺物実測図	301	第416回	I 地KSP12554遺物実測図	313
第374回	I 地区SP10130遺物実測図	301	第417回	I 地区SP12589遺物実測図	313
第375回	I 地KSP10132遺物実測図	301	第418回	I 地区SP12614遺構・遺物実測図	313
第376回	I 地KSP10139遺物実測図	301	第419回	I 地区SP12638遺物実測図	315
第377回	I 地区SP10166遺物実測図	301	第420回	I 地区SP12670遺物実測図	315

第421図 I 地区SP12671遺物実測図	315	第462図 II 地区SA1045遺構実測図	30
第422図 I 地区SP12673遺物実測図	315	第463図 II 地区SA1045遺物実測図	30
第423図 I 地区SP12678遺構・遺物実測図	315	第464図 II 地区SA1046遺構・遺物実測図	32
第424図 I 地区SP12685遺物実測図	315	第465図 II 地区SA1047遺構実測図	32
第425図 I 地区SP12816遺物実測図	315	第466図 II 地区SA1048遺構実測図	33
第426図 I 地区SP13152遺構・遺物実測図	315	第467図 II 地区SA1049遺構・遺物実測図	33
第427図 I 地区第1 包含層遺物実測図（1）	317	第468図 II 地区SA1050遺構実測図	34
第428図 I 地区第1 包含層遺物実測図（2）	318	第469図 II 地区SA1051遺構実測図	36
第429図 I 地区第1 包含層遺物実測図（3）	319	第470図 II 地区SA1052遺構・遺物実測図	36
<b>【第2分冊】</b>			
第430図 II 地区第1遺構面遺構配置図	1	第471図 II 地区SA1019遺構実測図	37
第431図 II - 4・5区 第1遺構面SA配置図	3	第472図 II 地区SA1020遺構実測図	37
第432図 II - 7~11区 第1遺構面SA配置図	4	第473図 II 地区SA1021遺構・遺物実測図	38
第433図 II - 3~5区SD土層断面位置図	5	第474図 II 地区SA1022遺構実測図	40
第434図 II 地区KS1B001 EII下部構造平面図	6	第475図 II 地区SA1024遺構実測図	40
第435図 II 地区SB1001遺構実測図（1）	6	第476図 II 地区SA1024遺物実測図	40
第436図 II 地区SB1001遺構実測図（2）	7	第477図 II 地区SA1023遺構実測図	42
第437図 II 地区SB1001遺物実測図	8	第478図 II 地区SA1023遺構・遺物実測図	43
第438図 II 地区SA1001遺構実測図	9	第479図 II 地区SA1025遺構・遺物実測図	44
第439図 II 地区SA1002遺構・遺物実測図	9	第480図 II 地区SA1026遺構・遺物実測図	45
第440図 II 地区SA1003遺構・遺物実測図	12	第481図 II 地区SA1053遺構・遺物実測図	46
第441図 II 地区SA1004遺構実測図	13	第482図 II 地区SA1054遺構・遺物実測図	46
第442図 II 地区SA1005遺構実測図	13	第483図 II 地区SA1055遺構・遺物実測図	47
第443図 II 地区SA1006遺構実測図	14	第484図 II 地区SA1028遺構実測図	47
第444図 II 地区SA1007遺構実測図	14	第485図 II 地区SA1027遺構実測図	48
第445図 II 地区SA1008遺構・遺物実測図	15	第486図 II 地区SA1029遺構・遺物実測図	50
第446図 II 地区SA1009遺構実測図	16	第487図 II 地区SA1030遺構実測図	50
第447図 II 地区SA1009遺構断面図	17	第488図 II 地区SA1031遺構実測図	51
第448図 II 地区SA1009遺物実測図	18	第489図 II 地区SA1032遺構実測図	51
第449図 II 地区SA1010遺構実測図	20	第490図 II 地区SA1033遺構実測図	52
第450図 II 地区SA1010遺物実測図	21	第491図 II 地区SA1034遺構実測図	52
第451図 II 地区SA1011遺構実測図	22	第492図 II 地区SA1056遺構実測図	53
第452図 II 地区SA1011遺物実測図	23	第493図 II 地区SA1056遺物実測図	53
第453図 II 地区SA1012遺構・遺物実測図	24	第494図 II 地区SA1057遺構実測図	53
第454図 II 地区SA1013遺構実測図	25	第495図 II 地区SA1057遺物実測図	53
第455図 II 地区SA1014遺構実測図	26	第496図 II 地区SA1058遺構実測図	55
第456図 II 地区SA1014遺構・遺物実測図	27	第497図 II 地区SA1035遺構実測図	55
第457図 II 地区SA1015遺構実測図	27	第498図 II 地区SA1036遺構・遺物実測図	56
第458図 II 地区SA1016遺構実測図	29	第499図 II 地区SA1037遺構・遺物実測図	58
第459図 II 地区SA1017遺構・遺物実測図	29	第500図 II 地区SA1038遺構・遺物実測図	58
第460図 II 地区SA1018遺構実測図	30	第501図 II 地区SA1039遺構・遺物実測図	59
第461図 II 地区SA1018遺物実測図	30	第502図 II 地区SA1040遺構実測図	59
		第503図 II 地区SA1041遺構実測図	61
		第504図 II 地区SA1042遺構実測図	61

第505図	II地区SKA1043遺構実測図	62	第548図	II地区SK1209遺構・遺物実測図	86
第506図	II地区SKA1044遺構実測図	63	第549図	II地区SK1211遺構・遺物実測図	87
第507図	II地区SKA1059遺構実測図	63	第550図	II地区SK1212遺構・遺物実測図	87
第508図	II地区SKA1060遺構実測図	64	第551図	II地区SK1213遺構・遺物実測図	87
第509図	II地区SKA1061遺構実測図	64	第552図	II地区SK1215遺構・遺物実測図	89
第510図	II地区SG1001遺構実測図	65	第553図	II地区SK1216遺構・遺物実測図	89
第511図	II地区SG1002遺構実測図	65	第554図	II地区SK1256遺構・遺物実測図	90
第512図	II地区SG1003遺構実測図	65	第555図	II地区SK1262遺構・遺物実測図	90
第513図	II地区KSG1004遺構実測図	66	第556図	II地区SK1267遺構・遺物実測図	92
第514図	II地区SG1005遺構実測図	66	第557図	II地区SK1271遺構・遺物実測図	92
第515図	II地区SG1005 EP5遺物実測図	66	第558図	II地区SK1277遺構・遺物実測図	92
第516図	II地区SG1006遺構実測図	66	第559図	II地区SK1290遺構・遺物実測図	92
第517図	II地区KSG1007遺構実測図	68	第560図	II地区SK1315遺構・遺物実測図	94
第518図	II地区SG1008遺構実測図	68	第561図	II地区SK1335遺構・遺物実測図	94
第519図	II地区SG1009遺構実測図	68	第562図	II地区SK1338遺構・遺物実測図	94
第520図	II地区KSG1010遺構実測図	68	第563図	II地区SD1001遺構・遺物実測図	95
第521図	II地区SK1008遺構・遺物実測図	70	第564図	II地区SD1002・SX1002遺構断面図	97
第522図	II地区SK1010遺構・遺物実測図	70	第565図	II地区SD1002遺物実測図	97
第523図	II地区SK1011遺構・遺物実測図	70	第566図	II地区SX1002遺物実測図	98
第524図	II地区SK1015遺構・遺物実測図	71	第567図	II地区SD1004遺構・遺物実測図	99
第525図	II地区SK1021遺構・遺物実測図	71	第568図	II地区SD1005遺構・遺物実測図	101
第526図	II地区SK1024遺構・遺物実測図	71	第569図	II地区SD1006遺構断面図	102
第527図	II地区SK1026遺構・遺物実測図	73	第570図	II地区SD1007遺構実測図	102
第528図	II地区SK1028遺構・遺物実測図	73	第571図	II地区SD1006・1007遺物実測図	103
第529図	II地区SK1029遺構・遺物実測図	73	第572図	II地区SD1007遺物実測図	104
第530図	II地区SK1034遺構・遺物実測図	75	第573図	II地区SD1009遺構・遺物実測図	106
第531図	II地区SK1058遺構・遺物実測図	75	第574図	II地区SD1012遺構・遺物実測図	106
第532図	II地区SK1075遺構・遺物実測図	76	第575図	II地区SD1013遺構・遺物実測図	108
第533図	II地区SK1093遺構・遺物実測図	76	第576図	II地区SD1014遺構・遺物実測図	108
第534図	II地区SK1094遺構・遺物実測図	76	第577図	II地区SD1015遺構断面図	108
第535図	II地区SK1096遺構・遺物実測図	78	第578図	II地区SD1021遺構・遺物実測図	110
第536図	II地区SK1097遺構・遺物実測図	78	第579図	II地区SD1024遺構・遺物実測図	110
第537図	II地区SK1104遺構・遺物実測図	78	第580図	II地区SD1030遺構・遺物実測図	112
第538図	II地区SK1105遺構・遺物実測図	80	第581図	II地区SD1031遺構・遺物実測図	112
第539図	II地区SK1108遺構・遺物実測図	80	第582図	II地区SD1033・1034遺構・遺物実測図	112
第540図	II地区SK1109遺構・遺物実測図	80	第583図	II地区SD1033遺物実測図	113
第541図	II地区SK1125遺構・遺物実測図	81	第584図	II地区SD1034遺物実測図	113
第542図	II地区SK1137遺構・遺物実測図	83	第585図	II地区SD1035遺構・遺物実測図	115
第543図	II地区SK1139遺構・遺物実測図	83	第586図	II地区SD1036遺構・遺物実測図（1）	115
第544図	II地区SK1151遺構・遺物実測図	83	第587図	II地区SD1036遺物実測図（2）	117
第545図	II地区SK1177遺構・遺物実測図	84	第588図	II地区SD1041遺構・遺物実測図	117
第546図	II地区SK1190遺構・遺物実測図	84	第589図	II地区SD1046遺構・遺物実測図	117
第547図	II地区SK1197遺構・遺物実測図	86	第590図	II地区SD1053遺構・遺物実測図	119

第591图	II 地区KSD1059遗物·遗物实测图	120	第634图	II 地区SP10491遗物实测图	145
第592图	II 地区SD1060遗物断面图	120	第635图	II 地区SP10520遗物实测图	145
第593图	II 地区KSD1062遗物·遗物实测图	122	第636图	II 地区SP10530遗物实测图	145
第594图	II 地区SD1063遗物·遗物实测图	122	第637图	II 地区SP10638遗物实测图	145
第595图	II 地区SD1066遗物·遗物实测图	123	第638图	II 地区SP10654遗物实测图	145
第596图	II 地区SD1067遗物断面图	124	第639图	II 地区SP10682遗物实测图	145
第597图	II 地区KSD1067遗物实测图 (1)	125	第640图	II 地区SP10684遗物实测图	145
第598图	II 地区KSD1067遗物实测图 (2)	126	第641图	II 地区KSP10705遗物实测图	145
第599图	II 地区SD1067遗物实测图 (3)	127	第642图	II 地区KSP10736遗物实测图	145
第600图	II 地区SD1067遗物实测图 (4)	128	第643图	II 地区SP10742遗物实测图	145
第601图	II 地区SD1067遗物实测图 (5)	129	第644图	II 地区SP10773遗物实测图	145
第602图	II 地区SD1067遗物实测图 (6)	130	第645图	II 地区KSP10832遗物实测图	147
第603图	II 地区KSD1068遗物·遗物实测图	134	第646图	II 地区SP10874遗物实测图	147
第604图	II 地区SD1069遗物·遗物实测图	134	第647图	II 地区SP11023遗物·遗物实测图	147
第605图	II 地区SD1075遗物·遗物实测图	134	第648图	II 地区KSP11028遗物实测图	147
第606图	II 地区KSD1077遗物·遗物实测图	134	第649图	II 地区SP11229遗物实测图	147
第607图	II 地区SX1001遗物·遗物实测图	136	第650图	II 地区SP11240遗物实测图	147
第608图	II 地区SX1004遗物·遗物实测图	136	第651图	II 地区SP11357遗物实测图	147
第609图	II 地区SX1005遗物·遗物实测图	136	第652图	II 地区KSP11471遗物实测图	147
第610图	II 地区SX1008遗物·遗物实测图	137	第653图	II 地区SP11480遗物实测图	149
第611图	II 地区SX1010遗物·遗物实测图	137	第654图	II 地区SP11495遗物实测图	149
第612图	II 地区SP10027遗物实测图	139	第655图	II 地区KSP11547遗物实测图	149
第613图	II 地区KSP10033遗物实测图	139	第656图	II 地区SP11620遗物实测图	149
第614图	II 地区SP10192遗物实测图	139	第657图	II 地区SP11655遗物实测图	149
第615图	II 地区SP10193遗物实测图	139	第658图	II 地区SP11677遗物实测图	149
第616图	II 地区SP10199遗物实测图	139	第659图	II 地区KSP11679遗物实测图	149
第617图	II 地区KSP10202遗物实测图	139	第660图	II 地区SP11741遗物实测图	149
第618图	II 地区SP10213遗物实测图	139	第661图	II 地区SP11745遗物实测图	149
第619图	II 地区SP10215遗物实测图	139	第662图	II 地区SP11766遗物实测图	149
第620图	II 地区KSP10229遗物实测图	139	第663图	II 地区SP11877遗物实测图	149
第621图	II 地区SP10251遗物实测图	139	第664图	II 地区SP11881遗物实测图	149
第622图	II 地区SP10259遗物·遗物实测图	139	第665图	II 地区SP11914遗物实测图	149
第623图	II 地区KSP10263遗物实测图	139	第666图	II 地区SP11934遗物实测图	153
第624图	II 地区SP10269遗物实测图	142	第667图	II 地区SP11978遗物实测图	153
第625图	II 地区SP10292遗物实测图	142	第668图	II 地区SP12096遗物实测图	153
第626图	II 地区KSP10306遗物实测图	142	第669图	II 地区SP12126遗物实测图	153
第627图	II 地区SP10315遗物·遗物实测图	142	第670图	II 地区SP12240遗物实测图	153
第628图	II 地区SP10321遗物实测图	142	第671图	II 地区SP12274遗物实测图	153
第629图	II 地区SP10348遗物实测图	142	第672图	II 地区KSP12315遗物实测图	153
第630图	II 地区KSP10351遗物实测图	142	第673图	II 地区SP12356遗物实测图	153
第631图	II 地区SP10352遗物实测图	142	第674图	II 地区SP12387遗物实测图	153
第632图	II 地区SP10359遗物实测图	142	第675图	II 地区SP12388遗物实测图	153
第633图	II 地区KSP10376遗物实测图	145	第676图	II 地区SP12510遗物实测图	153

第677図	II 地区KSP12515遺物実測図	153	第720図	1 区SD1009遺構・遺物実測図	193
第678図	II 地区SP12532遺物実測図	156	第721図	1 KSD1011遺構・遺物実測図	193
第679図	II 地区SP12538遺物実測図	156	第722図	1 KSD1012遺構・遺物実測図	193
第680図	II 地区KSP12559遺物実測図	156	第723図	1 区SX1001遺構・遺物実測図	194
第681図	II 地区KSP12629遺物実測図	156	第724図	1 区SX1002遺構・遺物実測図	196
第682図	II 地区SP12647遺物実測図	156	第725図	1 KSP1077遺物実測図	198
第683図	II 地区SP12668遺物実測図	156	第726図	1 KSP1129遺物実測図	198
第684図	II 地区SP12892遺物実測図	156	第727図	1 区SP1143遺物実測図	198
第685図	II 地区KSP13085遺物実測図	156	第728図	1 区SP1174遺物実測図	198
第686図	II 地区SP13108遺物実測図	156	第729図	1 区SP1182遺物実測図	198
第687図	II 地区SP13248遺物実測図	156	第730図	1 KSP1214遺物実測図	198
第688図	II 地区KSP13268遺物実測図	156	第731図	1 区SP1229遺物実測図	198
第689図	II 地区KSP13299遺物実測図	156	第732図	1 区SP1231遺物実測図	198
第690図	II 地区SP13318遺物実測図	156	第733図	1 KSP1238遺物実測図	198
第691図	II 地区SP13323遺物実測図	156	第734図	1 区SP1240遺物実測図	198
第692図	II 地区KSP13355遺物実測図	157	第735図	1 区SP1250遺物実測図	198
第693図	II 地区SP13387遺物実測図	157	第736図	1 区SP1253遺物実測図	198
第694図	II - 1 ~ 6 区 第1包含層遺物実測図 (1)	160	第737図	1 KSP1270遺物実測図	198
第695図	II - 1 ~ 6 区 第1包含層遺物実測図 (2)	161	第738図	1 区SP1284遺物実測図	198
第696図	II - 1 ~ 6 区 第1包含層遺物実測図 (3)	162	第739図	1 区SP1286遺物実測図	198
第697図	II - 1 ~ 6 区 第1包含層遺物実測図 (4)	163	第740図	1 KSP1308遺物実測図	199
第698図	II - 7 ~ 11 区 第1包含層遺物実測図 (1)	165	第741図	1 区SP1325遺物実測図	199
第699図	II - 7 ~ 11 区 第1包含層遺物実測図 (2)	167	第742図	1 区SP1341遺物実測図	199
第700図	II - 7 ~ 11 区 第1包含層遺物実測図 (3)	168	第743図	1 区SP1348遺物実測図	199
第701図	III 地区 第1遺構面遺構配置図	169	第744図	1 KSP1361遺物実測図	199
第702図	III 地区SK1006遺構・遺物実測図	170	第745図	1 区第1包含層遺物実測図 (1)	201
第703図	III 地区KSD1001遺構・遺物実測図	170	第746図	1 区第1包含層遺物実測図 (2)	202
第704図	III 地区SP1024遺物実測図	170	第747図	1 区第1包含層遺物実測図 (3)	203
第705図	宮ノ本遺跡古代～近世遺構断面図	177	第748図	1 区第1包含層遺物実測図 (4)	204
第706図	1 KSD 第1遺構面遺構配置図	181	第749図	1 区第1包含層遺物実測図 (5)	205
第707図	1 区SA1001遺構断面図	184	第750図	1 区第1包含層遺物実測図 (6)	206
第708図	1 区SA1002遺構・遺物実測図	185	第751図	1 KSD 第1包含層遺物実測図 (7)	207
第709図	1 KSA1003遺構実測図	186	第752図	1 区第1包含層遺物実測図 (8)	208
第710図	1 区SA1004遺構断面図	186	第753図	2 区第1遺構面遺構配置図	211
第711図	1 区SA1005遺構・遺物実測図	187	第754図	2 KSD1001遺構・遺物実測図	211
第712図	1 区SA1006遺構実測図	188	第755図	2 区SI1001・1002遺物実測図	211
第713図	1 KSK1002遺構・遺物実測図	189	第756図	第1 遺構面遺構配置図	215
第714図	1 区SK1022遺構・遺物実測図	190	第757図	SA1001遺構・遺物実測図	218
第715図	1 区SD1001遺構断面図	191	第758図	SK1008遺構・遺物実測図	219
第716図	1 KSD1001護岸斜石列平面・立面図	191	第759図	SK1009遺構・遺物実測図	220
第717図	1 区SD1001遺物実測図	192	第760図	SK1010遺構・遺物実測図	220
第718図	1 区SD1002遺構断面図	192	第761図	SK1014遺構・遺物実測図	221
第719図	1 KSD1006遺構断面図	193	第762図	SK1016遺構・遺物実測図	221

第763図 SK1020遺構・遺物実測図	222	第789図 壁面（左）および平面採取試料（右）の段階交流消磁・主成分分析による残留磁化方向とその平均方向（ただし平均方向は構内で囲まれた試料の結果のみを使用して求められている）	245
第764図 SK1023遺構・遺物実測図	222	第790図 採取土壤の磁気的性質（帯磁率と残留磁化強度の関係）	246
第765図 SD1001遺構・遺物実測図	222	第791図 過去2,000年間の考古地磁気標準曲線（Maenaka, 1990）と壁面および平面採取試料から求めた平均方向（平均と95%の	
第766図 SD1002遺構・遺物実測図	224	均と95%の信頼円）の比較	246
第767図 SX1001遺構・遺物実測図	224	第792図 5000年～2000年BPの標準古地磁気曲線（Hyodo他, 1993）と平面採取試料から求めた平均方向（平均と95%の	
第768図 SX1002遺構・遺物実測図	226	信頼円）の比較	246
第769図 SP1007遺物実測図	226	第793図 7500年～5000年BPの標準古地磁気曲線（Hyodo他, 1993）と平面採取試料から求めた平均方向（平均と95%の	
第770図 SP1024遺物実測図	226	信頼円）の比較	246
第771図 SP1025遺物実測図	226	第794図 宮ノ本遺跡出土上器全器種の胎土比較（K-Ca散布図）	250
第772図 SP1032遺物実測図	226	第795図 宮ノ本遺跡出土瓦器種ほかの産地推定（K-Ca散布図）	250
第773図 SP1049遺構・遺物実測図	226		
第774図 SP1056遺物実測図	228		
第775図 SP1057遺物実測図	228		
第776図 SP1063遺物実測図	228		
第777図 SP1066遺物実測図	228		
第778図 SP1068遺物実測図	228		
第779図 SP1069遺物実測図	228		
第780図 SP1073遺物実測図	228		
第781図 第1包含層遺物実測図（1）	230	【第3分冊】	
第782図 第1包含層遺物実測図（2）	231	第796図 法量計測部位・部分名称	1
第783図 第1包含層遺物実測図（3）	232		
第784図 第1包含層遺物実測図（4）	233		
第785図 第1包含層遺物実測図（5）	234		
第786図 第1包含層遺物実測図（6）	235		
第787図 第1包含層遺物実測図（7）	236		
第788図 パイロット試料（試料5, 15, 25, 35）	245		
の段階交流消磁結果	245		

## 表 目 次

### 【第1分冊】

第1表 宮ノ本遺跡調査区一覧

### 【第2分冊】

第2表 第4期の建物規模

178

第3表 残留磁化・帯磁率測定結果のまとめ

244

第4表 宮ノ本遺跡胎土分析試料一覧表

249

第5表 宮ノ本遺跡出土木製品の樹種

254

# 遺構一覧表・遺物觀察表 目次

## 【第3分冊】

### 宮ノ本遺跡 遺構一覧表・遺物觀察表

第1表 宮ノ本遺跡Ⅰ・Ⅱ地区掘立柱建物一覧表	5
第2表 宮ノ本遺跡Ⅰ・Ⅱ地区樋列一覧表	7
第3表 宮ノ本遺跡Ⅱ地区第4遺構面検出遺構一覧表 不明遺構	8
第4表 宮ノ本遺跡Ⅱ地区第4遺構面検出遺構一覧表 土坑	8
第5表 宮ノ本遺跡Ⅱ地区第4遺構面検出遺構一覧表 柱穴	8
第6表 宮ノ本遺跡Ⅱ地区第3遺構面検出遺構一覧表 堅穴住居	8
第7表 宮ノ本遺跡Ⅱ地区第3遺構面検出遺構一覧表 不明遺構	10
第8表 宮ノ本遺跡Ⅱ地区第3遺構面検出遺構一覧表 土坑	10
第9表 宮ノ本遺跡Ⅱ地区第3遺構面検出遺構一覧表 柱穴	11
第10表 宮ノ本遺跡Ⅱ地区第2遺構面検出遺構一覧表 堅穴住居	13
第11表 宮ノ本遺跡Ⅱ地区第2遺構面検出遺構一覧表 不明遺構	15
第12表 宮ノ本遺跡Ⅱ地区第2遺構面検出遺構一覧表 土坑	17
第13表 宮ノ本遺跡Ⅱ地区第2遺構面検出遺構一覧表 溝	19
第14表 宮ノ本遺跡Ⅱ地区第2遺構面検出遺構一覧表 柱穴	20
第15表 宮ノ本遺跡Ⅰ地区第1遺構面検出遺構一覧表 堅穴住居	26
第16表 宮ノ本遺跡Ⅰ地区第1遺構面検出遺構一覧表 掘立柱建物 柱穴	26
第17表 宮ノ本遺跡Ⅰ地区第1遺構面検出遺構一覧表 樋列 柱穴	41
第18表 宮ノ本遺跡Ⅰ地区第1遺構面検出遺構一覧表 土坑	44
第19表 宮ノ本遺跡Ⅰ地区第1遺構面検出遺構一覧表 溝	58
第20表 宮ノ本遺跡Ⅰ地区第1遺構面検出遺構一覧表 不明遺構	60
第21表 宮ノ本遺跡Ⅰ地区第1遺構面検出遺構一覧表 柱穴	61
第22表 宮ノ本遺跡Ⅱ地区第1遺構面検出遺構一覧表 堅穴住居	121
第23表 宮ノ本遺跡Ⅱ地区第1遺構面検出遺構一覧表 掘立柱建物 柱穴	121

第24表 宮ノ本遺跡Ⅱ地区第1遺構面検出遺構一覧表 樋列 柱穴	136
第25表 宮ノ本遺跡Ⅱ地区第1遺構面検出遺構一覧表 土坑	137
第26表 宮ノ本遺跡Ⅱ地区第1遺構面検出遺構一覧表 溝	145
第27表 宮ノ本遺跡Ⅱ地区第1遺構面検出遺構一覧表 不明遺構	150
第28表 宮ノ本遺跡Ⅱ地区第1遺構面検出遺構一覧表 柱穴	150
第29表 宮ノ本遺跡Ⅲ地区第1遺構面検出遺構一覧表 土坑	216
第30表 宮ノ本遺跡Ⅲ地区第1遺構面検出遺構一覧表 溝	216
第31表 宮ノ本遺跡Ⅲ地区第1遺構面検出遺構一覧表 柱穴	216
第32表 宮ノ本遺跡Ⅰ～Ⅲ地区出土遺物觀察表 上器・陶磁器	217
第33表 宮ノ本遺跡Ⅰ～Ⅲ地区出土遺物觀察表 金属製品	311
第34表 宮ノ本遺跡Ⅰ～Ⅲ地区出土遺物觀察表 石器・石製品	312
第35表 宮ノ本遺跡Ⅱ地区出土遺物觀察表 木製品	316
大原遺跡 遺構一覧表・遺物觀察表	
第36表 大原遺跡Ⅰ区掘立柱建物一覧表	319
第37表 大原遺跡Ⅰ区検出遺構一覧表 掘立柱建物 柱穴	319
第38表 大原遺跡Ⅰ区検出遺構一覧表 土坑	320
第39表 大原遺跡Ⅰ区検出遺構一覧表 溝	320
第40表 大原遺跡Ⅰ区検出遺構一覧表 不明遺構	320
第41表 大原遺跡Ⅰ区検出遺構一覧表 柱穴	320
第42表 大原遺跡Ⅱ区検出遺構一覧表 溝	326
第43表 大原遺跡Ⅱ区検出遺構一覧表 水田面	326
第44表 大原遺跡Ⅰ・Ⅱ区出土遺物觀察表 土器・陶磁器	326
第45表 大原遺跡Ⅰ区出土遺物觀察表 木製品	336
庄境遺跡 遺構一覧表・遺物觀察表	
第46表 庄境遺跡掘立柱建物一覧表	339
第47表 庄境遺跡検出遺構一覧表 掘立柱建物 柱穴	339
第48表 庄境遺跡検出遺構一覧表 土坑	339
第49表 庄境遺跡検出遺構一覧表 溝	339
第50表 庄境遺跡検出遺構一覧表 不明遺構	339
第51表 庄境遺跡検出遺構一覧表 柱穴	339
第52表 庄境遺跡出土遺物觀察表 土器・陶磁器	341
第53表 庄境遺跡出土遺物觀察表 金属製品	350

# 写 真 目 次

## 【第1分冊】

- 写真1 平成16年度開催の現地説明会 ..... 8  
写真2 コメと疑われる炭化種子(上盛りは1mm) ..... 35

## 【第2分冊】

- 写真3 実体顕微鏡写真(試料番号1~23) ..... 252  
写真4 実体顕微鏡写真(試料番号32~40) ..... 253  
写真5 1861 板状木製品:スギ ..... 256  
写真6 1862 漆器輪:ケヤキ ..... 256  
写真7 1863 漆器輪:クリ ..... 257  
写真8 2097 漆器輪:トチノキ ..... 257  
写真9 2098 漆器輪:トチノキ ..... 257

# 図 版 目 次

## 【第1分冊】

- 巻首図版1 宮ノ本遺跡全景(西から) 左上の林は泉八幡  
神社。右下はI-4区第1遺構面(中世)  
巻首図版2 宮ノ本遺跡II-5区第2遺構面(南東から)  
弥生時代前期の堅穴住居  
宮ノ本遺跡II地区SX2020 弥生土器  
ミニチュア廠(197) 出土状況  
巻首図版3 宮ノ本遺跡II-4区第1遺構面(中世)  
完掘状況(西から)  
宮ノ本遺跡II-3区第1遺構面完掘状況  
(南から) 中世の区画溝と近世の掘立柱建物

## 【第3分冊】

### 宮ノ本遺跡 遺構写真図版・遺物写真図版

- 図版1 1 II地区から桑野川下流を望む  
2 I地区から桑野川上流を望む  
図版2 1 I地区 調査前風景(東から)  
2 II地区 調査前風景(西から)  
3 II地区 第4遺構面完掘状況(北東から)  
4 II地区 SX4001 墓出土状況(北から)  
図版3 1 II-4区 第3遺構面完掘状況(西から)  
2 II-5区 第3遺構面完掘状況(南西から)  
図版4 1 II地区 SB3001 完掘状況(北から)  
2 II地区 SB3002 完掘状況(北から)  
3 II地区 SB3004EEH1 十層堆積状況  
4 II地区 SB3004 完掘状況(北から)

### II地区 SB3005 完掘状況(北から)

- 6 II地区 SB3006 完掘状況(東から)  
7 II地区 SB3007 完掘状況(北から)  
8 II地区 SB3008 完掘状況(東から)  
図版5 1 II-4区 第2遺構面検出状況(北西から)  
2 II-5区 第2遺構面検出状況(東から)  
3 II-7区 第2遺構面検出状況(北から)  
図版6 1 II-4区 第2遺構面完掘状況(東から)  
2 II-5区 第2遺構面完掘状況(南西から)  
図版7 1 II地区 SB2001 土層堆積状況  
2 II地区 SB2001 完掘状況(北から)  
3 II地区 SB2002 遺物出土状況(南から)  
4 II地区 SB2002 完掘状況(北から)  
5 II地区 SB2003 完掘状況(東から)  
6 II地区 SB2004 完掘状況(北から)  
7 II地区 SB2005 遺物出土状況(北から)  
8 II地区 SB2005 完掘状況(西から)  
図版8 1 II地区 SB2007 遺物出土状況(西から)  
2 II地区 SB2007 大型石包丁出土状況  
(東から)  
3 II地区 SB2007・SB2008 完掘状況  
(西から)  
4 II地区 SB2011 遺物出土状況(東から)  
5 II地区 SB2010 弥生土器出土状況  
(西から)  
6 II地区 SB2010EK1 土層堆積状況  
7 II地区 SB2010 完掘状況(南から)  
8 II地区 SB2011 遺物出土状況(東から)

図版9	1 II地区 SX2002 遺物出土状況（北から）	(西から)
	2 II地区 SX2004 完掘状況（南から）	5 I地区 SB1001 窟内遺物出土状況 (南から)
	3 II地区 SX2018 遺物出土状況（東から）	6 I地区 SB1001 窟内遺物出土状況 (北から)
	4 II地区 SX2020 遺物出土状況	7 I地区 SB1001 窟内遺物出土状況 (東から)
	5 II地区 SX2020 ミニチュア壺出土状況	
	6 II地区 SX2020 甕生土器出土状況	図版18 1 I地区 SB1001 窟完掘状況（南から）
	7 II地区 SK2018 甕生土器出土状況 (西から)	2 I地区 SB1001 完掘状況（南から）
図版10	8 II地区 SK2104 遺物出土状況（南西から）	図版19 1 I-8区 第1遺構面完掘状況（東から）
1	1-I区 第1遺構面検出状況（北東から）	2 I地区 SD1056 遺物出土状況（西から）
2	I地区 SP12359 遺物出土状況	3 I地区 SD1056 C-C' 断面土層堆積状況
3	I地区 SD1005 遺物出土状況	
4	I地区 SD1002~SD1004 完掘状況 (西から)	4 I地区 SP12359 遺物出土状況
5	I-1区 第1遺構面完掘状況（北から）	5 I-8地区 北壁土層堆積状況
図版11	1 I-2区 第1遺構面完掘状況（東から）	図版20 1 I-9区 第1遺構面完掘状況（北から）
2	I地区 SP10385 遺物出土状況（東から）	2 I地区 SK1533・1534 炭化物・焼土出土 状況（北から）
3	I地区 SA1018 完掘状況（南から）	
4	I-1地区 北壁土層堆積状況	図版21 1 I地区 SK1533・1534 炭化物・焼土検出 (東から)
5	I-1区 確認トレランチ土層	2 I地区 SK1533 炭化物検出状況（東から）
図版12	1 I地区 遺構削削作業風景	3 I地区 SK1534 烧土出土状況（東から）
2	I地区 精査作業風景	4 I地区 SK1533・1534 完掘状況（西から）
3	I-3区 第1遺構面検出状況（東から）	5 I-10・11区 完掘状況（東から）
4	I地区 SK1181 鋏刀出土状況（東から）	図版22 1 II-1区 第1遺構面完掘状況（北から）
5	I-3区 第1遺構面検出状況（北東から）	2 II地区 SB1001 完掘状況（南から）
図版13	1 I-4区 第1遺構面検出状況（南から）	3 II地区 SB1001 窟内遺物出土状況
2	I-4区 第1遺構面完掘状況（南から）	4 II地区 SB1001EK1 遺物出土状況 (北から)
3	I-4区 第1遺構面に坑葬（西から）	
4	I-4区 第1遺構面完掘状況（西から）	図版23 1 II-3区 第1遺構面完掘状況（南から）
図版14	1 I-6区 第1遺構面完掘状況（東から）	2 II-3区 第1遺構面検出状況（南西から）
2	I-7区 第1遺構面検出状況（北から）	3 II地区 SA1003EP3 灰明皿出土状況
図版15	1 I-7区 第1遺構面完掘状況（北から）	4 II地区 SA1005EP3 柱木質部検出状況
2	I地区 SA1031EP8 遺物出土状況 (東から)	5 II地区 SA1006EP2 柱木質部検出状況
3	I地区 SK1287 遺物出土状況（東から）	図版24 1 II地区 SD1004 遺物出土状況（東から）
4	I地区 SD1018 遺物出土状況（西から）	2 II地区 SD1004 瓦器検出状況
図版16	1 I地区 SK1310 遺物出土状況（西から）	3 II地区 SD1007 遺物出土状況（北から）
2	I地区 SK1310 下位遺物出土状況 (西から)	4 II地区 SD1007 瓦器検出状況
3	I地区 SP11480 遺物出土状況（北から）	5 II地区 SD1007 A-A' 断面土層堆積状況 (南から)
4	I地区 SP11908 遺物出土状況（北から）	6 II地区 SD1013 A-A' 断面土層堆積状況 (南から)
図版17	1 I地区 SB1001 遺物出土状況（北から）	図版25 1 II-4区 第1遺構面完掘状況（北東から）
2	I地区 SB1001 遺物出土状況（西から）	2 II-4区 第1遺構面完掘状況（東から）
3	I地区 SB1001 窟内遺物出土状況 (東から)	
4	I地区 SB1001 窟より東側遺物出土状況	図版26 1 II地区 SK1125 完掘状況（東から）
		2 II地区 SK1125 遺物出土状況（南西から）

3	II地区	SD1001	A-A'	断面上層堆積状況	2	II地区	SK2017	出土遺物	
4	II地区	SD1002	B-B'	断面土層堆積状況	3	II地区	SK2018	出土遺物	
5	II地区	SX1002		土層断面	4	II地区	SK2048	出土遺物	
6	II-4区	確認トレンチ土層堆積状況 (北から)			図版37	1	II地区	SK2092	出土遺物
7	II地区	測量風景				2	II地区	SK2105	出土遺物
図版27	1	II-5区	第1邊縫面完掘状況(西から)			3	I地区	第2包含層出土遺物	
	2	II-5区東部	第1邊縫面完掘状況(北から)			4	II地区	第2包含層出土遺物(1)	
図版28	1	II-7-9区	第1邊縫面完掘状況(西から)		図版38	II地区	第2包含層出土遺物(2)		
	2	II-7-9区	第1邊縫面完掘状況(東から)		図版39	II地区	第2包含層出土遺物(3)		
図版29	1	II-8区	第1邊縫面完掘状況(西から)		図版40	I地区	SB1001	出土遺物	
	2	II地区	SD1067	A-A' 断面土層堆積状況	図版41	1	I地区	SA1030EP23	出土遺物
	3	II地区	SD1067	C-C' 断面土層堆積状況		2	I地区	SA1031EP8	出土遺物
	4	II地区	SD1067	B-B' 断面土層堆積状況		3	I地区	SA1035EP2	出土遺物
	5	II地区	SD1067	不明木製品出土状況		4	I地区	SA1037EP5	出土遺物
図版30	1	II地区	SK1216	遺物出土状況(西から)		5	I地区	SA1039EP1	出土遺物
	2	II地区	SK1277	遺物出土状況(北から)		6	I地区	SA1055EP7	出土遺物
	3	II地区	SA1036EP1	滑石製品出土状況 (北から)	図版42	1	I地区	SG1002EP1	出土遺物
	4	II-9区	南壁土層堆積状況			2	I地区	SK1002	出土遺物
	5	II地区	東部から西を望む (中央上部に泉幡神社)			3	I地区	SK1176	出土遺物
図版31	1	II地区	SX4001	出土遺物		4	I地区	SK1274	出土遺物
	2	II地区	SX4003	出土遺物		5	I地区	SK1296	出土遺物
	3	II地区	SB3001	出土遺物	図版43	1	I地区	SK1310	出土遺物
	4	II地区	SB3002	出土遺物		2	I地区	SK1325	出土遺物
図版32	1	II地区	SB3004	出土遺物		3	I地区	SK1349	出土遺物
	2	II地区	SB3006	出土遺物		4	I地区	SK1372	出土遺物
	3	II地区	SX3001	出土遺物		5	I地区	SK1475	出土遺物
	4	II地区	SX3004	出土遺物		6	I地区	SD1002~1004	出土遺物
	5	II地区	SK3002	出土遺物	図版44	1	I地区	SD1005	出土遺物
	6	II地区	SK3004	出土遺物		2	I地区	SD1025	出土遺物
	7	II地区	SK3013	出土遺物		3	I地区	SD1027	出土遺物
	8	II地区	第3包含層出土遺物			4	I地区	SD1028	出土遺物(1)
図版33	1	II地区	SB2003	出土遺物	図版45	1	I地区	SD1028	出土遺物(2)
	2	II地区	SB2005	出土遺物		2	I地区	SD1043	出土遺物
	3	II地区	SB2006	出土遺物	図版46	1	I地区	SD1052	出土遺物
	4	II地区	SB2007	出土遺物(1)		2	I地区	SD1055	出土遺物
図版34	1	II地区	SB2007	出土遺物(2)		3	I地区	SD1056	出土遺物
	2	II地区	SB2008	出土遺物		4	I地区	SD1057	出土遺物
	3	II地区	SB2010	出土遺物	図版47	1	I地区	SX1008	出土遺物
図版35	1	II地区	SB2011	出土遺物		2	I地区	SP10132	出土遺物
	2	II地区	SX2012	出土遺物		3	I地区	SP11743	出土遺物
	3	II地区	SX2013	出土遺物		4	I地区	SP11908	出土遺物
	4	II地区	SX2018	出土遺物	図版48	1	I地区	SP12359	出土遺物
図版36	1	II地区	SX2020	出土遺物		2	I地区	SP12678	出土遺物
						3	I地区	SP12816	出土遺物
						4	I地区	第1包含層出土遺物(1)	

図版49	I 地区 第1包含層出土遺物 (2)		
図版50	II 地区 SB1001 出土遺物		
図版51	1 II 地区 SA1003EP3 出土遺物 2 II 地区 SA1008EP6 出土遺物 3 II 地区 SA1010EP11 出土遺物 4 II 地区 SA1011EP1 出土遺物 5 II 地区 SA1012EP3 出土遺物 6 II 地区 SA1049EP2 出土遺物		
図版52	1 II 地区 SA1052EP5 出土遺物 2 II 地区 SA1023EP21 出土遺物 3 II 地区 SA1036EP1 出土遺物 4 II 地区 SA1037EP6 出土遺物 5 II 地区 SA1039EP7 出土遺物 6 II 地区 SK1011 出土遺物 7 II 地区 SK1105 出土遺物 8 II 地区 SK1125 出土遺物		
図版53	1 II 地区 SK1139 出土遺物 2 II 地区 SK1151 出土遺物 3 II 地区 SK1197 出土遺物 4 II 地区 SK1216 出土遺物 5 II 地区 SK1267 出土遺物 6 II 地区 SD1001 出土遺物 7 II 地区 SX1002 出土遺物		
図版54	1 II 地区 SD1004 出土遺物 2 II 地区 SD1006・SD1007 出土遺物		
図版55	1 II 地区 SD1024 出土遺物 2 II 地区 SD1033・1034 出土遺物 3 II 地区 SD1033 出土遺物 4 II 地区 SD1041 出土遺物 5 II 地区 SD1053 出土遺物 6 II 地区 SD1063 出土遺物		
図版56	1 II 地区 SD1066 出土遺物 2 II 地区 SD1067 出土遺物		
図版57	1 II 地区 SD1067 山土遺物 2 II 地区 SX1001 出土遺物 3 II 地区 SP10259 出土遺物 4 II 地区 SP10292 出土遺物 5 II 地区 SP10315 出土遺物		
図版58	1 II 地区 SP10352 出土遺物 2 II 地区 SP10736 山土遺物 3 II 地区 SP11240 出土遺物 4 II 地区 SP11620 出土遺物 5 II 地区 SP12515 出土遺物 6 II 地区 SP12559 出土遺物 7 II 地区 SP12668 出土遺物 8 II 地区 SP13318 出土遺物		
		9 II 地区 SP13387 出土遺物	
図版59	II 地区 第1包含層出土遺物 (1)		
図版60	1 II 地区 第1包含層出土遺物 (2) 2 宮ノ本遺跡 出土鉢貨		
	大原遺跡 遺構写真図版・遺物写真図版		
図版61	1 1 区 調査前風景 2 1 区 第1遺構面完掘状況 (南から) 3 1 区 第1遺構面完掘状況 (南から)		
図版62	1 1 区 SA1001 完掘状況 (東から) 2 1 区 SD1001 完掘状況 (東から) 3 1 区 SD1001 石列検出状況 (南から) 4 1 区 SK1002 木桶検出状況 (北から)		
図版63	1 1 区 SX1001 遺物出土状況 (東から) 2 1 区 SP1330 柱痕出土状況 (南から) 3 1 区 第1遺構面 弥生土器出土状況 4 1 区 東壁土層堆積状況 5 2 区 調査前風景 6 2 区 完掘状況 (南西から)		
図版64	1 1 区 SX1001 出土遺物 2 1 区 SP1182 出土遺物 3 第1包含層 出土遺物 (1)		
図版65	第1包含層 出土遺物 (2)		
図版66	第1包含層 出土遺物 (3)		
	庄境遺跡 遺構写真図版・遺物写真図版		
図版67	1 調査前風景 2 第1遺構面完掘状況 (北東から) 3 第1遺構面完掘状況 (北東から)		
図版68	1 第1遺構面完掘状況 (北東から) 2 第1包含層遺物出土状況 3 第1遺構面直上遺物出土状況 4 西壁土層堆積状況 5 SP1049 須恵器円筒瓦出土状況 (西から)		
図版69	1 SA1001 EP2 出土遺物 2 SK1008 出土遺物 3 SX1002 出土遺物 4 SP1049 出土遺物		
図版70	第1包含層 出土遺物 (1)		
図版71	第1包含層 出土遺物 (2)		
図版72	第1包含層 出土遺物 (3)		

## 付 図 目 次

- 付図1 宮ノ本遺跡II地区 第3遺構面 遺構配置図
- 付図2 宮ノ本遺跡II地区 第2遺構面 遺構配置図
- 付図3 宮ノ本遺跡I-1・2区 第1遺構面 遺構配置図
- 付図4 宮ノ本遺跡I-3~8区 第1遺構面 遺構配置図
- 付図5 宮ノ本遺跡I-9~11区 第1遺構面 遺構配置図
- 付図6 宮ノ本遺跡II-1~6区 第1遺構面 遺構配置図
- 付図7 宮ノ本遺跡II-7~11区 第1遺構面 遺構配置図
- 付図8 宮ノ本遺跡I・II区 第1遺構面 全体図

# 第Ⅰ章 遺跡の立地と環境

## 1. 地理的環境

四国東部に位置する徳島県は東西約100km、南北約75km、総面積4,145.90km<sup>2</sup>（平成19年4月1日現在）で、四国の約22%を占める。県土の8割以上が山地であるのに対し、平野は吉野川流域や勝浦川・那賀川下流域など2割弱に過ぎない。

県北部では中央構造線によって東西方向の直線的な地溝をつくる。中央構造線の北側は西南日本内帯に属し、領家帯と呼ばれる岩石帯が分布する。県下では中生代白亜紀後期に形成された砂岩系の堆積層である和泉層群によって構成され、讃岐山脈の南半を形成する。中央構造線南側を西南日本外帯といい、北から順に三波川変成帯（結晶片岩類）・御荷鉢帶（緑色岩類）・秩父累帯（砂岩・泥岩・石灰岩・チャート・塩基性凝灰岩など）により構成されるとよばれる岩石帯が分布し、四国山地北部を形成する。

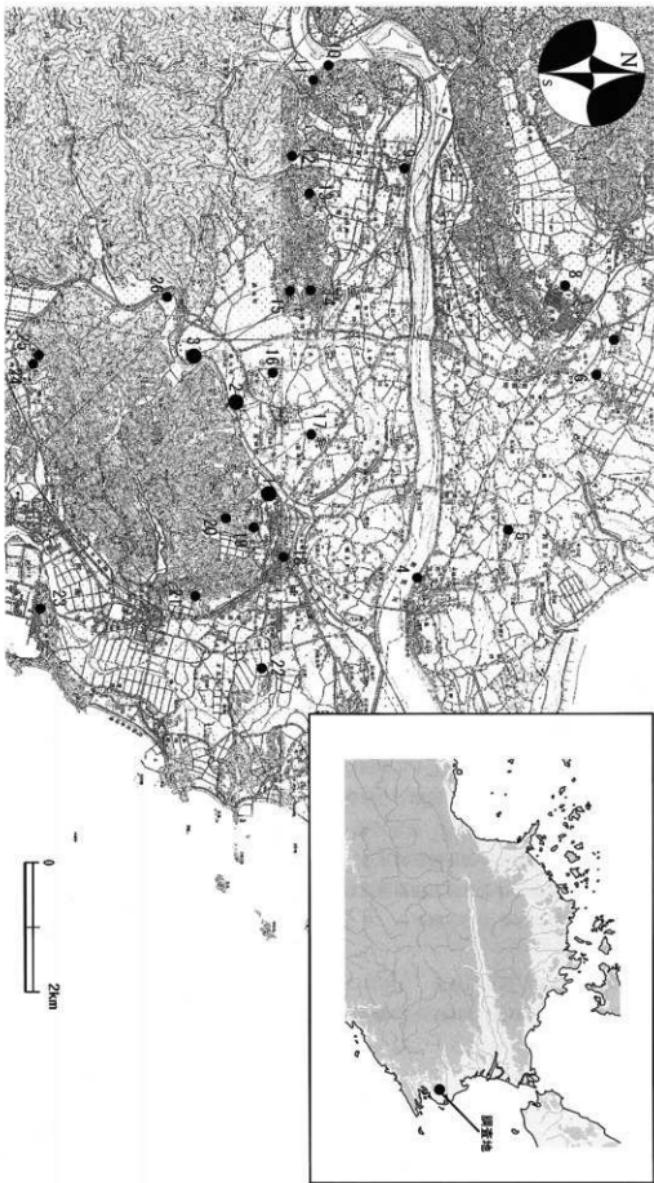
調査地付近では砂岩・泥岩やチャートが目立つ。橋津付近では四国カルストから東に延びる石灰岩層が露出し、現在も採掘される。調査地の南東10km、椿泊地区の燧崎ではチャートの大規模な露頭がみられ、近代まで火打ち石として採掘されていた。また上大野地区の城山では県内では希少な花崗岩の分布域である。造岩年代が約4億年前に遡るとみられ、我が国でもっとも古い岩石の一つである。通常の花崗岩とは異なり、花崗閃綠岩に属し、圧碎のため要母や長石は緑泥石に変質する。

那賀川は四国山地に源を発し、東流して紀伊水道に注ぐ全長約125km、流域面積781km<sup>2</sup>の一級河川で、徳島県内では吉野川に次ぐ規模を誇る。流域の9割は急峻な山地で、上流から中流部にかけては河岸段丘を形成しながら山間部を穿入蛇行する。下流部では様相を一変させ、河口から10km余り遡った阿南市上大野町付近からは三角州性扇状地が両岸に発達し、その先端部は円弧状の海岸線を形成しながら、北は小松島湾、南は橋津まで延びる。これによって形成された約10km四方の沖積平野を通称那賀川平野といふ。

四国山地や海部山地を形成する周辺の山々からは、坂出木頭川、南川、紅葉川、古屋谷川、赤松川など多くの支流が流れ込む。阿南市中央部を南西から北東に向かって貫流する全長約25.4kmの桑野川も、海部山地の東に位置する矢筈山を水源とする那賀川水系の一つである。源流から約20kmは途中に新野、桑野の盆地を形成しながら山間部を蛇行し、下流では津乃峰山塊の北麓に沿って那賀川の沖積平野を約5km東流し海岸線近くで那賀川と合流する。遺跡付近の川幅は50m前後である。

今回の調査地点は、上流から大原・宮ノ本・庄境の各遺跡がそれぞれ1kmほどの間隔をあけて位置する。大原・宮ノ本の両遺跡は桑野川左岸に広がる標高3.5~4mの沖積平野上（地形分類上は谷底平野）に立地する。また那賀川によって形成された扇状地が南に張り出すため、宮ノ本遺跡の西700m大原遺跡の北500m付近では潟湖性低湿地となり、水はけはきわめて悪い。両遺跡とも肌理の細かいシルト質土壤をベースとする。庄境遺跡は桑野川右岸、標高3.5mの三角州性扇状地上に立地する。砂礫を多量に含む砂質土壤をベースにする。

遺跡が位置する阿南市は、2006年に那賀川町・羽ノ浦町を編入し、面積279km<sup>2</sup>、人口7万7千人となった。平均気温17.2℃、降雪はほとんどなく温暖な気候である。発光ダイオードの生産拠点があることから、近年「光の街」として脚光を浴びる。



第1図 宮ノ本遺跡・大原遺跡・庄城遺跡の位置と周辺の遺跡

## 2. 歴史的環境 (第1回)

那賀川は県下第二の大河であるが、吉野川流域とは対照的に流域の考古学的調査に恵まれることが少なかった地域である。那賀川平野の阿南市大野町から上中町周辺や、桑野川流域の桑野町から長生町、宝田町にかけての地域でこれまで確認された遺跡は、農地開墾や土木工事による不時発見や、古墳・城跡などが大半で、集落遺跡の確認事例などは各時代を通じてごく少数である。しかしながらこれまでに発見された遺跡の中には考古学的に重要な意味を持つものも少なくない。

本地域で確認された最古の遺跡は旧石器時代まで遡る。桑野町廿枝遺跡は、1967年、宅地造成の際に発見された本地域で最も古い時代の遺跡で、ナイフ形石器などの旧石器が出土している。これらは県南部で最もまとまった旧石器の資料であるばかりでなく、チャートを主要な石器素材としており、サヌカイトを主要な素材とする占屋川流域とは一線を画す。

縄文時代の遺跡は、ながらく廿枝遺跡採集のチャート製石器群が唯一のものだったが、土器と共にしなかったため、詳細時期は不明であった。ところが廿枝遺跡の南西約3kmにある新野町葉池谷遺跡が2003年に発掘調査され、廿枝遺跡と同じチャート製打製石器などの石器群が、縄文時代前中期の大歳山式や中期初頭の鷹島式・船元I式と共に見出されたことから、廿枝遺跡の時期を推測する手がかりが得られた。

那賀川中流域の占屋岩陰遺跡は、1965年に徳島県博物館によって発掘調査が実施され、縄文時代早期の押型土器や条痕文土器が打製石器や骨角器などを伴って出土した。三好市の加茂谷川岩陰遺跡群とともに県下では数少ない岩陰遺跡である。2000年には四国最東端の蒲生田岬先端部で縄文時代中・後期の蒲生田遺跡が、また2002年には蒲生田岬の南約16kmに位置する美波町田井ノ浜で、前期～中期の田井遺跡が発見され、沿岸部でも縄文遺跡が広く分布することが明らかになりつつある。

弥生時代にはいると遺跡数は増加する。水井町若杉山遺跡は那賀川の支流、若杉谷川に面した急峻な斜面上に立地する遺跡である。調査では砂岩製石皿・石杵など反矽製造に関連する遺物が出土し、弥生時代後期末～古墳時代初頭の水銀朱生産遺跡であることが明らかになった。上大野遺跡は、かつて磨製石斧などが採集された城山遺跡に隣接した遺跡である。1992年、養護学校建設に伴う発掘調査の際、標高62mの瘦尾根上から弥生時代中期の円形竪穴住居が一棟検出された。住居立地の特徴とともに、県南初の弥生時代の竪穴住居跡である。不時発見の遺跡であるが、富岡町石塚の正福寺山遺跡では弥生時代中期末の遺物とともに竪穴住居状遺構が検出されている。津乃峰山塊北端部の標高20～30m地点に位置しており、急峻な地形でかつ紀伊水道を望める眺望をもつことから、高地性集落とする見方もある。

また本地域では銅鐸の存在が注目される。阿南市内からは現在までに5遺跡で7点の銅鐸が発見されているが、そのうち伝長者ヶ原銅鐸（山口町）・田村谷銅鐸（同町）・八貫瀬銅鐸（中大野町）・畠田銅鐸（下大野町畠田）の5点が、那賀川下流右岸から桑野川流域にかけての地域で出土している。

古墳時代にはいると、県下では主要な河川流域や沿岸部に古墳が広く分布する。県南唯一の前方後円墳である国高山古墳は、津乃峰山塊から桑野盆地に向かって延びる丘陵上に築かれた全長55mの中規古墳である。竪穴式石室からは、内行花文鏡や鉄劍、鉄斧、鉄簇、鉄鎌、單甲などの金属製品や石製刀子、土製勾玉などの豊富な副葬品が出土し、埴丘からは円筒埴輪列を検出している。県下の前方後円墳は少數で、その分布域も吉野川流域にはほぼ限定されている状況にあって、那賀川流域に大規模な墳丘と豊富な遺物を伴う前方後円墳が単独で存在していることは、この時代に至って県南部に大きな勢力が伸張し

たことを物語る。その実態を窺う史料として平安時代の『先代旧事本紀』巻十の「国造本記」に、吉野川流域は栗国造、勝浦川・那賀川流域は長国造が宰領するとしており、『続日本紀』宝龟4年（773年）5月7日条にも阿波国勝浦郡領として国造に与えられる直姓を称した長氏の存在が確認できることが挙げられる。時代的には懸隔があるものの、本地域に独自勢力が存在した可能性として呈示しておく。古墳時代後期には、那賀川平野に面した丘陵部や沖積地の独立丘陵上には觀音山古墳（羽ノ浦町中庄）・能路寺山古墳（羽ノ浦町宮倉）・皇子山古墳群（日開野町土子川）・八榊山古墳群（長生町西方）・学原劍塚古墳（学原町）などが営まれる。

大化の改新以降、勝浦川以南には長郡が設置されたが、710年代半ばに勝浦郡が、さらに平安末期には海部郡が分置される。930年代編纂の「和名抄」にみえる那賀郡の8ヶ郷のうち、調査地近辺に関連するのは人野郷・和泉郷である。大野郷は上大野町・中大野町・下大野町一帯を、和泉郷は宝山町・長生町付近の地を充てる説がある。条里に関係する地名は大野地区の小字に「三条」「九ノ坪」が残る。宝田町宇都（こおり）は地名から那賀道衙に比定する説がある。

宝田町には白鳳期の瓦が出土した立善寺跡があり、瓦の散布範囲や地名などから方一町の寺城をもつと考えられている。1993～95年の調査では基壇状構造や溝・柱穴が検出され、平安時代後期の瓦が出土したため、それまで存続したことが確実視できる。津乃峰山塊南麓の内原町に所在する内原成松窯跡群では、立善寺跡出土瓦と同胞の八葉単弁蓮華文軒丸瓦が含まれることから、同寺の瓦生産地と考えられる。本窯跡群では瓦とともに須恵器を焼成している。出土遺物の大部分は8世紀代中葉の須恵器が占めており、内原の山裾一帯が須恵器の生産拠点であった可能性が高いと考えられる。

平安時代以降、莊園制の発達とともに県下でも70を超える数の莊園が記録に残る。那賀川下流域は吉野川流域とともに莊園の密集地帯である。宮ノ本遺跡が所在する竹原莊は宝田・長生両町域に位置する莊園である。保元二年（1157年）藤原頼長領であったが保元の乱による頼長敗死によって後白河院領となり、のち皇室領として伝領し竹原野御莊と称される。長寛元年（1163年）の「二品家政所下文」では二品家が当莊領主である八榊神社に金泥法華經・開結經・阿弥陀經・般若心經などのほか莊内の水田五段を寄進し、貢納船安全とともに國家安泰・皇室隆盛・自家幸福を祈願している。また当莊園には元永元年（1118年）藤原損闇家（忠実）領竹原牧があり、竹原莊成立とともに吸収されたとみられる。

河口部右岸の沖積地には仁和寺領牛牧領があり、建仁三年（1203年）の初見である。現在の富岡町西端部に庄境の地名があり、庄境遺跡が所在する。本地名は牛牧・竹原両莊の位階關係から、両莊の境界を意味するものと考えられる。このほか那賀川流域では宝莊巣院領大野莊（平治元年1159年初見）、長講堂領那賀山莊（建久二年1191年初見）がみえる。桑野川流域では桑野盆地に伊勢神宮領桑野御厨を前身とする桑野保（建武三年1336年初見）が、新野盆地には阿良多野莊がみえる。

これら莊園の領主である本家・領家や、現地管理者である莊官・地頭などは、時代の経過とともに変遷を辿る。竹原莊の場合、承元二年（1209年）の「竹原御庄政所下文」によると本家は仁和寺、領家職は立善寺に移行している。のち領家職は領家分と地頭分に分割され、観応二年（1351年）には細川頼春により周參見氏に本郷地頭職が安堵される。しかし同氏は南朝方に与したため地頭職を失い、文和三年（1354年）には橘・清原の両氏が周參見氏の關所に入部するようである。永正三年（1506年）には清原安藝守高國（後に乘貞）が地頭職に補任される。清原氏は後に長生町本庄の本庄城を拠点として那東郡に勢力を広げた。宮ノ本遺跡の北西約600mに位置する長生町清屋敷付近が本庄城の比定地で、明治期まで各所に上塗が遺存していたと伝えられるが現存しない。北門・清屋敷・海部屋敷・出屋敷・船付・

本庄市などの地名が残り、地図・地形図とあわせて範囲および平面プランの復元が可能である。那賀川下流の戦国期中世城館は、牛岐城（新開氏）・西方城（東条氏）・上大野城（仁木氏）・岡星・桑野城（桑野氏）・福井城（武山氏）などが知られる。

清原氏は配下に竹原・宇奈瀬・岩脇・山木・桑野・板西・福井・井川らの在地領主を従え、那賀川下流域では牛岐城主新開道善と勢力を二分する存在となる。天正年間、阿波南方に侵攻してきた上佐の長宗我部元親軍に敗れ、その領地は一時長宗我部氏の領有に帰している。

その他の中世遺跡としては1954年、宮ノ本遺跡の南西約1.7kmに位置する長生町上荒井の通称國高屋敷で不時発見された長牛埋納銭が知られる。出土銭貨26,338枚のうち最新銭は琉球銭の世高通寶（1461年初鋤）であることから15世紀後葉頃の埋納と考えられる。県下では海部郡海陽町大里・徳島市・宮・同市寺山遺跡で埋納銭が発見され、いずれも鎌倉時代末期から南北朝期頃の埋納と考えられる。

近世になると牛岐城は阿波九城の一つとして、家老である賀島氏を城代とした。当地は富岡と改名されたことによって当城も富岡城と称される。寛永十五年（1638年）一国一城令により廃城となったものの、城の西側に営まれた郷町富岡は県南部における政経の中心地として発展を続けた。牛岐城の東300mに位置するトノ町遺跡は2004年に調査が行われ、17世紀代の集落が認められる。從来、郷町は城の西側とされ、東側は幕末の絵図によれば水田化しているが、近世初頭では東側にも町が広がっていたことがわかった。さて一方、旧竹原荘域は竹原十八箇村として農村化し、近代以降は度重なる町村合併によりその多くが字名としてその名を残すだけとなっている。

## 参考文献

- 阿南市史編纂委員会 1987『阿南市史 第一巻 原始 古代 中世』阿南市教育委員会事務局  
天羽利夫他 1969『徳島県立枝遺跡採集の石器：徳島県出土のナイフ形石器』『古代学16（1）』古代学協会  
大矢雅彦他 1997『那賀川流域水害地形分類図』建設省四国地方建設局徳島工事事務所  
島田豊彰 2006『トノ町遺跡』『徳島県埋蔵文化財センター年報Vol.18』（財）徳島県埋蔵文化財センター  
島田豊彰 2007『トノ町遺跡』『徳島県埋蔵文化財センター年報Vol.19』（財）徳島県埋蔵文化財センター  
鳥田麻寿吉 1916『八鉢神社と長国造』泉山会  
庄司俊也 2005『宮ノ木遺跡』『徳島県埋蔵文化財センター年報Vol.17』（財）徳島県埋蔵文化財センター  
須鍾和巳他 1991『日本の地質 四国地方』共立出版株式会社  
高島芳弘 1995『徳島県那賀川流域における縄文遺跡の分布とその遺物』『徳島県立博物館研究報告第5号』  
徳島県立博物館  
高島芳弘 2002『那賀川における縄文時代の石器石材について』『論集徳島の考古学』徳島考古学論集刊行会  
立花博 1970『徳島県那賀郡古星岩陰遺跡調査概報』『徳島市内ノ御田瓦窯跡調査概報』徳島県那賀郡古星  
岩陰遺跡調査概報』徳島県博物館建設記念学术奨励金運用委員会  
斎 浩市 2000『蒲生田遺跡』『徳島県埋蔵文化財センター年報Vol.12』（財）徳島県埋蔵文化財センター  
徳島県埋蔵文化財センター編 2007『徳島県遺跡地図』徳島県教育委員会 徳島県埋蔵文化財センター  
林 寧彦 2003『葉池谷遺跡』『徳島県埋蔵文化財センター年報Vol.15』（財）徳島県埋蔵文化財センター  
森岡基司 2004『宮ノ木遺跡』『徳島県埋蔵文化財センター年報Vol.16』（財）徳島県埋蔵文化財センター  
三好昭一郎編 1986『角川日本地名大辞典36 徳島県』角川書店  
三好昭一郎他 2000『日本歴史地名大系37 徳島県の地名』平凡社

## 第Ⅱ章 調査の経緯

### 1. 調査に至る経緯

一級河川那賀川水系桑野川は、その源を阿南市新野町喜来地内の標高565.8mの矢筈山に発し、ほぼ東に流下する。途中、南川・北谷川・大津田川・岡川などの支流を合流し、那賀川に注ぐ延長27km、流域面積92.7㎢の治水上重要な河川である。流域概要としては約80%が崩壊性に富んだ急峻な山地で、残り約20%を占める平地の多くは水稲を主とする農地であり、流域は年間降水量が2,000mm～3,000mmにも及ぶ多雨地域である。また河道は全体的に狭く、河道法線は不規則に蛇行を繰り返すため古来より洪水時には各所で氾濫し、住居の浸水や道路・田畠の冠水による被害が発生した。このような状況から、河道の拡幅によって洪水被害を未然に防止するため、建設省（現国土交通省）が、昭和43年に策定された基本計画に基づき改修工事を施工した。その後、昭和63年の計画高流水量の改訂に伴い桑野川河川整備計画の必要性が示唆されてきたが、流域では平成9年から平成11年にかけて集中豪雨による浸水被害が相次いで発生し、下流部の大原地区では高水位を記録した。こうした記録的高水位解消のため、国土交通省四国地方整備局那賀川河川事務所では、河道の流量を安全に流下させるための対策として、河川堤防の改修を計画するとともに防災関連施設としての河川防災ステーションの整備計画を推進してきた。

桑野川堤防の事業に伴う埋蔵文化財の有無とその取り扱いについては、平成14年度に国土交通省四国地方整備局那賀川工事事務所（現那賀川河川事務所）から徳島県教育委員会文化財課に照会があり、工事予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地に該当する旨を回答した。その上で開発事業と埋蔵文化財の取り扱いについて協議し、試掘調査の実施について合意した。これにより那賀川工事事務所では宝田・本庄地区工事予定地の20,000m<sup>2</sup>について、文化財課に試掘調査を依頼し（H15.2.21国四整那工第87号）、文化財課が試掘を実施する旨を回答し、試掘調査実施計画書を作成するに至った。（H15.3.17教文第536号）

試掘調査は、徳島県教育委員会文化財課が（財）徳島県埋蔵文化財センターに委託し、平成15年9月1日から平成15年11月30日にかけて実調査面積1,258m<sup>2</sup>を調査した。その結果、縄文時代から中世にかけての土器が出土、多数の遺構を検出し、宝田・本庄工区中央部泉八幡神社南を中心とした東西400mの間が埋蔵文化財包蔵地であるとされた。試掘調査の結果をうけ、文化財課と那賀川工事事務所の協議では、当該工事区间で埋蔵文化財包蔵地が確認された箇所については工事着手前に発掘調査を実施し遺跡の記録保存を図ることに加え、今後築堤工事の全体計画をにらみ、新たに取得された用地は試掘調査により発掘調査の必要範囲の確定を継続していくことについて合意した。引き続き次年度に実施された平成16年9月16日から平成16年9月30日にかけての試掘調査においても、弥生～中世の遺物・遺構の所在を確認している。

この後、文化財課直営による平成17年実施、三日月湖周辺の大原工区における試掘調査及び平成18年度実施、桑野川南岸に位置する防災ステーション建設関連工区での試掘調査でも、弥生時代・古代・中世の遺構と遺物を検出した。一連の試掘調査により一帯の埋蔵文化財包蔵地が明らかとなったことから、宝田・本庄工区中央部、泉八幡神社南に所在する包蔵地を宮ノ本遺跡、工区西側の三日月湖周辺に所在する包蔵地を大原遺跡、桑野川南岸の防災ステーション建設関連工区に所在する包蔵地を庄境遺跡と呼称することとなった。

発掘調査は、国土交通省の委託を受けた徳島県が(財)徳島県埋蔵文化財センターに委託し、それ平成16年度に6,666m<sup>3</sup>(延べ10,486m<sup>3</sup>)、平成17年度に7,273m<sup>3</sup>(延べ10,036m<sup>3</sup>)、平成18年度に4,450m<sup>3</sup>(延べ6,650m<sup>3</sup>)を対象とし、総面積20,589m<sup>2</sup>(延べ27,172m<sup>2</sup>)の発掘調査を、平成16年度から平成18年度の3カ年にわたり実施することとなった。

## 2. 発掘調査および整理業務態勢

### (発掘調査体制) 平成15~18年度

専務理事兼所長	木澤 敏之 (平成15年度)	浦上 純 (平成16・17年度)
	村山 一行 (平成18年度)	
常務理事兼局長	西村 和博 (平成15年度)	河野 幸一 (平成16~18年度)
次長兼總務課長	古田 哲郎 (平成16・17年度)	一宮 一郎 (平成18年度)
主査兼庶務係長	坂尾 俊一 (平成16・17年度)	新居 謙輔 (平成18年度)
調査課長	新居 文和 (平成15年度)	
事業第一課長	富本 輝仁 (平成16・17年度)	中妻 敏二 (平成18年度)
主査兼調査第一係長	富本 輝仁 (平成15年度)	
事業第一係長	濱 徹 (平成16~18年度)	
試掘調査担当 研究員	林 賢彦 (平成15年度)	篠原久仁子 (平成15年度)
発掘調査担当 主任研究員	大橋 育順 (平成18年度)	
研究員	森岡 基司 (平成16年度)	庄司 俊也 (平成16・17年度)
	鳥田 豊彰 (平成16・17年度)	北尾 秀昭 (平成16年度)
	服部 靖 (平成17年度)	西條 治 (平成18年度)
研究補助員	谷川 真基 (平成17年度)	

### (整理業務体制) 平成18~20年度

専務理事兼所長	村山 一行 (平成18年度)	伊川 政文 (平成19年度)
	阿部 修三 (平成20年度)	
常務理事兼局長	河野 幸一 (平成18年度)	多田 升二 (平成19・20年度)
次長兼總務課長	一宮 一郎 (平成18・19年度)	新居 謙輔 (平成20年度)
主査兼庶務係長	新居 謙輔 (平成18・19年度)	
次長兼事業第二課長	島巡 賢二 (平成18~20年度)	
事業第二課事業第一係長	豊田大之介 (平成18・19年度)	
事業第一課調査係長	藤川 智之 (平成20年度)	
事業第二課整理係長	氏家 敏之 (平成20年度)	
整理業務担当 研究主査	久保藤美朗 (平成20年度)	
主任研究員	島田 豊彰 (平成20年度)	
研究員	大北 和美 (平成18年度)	早渕 隆人 (平成19年度)

### 3. 調査の経過

#### 1. 調査の経過

調査は、調査対象地内において掘削可能な部分について行ったが、撤去不可能な生活道路部分は調査し得なかった。また隣接建造物への影響を考えて調査地境界からやや控えて掘削を行った。しかし粘性薄弱な土質のため部分的な崩落はみられたが、迅速な対処により周囲への影響は食い止めた。工程の迅速化を図るため、表土や近代以降の水田土壤や盛土層の掘削は重機によった。遺物包含層は人力による掘り下げを行った。遺構面は、最大4面が確認され、各調査区とも最終面以下の土層確認のためトレンチ調査を行い、その後旧状に復して調査を終えた。また調査可能な部分から順次調査を行ったため、比較的狭い面積をモザイク状にすることとなり、全体像が把握しづらい状況であった。

平成16年度の宮ノ本遺跡において現地説明会を開催して成果を公表したほか、発掘作業体験や見学会を行った。また小学生が本遺跡を題材にした自由研究を行い、地域における遺跡の重要性を認識できた。



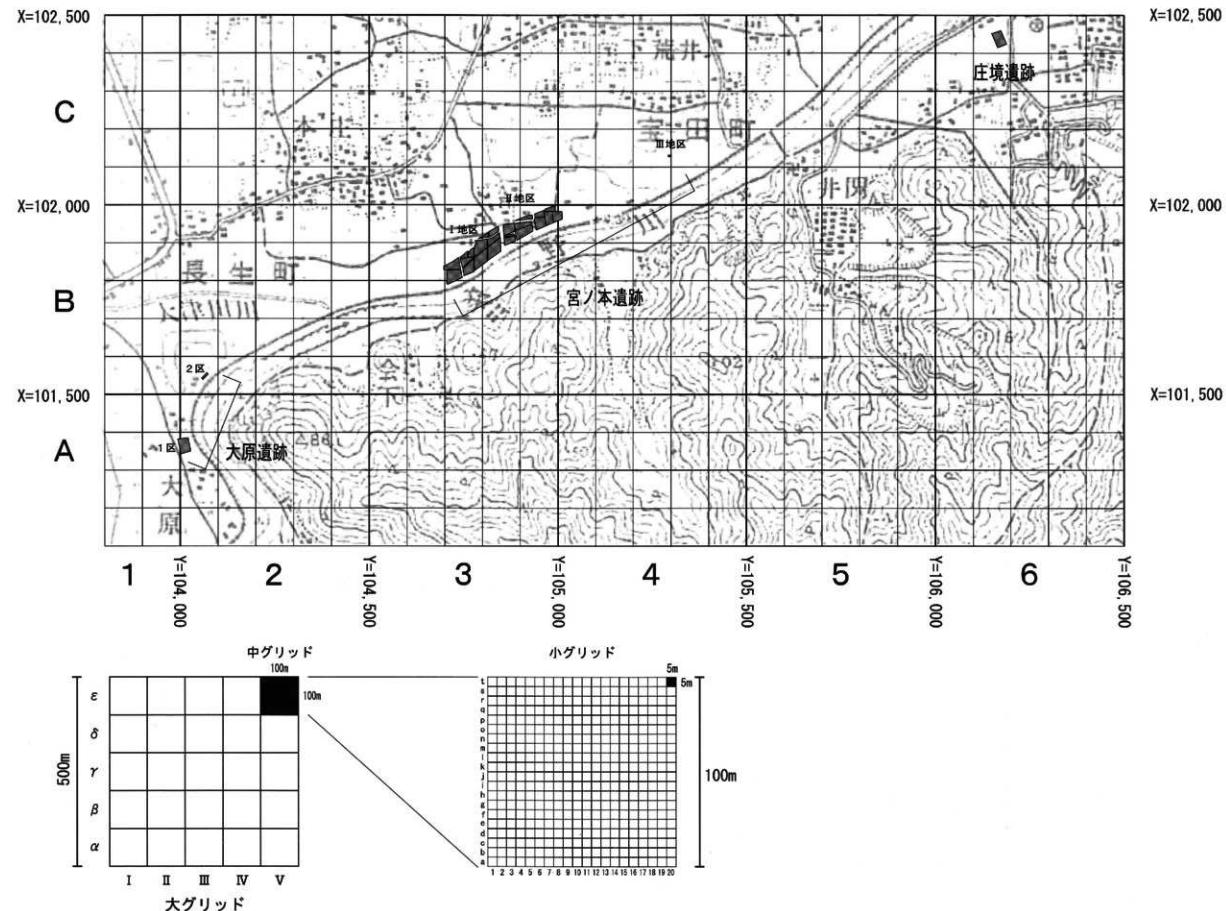
写真1 平成16年度開催の現地説明会

#### 2. 調査区割 (第2～5図、第1表)

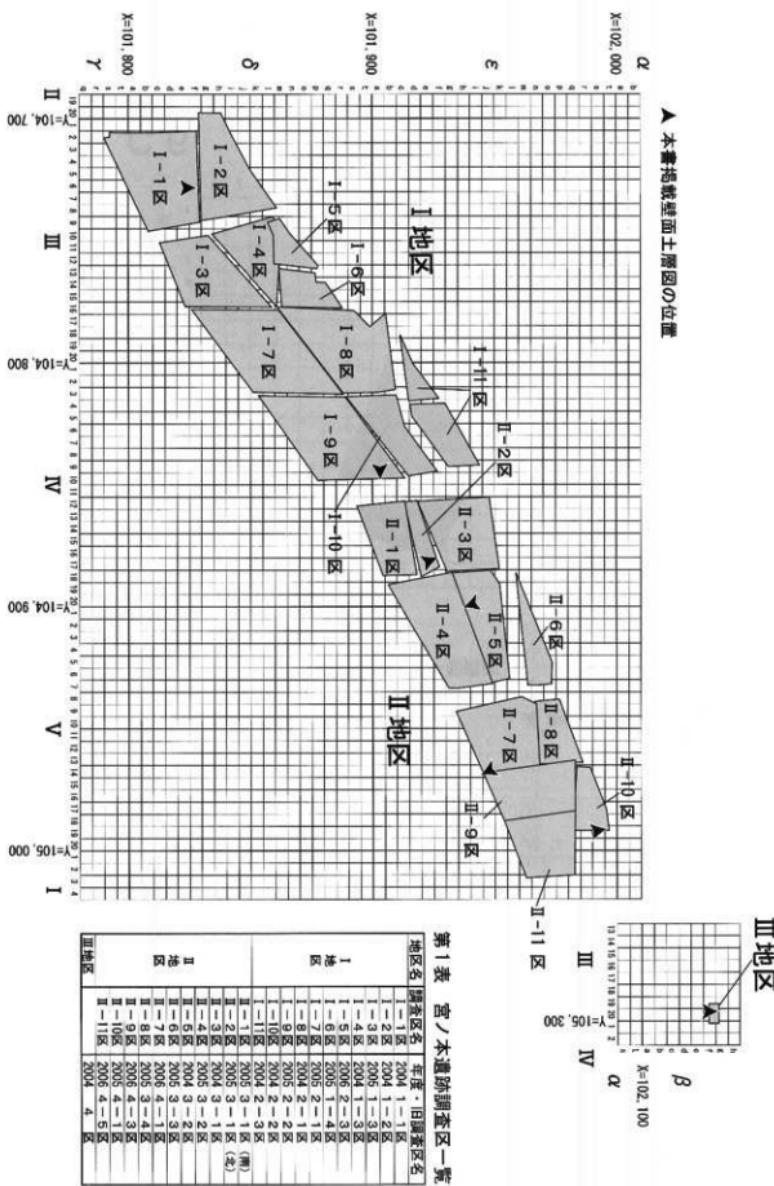
宮ノ本遺跡における調査区総数は23区に上る。調査区名は各年度の調査担当者が決定したため、統一性を欠くものであったため、整理にあたって調査区名をすべて振り替えた。宮ノ本遺跡は西から順にI～Ⅲ地区に大別し、それぞれの地区を構成する調査区をアラビア数字の枝番として付記（例：II-4区）した。なお平成20年度から宮ノ本遺跡の範囲内で新たに発掘調査が開始されたため、本書では「宮ノ本遺跡I」として報告を行う。大原遺跡は南側を1区、北側を2区とした。

遺構番号の設定についても調査担当者に一任されていたため、庄境遺跡は1から振り直し、宮ノ本遺跡は地区ごと、大原遺跡では調査区ごとに1から振り直した。同じ遺構番号が別の地区・調査区にも存在することから、宮ノ本遺跡では地区名、大原遺跡では調査区名を遺構番号と併記している。ただし遺物掲載番号については各遺跡ごとに1から付記する。遺構記号についても本来ならば遺構の規模や形状、層序を確認の上で変更を行うべきであるが、時間的制約から部分的な見直しにとどまった。

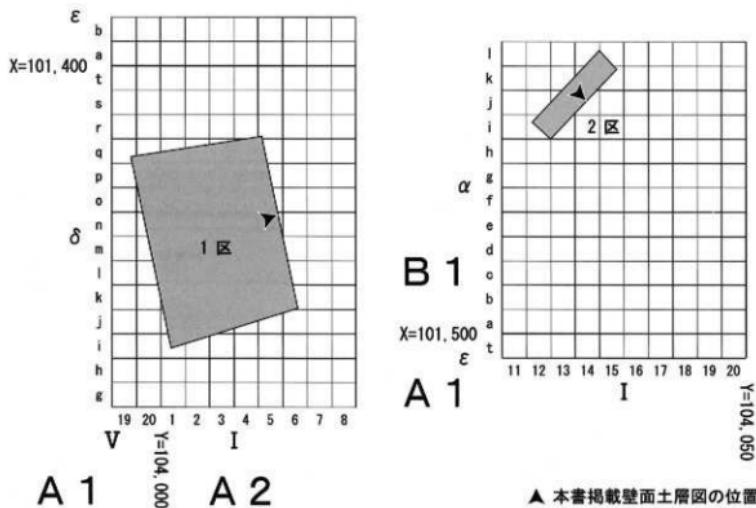
平面ポイントを示す座標に関しては、各年度とも世界測地系第IV系座標を基準として5m四方を一単位とするグリッド網を設定したが、年度によって基準点やグリッド番号が不統一であるため、整理にあたりグリッドの改変を行った。まず世界測地系第IV系座標のX=101,000m、Y=103,500mを基点として一辺500mの大グリッドを設定し、大グリッドは基点から北にLoc.A・Loc.B、東にLoc.1、Loc.2…と設定する。大グリッド内を100m四方単位に区画したものを中グリッドとし、大グリッドの南北隅から北に $\alpha$ ・ $\beta$ ・ $\gamma$ ・ $\delta$ ・ $\epsilon$ 、東にI・II・III・IV・Vの順で設定する。中グリッド内部は5m四方単位で区画した小グリッドと呼び、中グリッド南北隅を基点として北に $a$ ・ $b$ ～ $t$ 、東に1・2～20の順で設定した。よって一例としてLoc.B 3、γ IV、j 17グリッドと表記する。



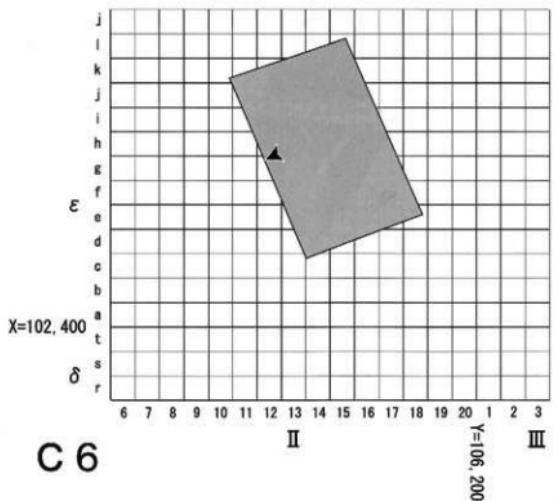
第2図 調査地およびグリッド配置図



第3図 宮ノ本遺跡調査区・グリッド配置図



第4図 大原遺跡グリッド配置図



第5図 庄境遺跡グリッド配置図

以上のことから調査時における調査区名・遺構番号・グリッド設定のいずれも本書においては変更されていることを明記する。また本書掲載遺物は遺物ラベルに変更を記載した上で収納しているが、不掲載遺物に関してはラベルの書き換えを行っていない。また調査時に作成した原図や写真資料等も調査区や遺構番号の訂正を行っていないことに注意されたい。

## 4. 調査日誌抄

### 宮ノ本遺跡 2004年度調査

4月 1 日	辞令交付・調査準備。	7月20日	II-5区機械掘削。
4月12日	現場物品搬入。	7月21日	II-5区(東)第1面遺構検出。
4月13日	測量、仮ベンチマーク打設。	7月26日	I-1・4区層厚確認のため試掘坑再掘削。 II-5区(西)第1面遺構検出。
4月15日	I-8・10・11区機械掘削。 防塵ネット設置。	7月27日	I-1区・I-4区機械掘削。 II-5区第1面遺構掘削。
4月20日	I-8区側溝掘削。 I-11区機械掘削。	7月29日	II-5区グリッド杭打設。台風対策。
4月22日	I-8区人力掘削。	8月 3 日	I-10・11区確認トレンチ掘削。
4月23日	駐車場の基礎コンクリート解体。	8月 5 日	I-11区埋戻し。
4月28日	I-8区第1面遺構検出。	8月 6 日	I-1区側溝掘削。
5月 17日	I-8区第1面遺構掘削。	8月 11日	I-11区(西)埋戻し。
5月 19日	I-8区第1面遺構掘削、台風対策。	8月 16日	I-1区第1面遺構検出。 I-10・11区埋戻し完了。
5月25日	I-10区機械掘削開始。	8月 17日	I-4区機械掘削。
6月 9 日	I-10区側溝掘削開始。	8月 18日	台風対策。
6月10日	I-10区第1面遺構検出、台風対策。	8月 24日	I-1区第1面遺構掘削。 I-4区第1面遺構精査。
6月18日	I-8区第1面完掘状況写真撮影。	8月27日	遺跡体験見学会。台風対策。 II-5区(東)第1面完掘状況撮影。
6月22日	I-8区グリッド杭打設。	9月 1 日	II-5区(西)第2包含層人力掘削。 II-5区(西)遺構掘削。
6月23日	I-11区第1面包含層人力掘削。	9月 6 日	台風対策。
6月24日	I-10区第1面遺構掘削。	9月 8 日	I-4区グリッド杭打設。
6月28日	I-11区(西)機械掘削。	9月14日	II-5区(西)第1面完掘状況撮影。 II-7・9・10・11区試掘。
6月30日	I-11区(東)機械掘削。	9月15日	II-5区(西)第2包含層人力掘削。
7月 1 日	I-11区(西)第1面遺構検出。	9月17日	III地区第1面遺構掘削・完掘撮影。
7月 2 日	I-8区調査終了・埋戻し。 I-11区(西)第1面遺構掘削開始。	9月21日	III地区調査終了・埋戻し。
	I-11区(東)第1面包含層人力掘削。	9月23日	I-1区第1面完掘状況撮影。
7月 6 日	I-11区(東)第1面遺構検出。	9月27日	I-4区遺構掘削開始。
	遺構掘削開始。	9月28日	台風対策。
7月 9 日	I-10区第1面遺構完掘。	10月 1 日	II-5区第2面遺構検出。
7月12日	II-5区除草・排水作業・側溝掘削。	10月 7 日	I-1区確認トレンチ掘削。台風対策。
7月13日	I-1・2・4区除草作業。	10月11日	I-1区埋戻し。
7月16日	I-10・11区第1面完掘状況撮影。		

- 10月12日 II-5区(西)第2面遺構掘削。  
 10月13日 I-2区機械掘削。  
 10月14日 I-4区第1面完掘状況撮影。  
 10月15日 II-5区(東)第2面遺構掘削。  
 10月18日 I-2区側溝掘削。  
     台風対策・安全柵設置。  
 10月21日 台風23号により調査区浸水。  
 10月23・24日 泉八幡神社祭礼、調査区警備。  
 10月25日 I-2区第1面遺構検出・遺構掘削。  
     本庄地区試掘。  
 11月1日 I-4区確認トレンチ掘削。  
 11月2日 I-4区埋戻し完了。  
     II-3・5区防塵ネット設置。  
 11月4日 II-3区機械掘削開始。  
 11月10日 I-2区第1面完掘状況撮影。  
 11月12日 II-3区側溝掘削。  
 11月18日 II-5区第2面完掘状況撮影。  
 11月22日 I-1区埋戻し、II-3区第1面人力掘削。  
 11月23日 II-3区第1面遺構検出。  
 11月24日 II-3区第1面遺構掘削。  
 11月29日 I-2区確認トレンチ掘削。  
 12月2日 II-5区第3包含層機械掘削。  
 12月3日 賀南市木事務所、現場見学。  
 12月8日 II-5区側溝掘削。  
 12月17日 II-3区第1面完掘状況撮影。  
 12月22日 II-5区第3面精査・遺構検出。  
 12月28日 仕事納め。  
**2005年**  
 1月4日 仕事始め。  
 1月5日 現場仕事始め。  
 1月7日 II-5区第3面遺構掘削。  
 1月14日 II-3区側溝掘削。  
 1月18日 II-5区第3面完掘状況撮影。  
 1月24日 II-5区第4包含層機械掘削。  
 1月26日 II-5区側溝掘削開始。  
 1月28日 II-5区第4面遺構検出。  
 2月1日 降雪のため作業中止。  
 2月3日 II-5区(西)第4包含層人力掘削。  
 2月7日 II-5区(西)第4面遺構検出。  
 2月8日 II-5区第4面遺構掘削。
- 2月26日 現地説明会を開催。250名来場。  
 2月28日 II-3区確認トレンチ掘削。  
     新規作業員研修。  
 3月1日 II-5区第4面完掘状況撮影。  
 3月3日 II-5区第5面確認調査。  
 3月4日 II-3区第3包含層人力掘削。  
 3月7日 II-3区第3面遺構検出。  
     II-5区第5包含層機械掘削・検出。  
 3月8日 II-3区第3面完掘状況撮影。  
     II-5区第5面遺構掘削。  
 3月9日 II-3区第4面遺構検出・遺構掘削・  
     完掘状況撮影。  
 3月10日 II-3区埋戻し完了。  
 3月14日 II-5区第5面完掘状況撮影。  
 3月16日 撤収準備。  
 3月17日 撤収開始。  
 3月18日 II-5区確認トレンチ掘削・埋戻し。  
 3月24日 II-5区埋戻し完了。  
 3月28日 外業完了、撤収完了。
- 宮ノ本遺跡 2005年度調査**
- 4月1日 辞令交付・調査準備。  
 4月14日 II-10区(東)トレンチ掘削。  
 4月19日 防塵ネット設置。  
 4月21日 II-6区機械掘削。  
 4月23日 物品搬入。II-6区側溝掘削。  
 4月26日 II-10区機械・側溝掘削。  
 4月27日 II-6区第1面遺構検出・遺構掘削。  
 4月28日 II-10区第1包含層人力掘削。  
 5月9日 II-10区第1面遺構検出・遺構掘削。  
 5月11日 II-6区確認トレンチ掘削。  
 5月17日 II-6区埋戻し。  
     II-10区第1面完掘状況撮影。  
 5月19日 II-8区防塵ネット設置。  
 5月20日 II-8区機械・側溝掘削。  
     II-10区確認トレンチ掘削。  
 5月23日 II-8区第1包含層人力掘削、第1面遺構  
     検出。II-10区第2包含層機械掘削。  
 5月24日 II-10区第2面精査、第3包含層機械  
     掘削。

5月25日	II-8区第1面遺構掘削。 II-10区第3面精査。	11月4日	I-9区(南)第1面遺構掘削。
5月26日	II-10区埋戻し。	11月7日	I-9区(北)機械掘削・第1面検出。
5月27日	II-8区(東)第1面遺構検出。	11月9日	I-9区第1面遺構掘削。
5月30日	II-4区建物基礎撤去。 II-8区第1面遺構掘削。	11月10日	I-3区確認トレンチ掘削。
6月6日	I-7区機械掘削。	11月16日	II-4区第2面完掘状況撮影。
6月8日	I-7区側溝掘削。駐車場造成。 II-8区第1面完掘状況撮影。	11月18日	II-4区(西)第3包含層機械掘削・ 第3面遺構検出。
6月9日	I-7区機械掘削。I-7, II-1・2・4区 防塵ネット・安全柵設置。	11月22日	II-4区(西)第3面完掘状況撮影。 第4包含層機械掘削・第4面検出。
6月10日	II-8区確認トレンチ掘削。	11月24日	II-4区(西)第4面遺構掘削。
6月13日	I-7区側溝掘削・第1面検出。	11月24日	II-4区(西)第4面完掘状況撮影・ 確認トレンチ掘削。
6月14日	I-7区第1面遺構掘削。	12月1日	II-4区(東)第3包含層機械掘削。
7月1日	II-4区機械掘削。II-4・8区埋戻し。	12月5日	II-4区(東)第3面遺構検出・遺構 掘削・完掘状況の写真撮影。
7月6日	II-4区側溝掘削。	12月6日	II-4区(東)第4包含層人力掘削・ 第4面遺構検出・遺構掘削。
7月7日	II-4区第1包含層人力掘削。	12月8日	II-4区(東)第4面遺構完掘状況撮影。
7月14日	II-8・10区埋戻し完了。	12月9日	I-9区第1面完掘状況撮影。
7月19日	II-4区第1面遺構検出。	12月12日	I-9区第2包含層人力掘削。
7月21日	II-4区第1面遺構掘削。	12月14日	II-4区埋戻し。
7月25日	I-7区第1面完掘状況撮影。	12月22日	積雪のため作業中止。
7月27日	I-7区第1包含層人力掘削。	12月26日	I-9区SK1533・1534, II-4区SB3001EH 考古地磁気年代測定を行う。
7月28日	I-3区防塵ネット設置。	12月27日	II-4区防塵ネット撤去。
7月29日	I-3区機械掘削。	12月28日	調査区養生。仕事納め。
8月1日	T-3区側溝掘削・第1面遺構検出。	2006年	
8月4日	I-7区第2面遺構検出。	1月4日	仕事始め。
8月8日	I-3区第1面遺構掘削。	1月5日	II-2区機械掘削・第1面検出。
8月16日	I-7区第2面遺構掘削。	1月11日	II-1区機械掘削・第1面検出。
9月13日	I-3・II-4区第1面完掘状況撮影。	1月18日	I-9区第2面遺構掘削。
9月16日	II-4区確認トレンチ掘削。	1月19日	II-1区遺構掘削。
9月20日	I-7区埋戻し。	1月24日	I-6区建物基礎解体。
9月26日	II-4区第15面遺構検出・遺構掘削。 第2包含層人力掘削。	1月27日	II-2区第1面完掘状況撮影。
9月27日	I-3区確認トレンチ掘削。 I-7区第2面遺構検出。	2月2日	I-9区第2面完掘状況撮影。
10月19日	II-4区第2面遺構検出。	2月7日	I-6区防塵ネット設置。 I-9区確認トレンチ掘削。
10月25日	II-4区第2面遺構掘削。	2月8日	I-6区機械掘削・側溝掘削、第1面遺 構検出。I-9区埋戻し。
10月28日	I-7・9区防塵ネット設置。		
10月31日	I-9区(南)機械掘削。		
11月1日	I-9区(南)第1面遺構検出。		

	II-1区第1面完掘状況撮影。	11月20日	I-5区第1面遺構掘削。
2月10日	I-6区第1面遺構掘削。	11月30日	I-5区第1面完掘状況撮影、作図。
2月17日	I-9区埋戻し。	12月18日	外業完了、撤収完了。
2月21日	I-9区安全柵撤去。		
2月22日	I-7・9区埋戻し。		
2月23日	I-6区第1面完掘状況撮影。		
3月3日	I-6区確認トレンチ掘削。		
3月6日	I-7区SB1001土壤サンプル洗浄。		
3月8日	II-1・2区確認トレンチ掘削。		
	I-6・9区、II-1・2区埋戻し。		
3月10日	周辺整備。撤収準備。		
3月15日	撤収開始。		
3月22日	II-1・2区埋戻し完了。		
3月23日	撤収完了。		
	宮ノ本遺跡 2006年度調査		
4月3日	辞令交付・調査準備。	12月5日	I区第2面遺構検出、遺構掘削。
4月21日	測量、仮ベンチマーク設置。	12月12日	I区南側再検出。
5月8日	安全柵・防塵ネット打設。	12月28日	調査区養生。仕事納め。
5月9日	II-7区機械掘削、偏溝掘削。		2007年
5月12日	II-7区第1面検出。		1月4日 仕事始め。
5月15日	II-7区第1面遺構掘削。物品搬入。		1月11日 I区第2面完掘状況撮影、作図。
5月16日	II-9区機械掘削、偏溝掘削。		1月17日 I区第3包含層人力掘削。第3面検出、遺構掘削、完掘状況撮影。
5月29日	II-9区第1面検出、遺構掘削。		1月26日 I区確認トレンチ掘削。
6月2日	II-9区第1面完掘状況撮影。		調査区埋戻し。撤収準備。
6月21日	II-7区第1面完掘状況撮影。		
7月13日	II-9区第1B面完掘状況撮影。		
8月8日	II-7区第1B面完掘状況撮影。		
8月11日	II-9区第2包含層人力掘削。		
8月22日	II-7区第2包含層人力掘削。		
	II-9区第2面検出、遺構掘削。		
8月24日	II-11区機械掘削、4-1区第2面検出。		
8月25日	II-7区第2面遺構掘削。		
9月6日	II-7・9区第2面完掘状況撮影。		
	II-11区第2面検出、遺構掘削。		
9月15日	II-11区第2面完掘状況撮影。		
9月22日	II-11区確認トレンチ掘削、撤収準備。		
9月29日	一時撤収。		
11月17日	I-5区機械掘削。		
11月20日	I-5区第1面検出。		

## 第Ⅲ章 宮ノ本遺跡の調査成果

### 1. 基本層序 (第6・7図)

宮ノ本遺跡は、泉八幡神社前の参道を境に西側がI地区、東側がII地区で、東に約300m離れてIII地区が位置する。那賀川や桑野川によって形成された沖積地で、土層は基本的にやや砂性を帯びる。

I地区の旧状はおもに水田で、現地盤高3.8~3.9mを測る。遺構面は1面のみで標高3.4m前後を測り、古墳時代~中世の遺構を検出した。第1遺構面のベース上は黒褐色~暗褐色粘質土で、上下の層と比較して際立って黒い(以下、黒色土と表記)。やや不安定な堆積で部分的に高低差があり、平面精査では島状に検出され、当初遺構埋土と誤認した。全体的に若干の弥生土器を含むため、第2包含層として扱つたが、本層直下で遺構は確認できない。遺構埋土は暗灰黄色粘質土が主体である。遺構面以下の土層は褐色系の粘質土・粘土で、標高2.0m付近で暗灰黄色~暗褐色のしまりが弱い細砂層となる。

II地区的旧状は水田および宅地で、現地盤の標高3.8~4.2mを測り、北から南へ下がる。遺構面は測査時に5面を検出したが、検討の結果4面に整理した。盛土・耕作土・床上の直下が灰黄褐色~暗灰黄色・オリーブ褐色の粘質土・砂質土で、第1包含層となる。古代・中世を主体とする第1遺構面は標高3.0~3.6mで、微高地中心に近い北側が高く南に向けて下がる。第1遺構面のベース土はI地区から続く黒色土もみられるが、不安定で、II-1~3区では黒色土が第1遺構面から約70cm下にあり、II-4~5区西側で急激に上昇し、II地区北半を中心削平される。II-1~3区では黒色土より上層のにぶい黄褐色10YR4/3砂質土をベースとし、以東の北半部では黒色土より下層の黄褐色・オリーブ褐色の粘質土・砂質土をベースとする。遺構埋土は暗灰黄色粘質土か黄灰色粘質土の二種に大別できる。

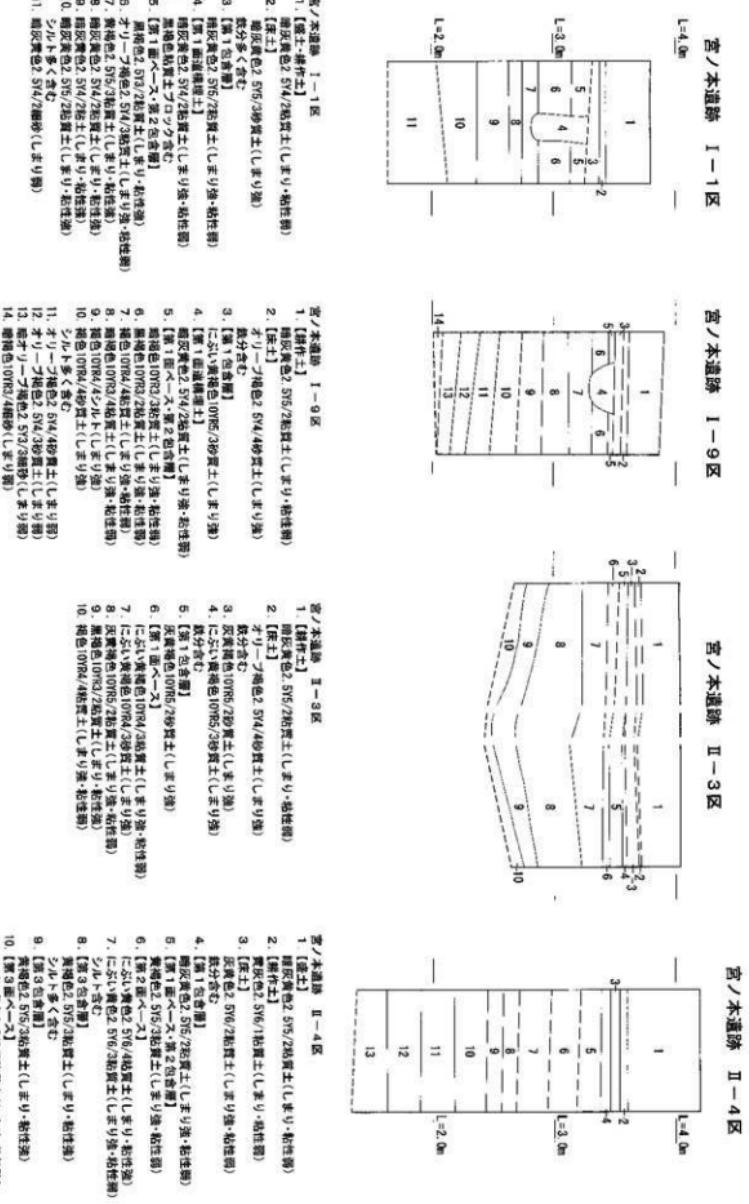
第2遺構面は弥生時代前期末~中期初頭を主体とする。II-5・10区とII-4・7・9区北半部、II-3区の東端で確認され、第1遺構面から約10cm下で検出した。にぶい黄色~にぶい黄褐色粘質土、または暗褐色10YR3/3砂質土をベースとする。遺構埋土はベース土とほぼ同色同質で、遺構検出に困難を極めた。遺物の出土範囲をおおきく括り、炭化物・焼上粒・溝りの有無などを手がかりに検出を行った。

第3遺構面はII-3区東端、II-4区北端、II-5区で検出し、縄文時代晚期後葉を主体とする。第2遺構面から約50cm下、標高約2.4mに位置する。にぶい黄色2.5Y6/3粘質土をベースとし、オリーブ褐色2.5Y4/3粘質土を遺構埋土とする。色調では差があるが、遺構の輪郭や切り合いは不明瞭であった。

第4遺構面はII-5区で確認され、縄文時代晚期中葉の遺構面である。第3遺構面から50cm下、標高1.9m付近に位置する。暗灰黄色2.5Y5/2粘質土をベースとし、遺構埋土は褐色10YR4/4粘質土が主体である。色調では差があるが、遺構の輪郭や切り合いは不明瞭であった。以下の上層は標高1.3m付近まで確認したが、暗灰黄色粘質土またはオリーブ褐色砂質土で、ともにしまりは弱い。

II地区東端のII-3区では黒色土層を含めた上下の層が大きく落ち込む。この落ち込みは概ね北西~南東方向に延びる流路で、幅は30mを超える。第2・第3遺構面は西に向けて大きく下がるため、少なくとも縄文時代晚期後葉まで遡るとみられ、弥生時代前期末~中期初頭までは存続し、中世には埋没していたと考えられる。本流路は桑野川または那賀川の支流が泉八幡神社の山塊に当たって南に方向を変え、流路より東側で微高地を形成し、4期に及ぶ生活面が営まれたものと考えられる。

III地区的旧状は畑作地で、現地盤高は4.2mを測る。遺構面は1面のみで、標高3.6mに位置し、黒褐色粘質土層をベースとする。遺構埋土は暗灰黄色・オリーブ褐色粘質土である。



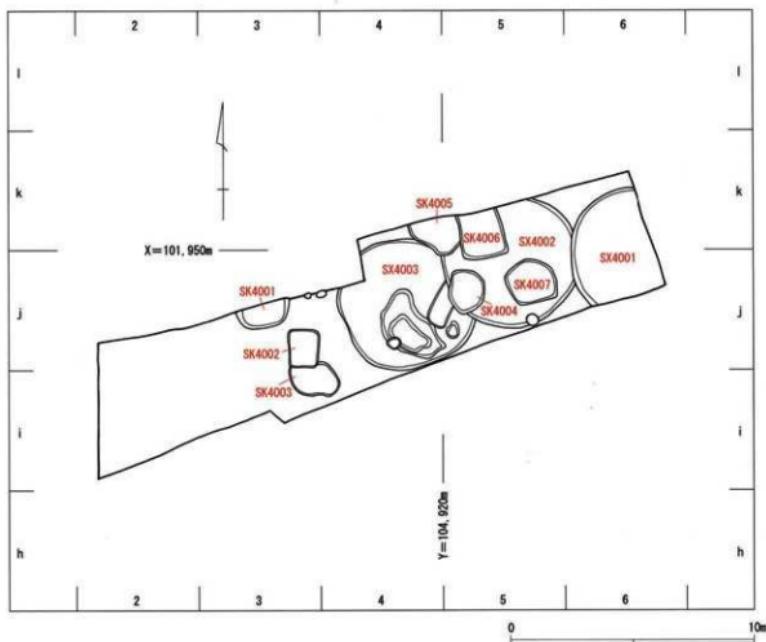
第6図 調査区土層堆積状況図 (1)



第7図 調査区土層堆積状況図（2）

## 2. 遺構と遺物

### 【1】縄文時代の遺構・遺物



第8図 II-5区 第4遺構面 遺構配置図

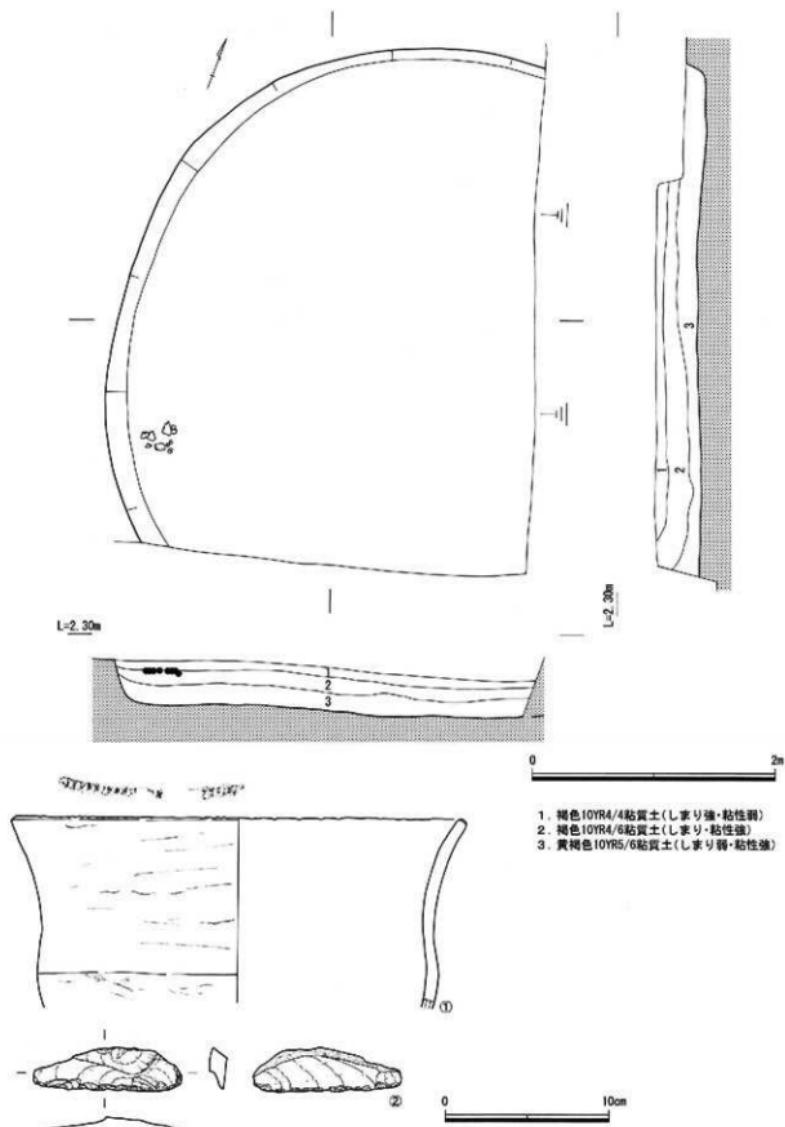
### 〈II地区 第4遺構面〉(第8図)

永久構築物である堤防予定地は最終遺構面まで調査するとの協議に基づき、II-5区で東西25m幅約6mの範囲のみ調査を実施した。遺構は竪穴住居状遺構を含む不明遺構(SX)3基、土坑(SK)7基、小穴(SP)3基を検出した。狭小な調査区であり、調査区外の遺構は主に東に向けて拡がるものと考えられる。

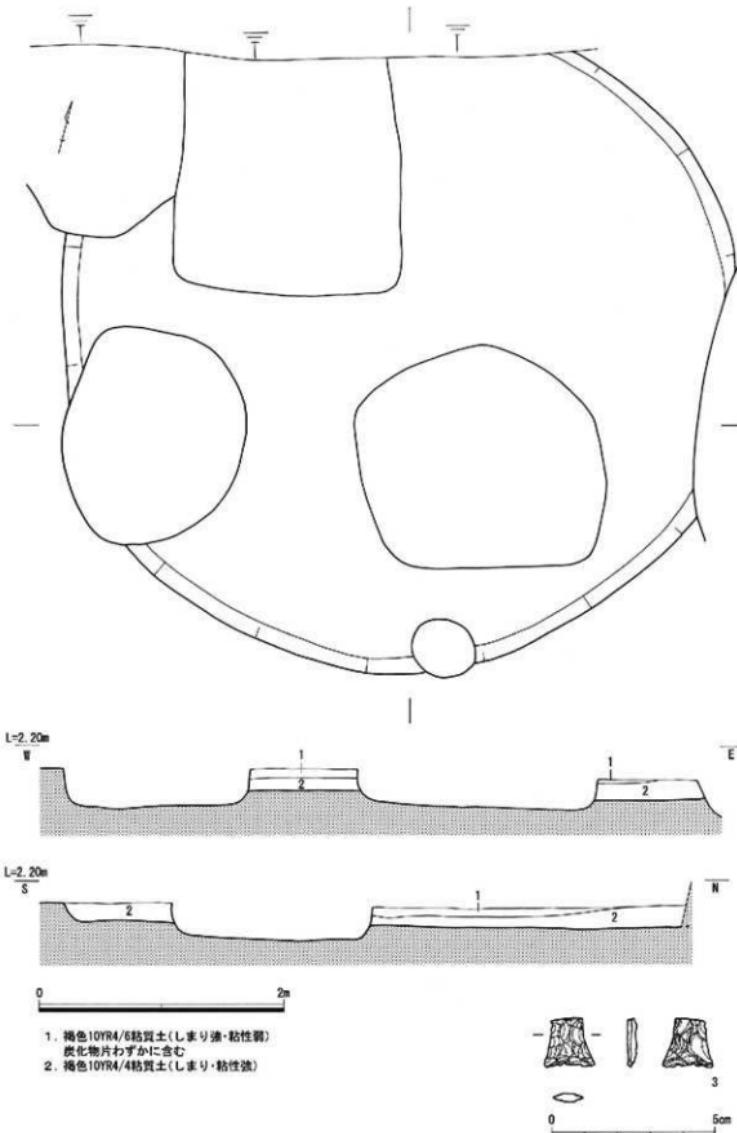
### 不明遺構1号(II地区 SX4001)(第9図)

II-5区東端、k・1 5・6グリッドに位置し、東と南は調査区外に延びる。南北検出長432cm東西検出長352cm深度38cmを測る、円形の竪穴遺構である。断面は逆台形状で、底面はやや起伏がみられ、東に向けて若干下がる。埋土は3層である。柱穴や炉跡は確認できない。

出土遺物は37点、うち土器片は13点で、接合した1点を図化した。1は深鉢である。口縁端部に刻みを施し、口頸部は緩やかに外反する。外面は肩部より上は纖維質の原体で調整したのち、なでる。胴部



第9図 II地区 SX4001遺構・遺物実測図



第10図 II地区 SX4002遺構・遺物実測図

はケズリの痕跡が残る。縄文時代晩期中葉後半の特色をもち、篠原式新段階に併行する時期と考えられる。2はサヌカイト製のスクレイバーである。横反剥片の最長辺に両面調整を施し、刃部を形成したもので、「石庖」状石器などと呼ばれる打製収穫具の可能性がある。他に、チャート・石英・石灰岩が出土した。

#### 不明遺構2号(Ⅱ地区 SX4002)(第10図)

II-5区東部、j・k 4・5グリッドに位置し、北側は調査区外に延びる。東西残存長512cm 南北検出長504cm 深度18cm を測る、円形の竪穴遺構である。断面は逆台形状で、底面は東および北に向けて若干下がる。埋土は2層で、第1層に炭化物片をわずかに含むものの、床面で焼土や炭化物片などが跡を示す遺構は確認できない。また柱穴も確認できない。

遺構出土の遺物は26点で、うち土器片は13点、細片で図化できるものはない。器面調整や胎土の特色から周辺遺構と同様に縄文時代晩期に属すると考えられる。3はサヌカイト製の石鏃である。先端部を欠損するが、いわゆる五角形巣に属すると考えられる。他にサヌカイト剥片等が出土している。

#### 不明遺構3号(Ⅱ地区 SX4003)(第11~13図)

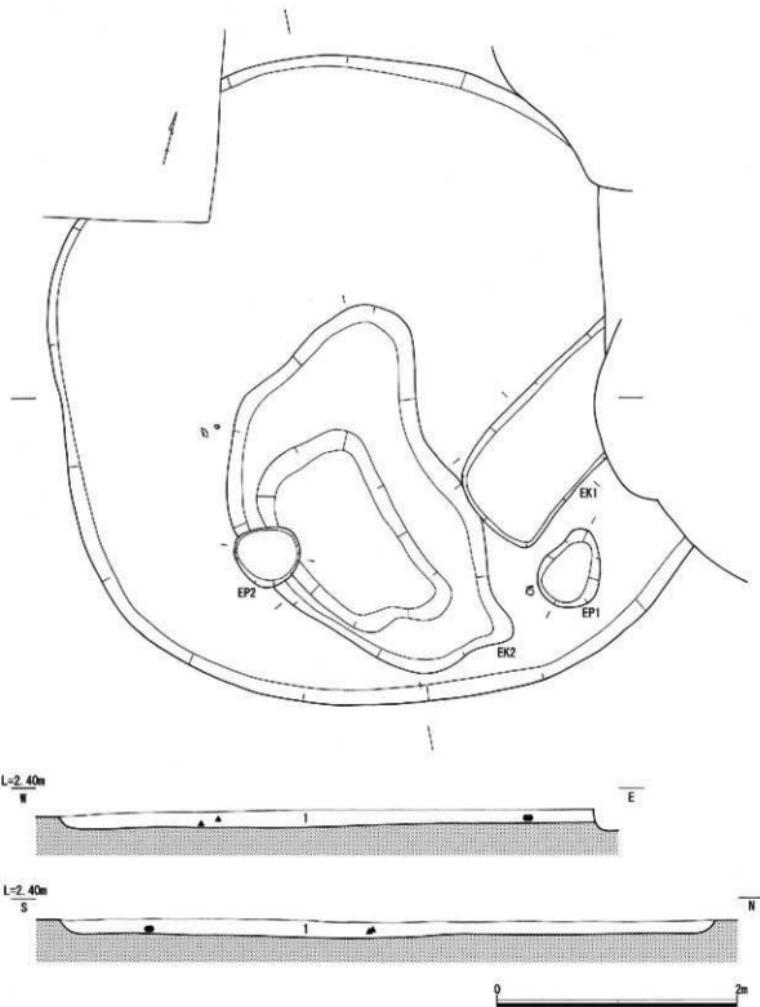
II-5区中央部、i~k 3~5グリッドに位置し、南北検出長540cm 東西残存長436cm 深度14cm を測る、不整円形の竪穴住居状遺構である。断面は浅い逆台形状で、底面は概ね平坦である。埋土は1層で、わずかに炭化物片を含む。柱穴や明確な火跡は確認できない。

EK1は遺構東側に位置し、北側は遺構に切られる。長軸残存長170cm 短軸88cm 深度10cm を測る長方形土坑。断面は浅い逆台形状で、埋土は1層である。南端で遺物が集中する。EK2は遺構南側に位置し、EK1・EP2に切られる。長軸308cm 短軸190cm 深度20cm を測る不整形土坑。断面は逆台形状で、南北側に浅い落ち込みがある。埋土は3層で、焼土粒や炭化物片をわずかに含む。遺構南側の検出面付近から5と7の深鉢が出土している。

EP1は遺構南西隅に位置し、径66cm 深度12cm を測る不整円形の小穴である。断面は浅い皿状で、埋土は2層である。第2層で多量の焼土ブロックを含むことから、炉跡の可能性が考えられる。EP2は遺構南東隅に位置し、長径54cm 深度32cm を測る不整形の小穴である。断面はU字状で、埋土は2層である。炭化物片を少量含む。

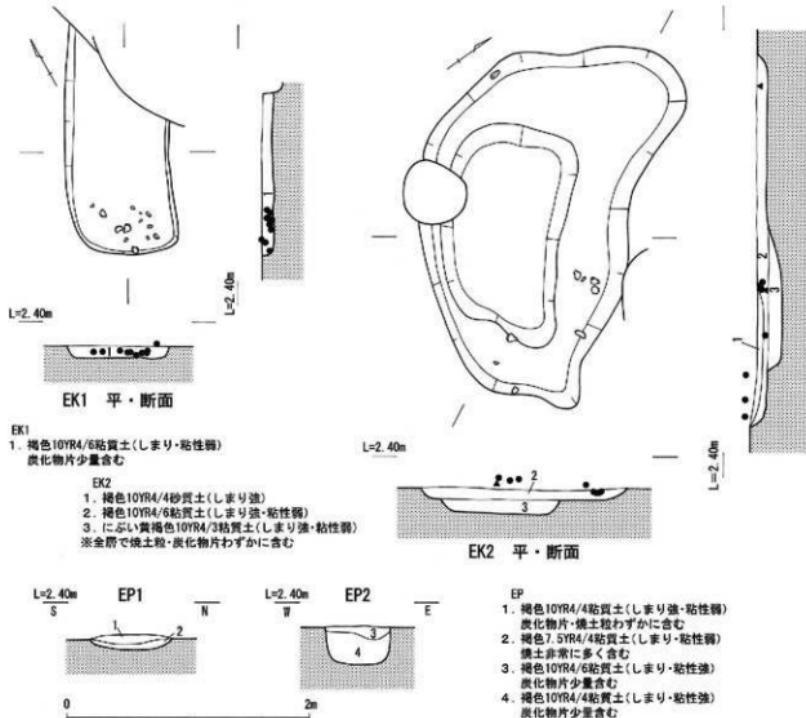
遺構出土の遺物は222点あり、土器213点のうち6点を図化した。4~7は深鉢、4~6は口縁部に刻目を施す。4は外面に植物の茎状の原体による条痕が施され、肩部はほとんどくびれないが縦長の連続刺突文がみられる。5・6は外反する口頭部、7は肩部で上半の頸部はナデ、下半の頸部はケズリ痕が明瞭である。8は浅鉢、緩やかに外反する大きな頸部をもち、口縁部は内側に肥厚し、幅広のリボン状突起の一部が遺存する。いずれも晩期中葉後半の篠原式新段階の特色をもつ。9は壺形となる頸部上半とみられる。平行沈線間を鋸歯状に沈線で区切り、刺突を施す有文土器である。晩期中葉にこのような有文土器の類例は権原式文様を除いてほとんどみられないものである。

石器はサヌカイト製で、10は先端を欠損する二等辺三角形の石鏃で浅い凹基をもつ。11は横長剥片を利用し一辺に刃部を形成するスクレイバーであるが、打製収穫具の可能性もある。他にチャート片が出土している。



1. 棕色10YR4/4粘質土(しまり強・粘性弱)  
炭化物片わずかに含む

第11図 II地区 SX4003造構実測図（1）



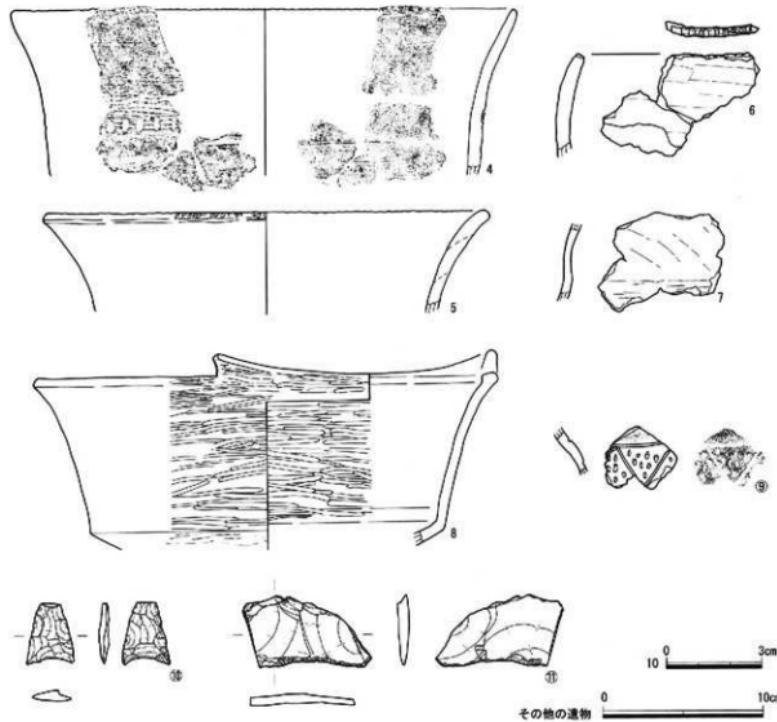
第12図 II地区SX4003遺構実測図（2）

#### 〈II地区 第4包含層出土遺物〉(第14図)

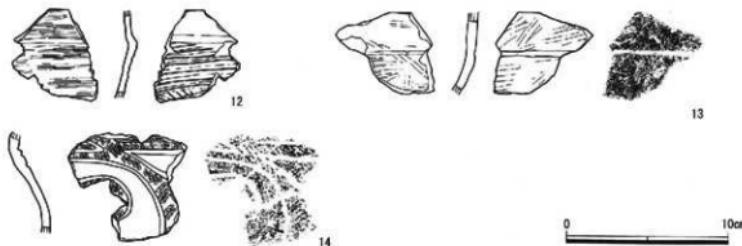
包含層出土の土器のうち3点を図化した。12は深鉢の肩部で、断面クランク状に屈曲し、調整は二枚貝条痕である。13は浅鉢、内外面に浅い沈線があり肩部の屈曲を表現している。12・13とも晩期中葉の篠原式に併行する時期と考えられる。14は磨消絹文を施した深鉢形の土器。横長の満巻き文であり、後期前葉の中津式の新しい段階から福田k2式の範囲に収まる可能性が高い。

#### 〈II地区 第3遺構面〉(第15図)

第4遺構面と同様に、II-3区東端、II-4区北端、II-5区で、東西約53m南北約23mの範囲のみ調査した遺構面である。遺構面は西に向けて下がる。遺構は東半部に集中し、西半部は疎らである。堅穴住居(SB)8棟、堅穴住居状遺構含む不明遺構(SX)6基、土坑(SK)28基、小穴(SP)79基を検出した。第4遺構面と同様に、調査区外では遺構は東に拡がるものと考えられる。

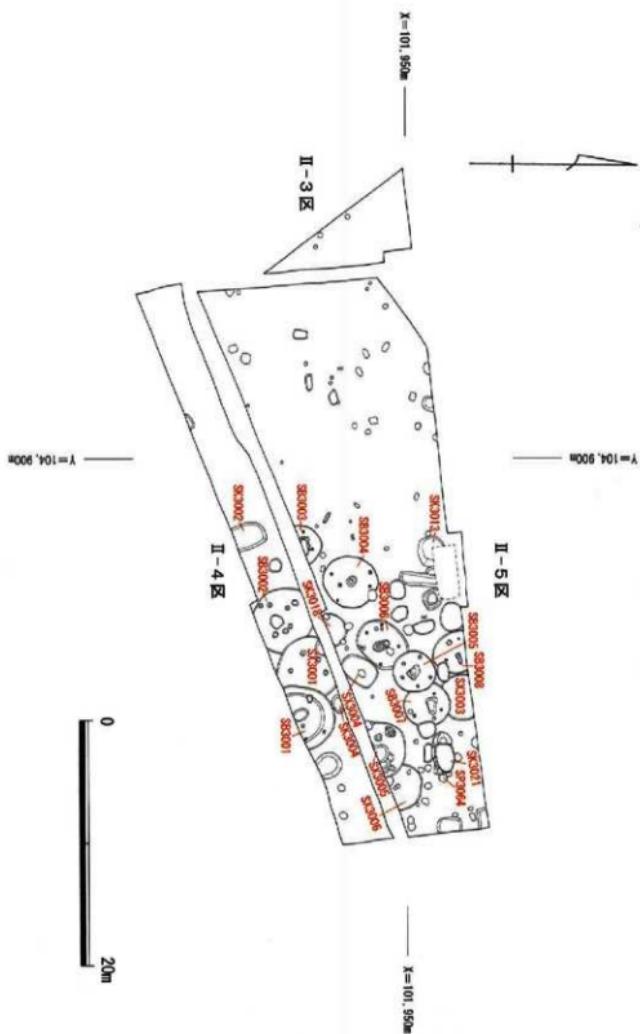


第13図 II地区 SX4003遺物実測図



第14図 II地区 第4包含層遺物実測図

第15図 II-3~5区 第3造構面 造構配置図



### 竪穴住居 1号 (II地区 SB3001) (第16~18図)

II-4区東部、h・i 4・5グリッドに位置し、南半部は調査区外に延びる。東西長軸5.46m南北検出長3.22m深度36cmを測る、円形の竪穴住居である。断面は逆台形状を呈し、埋土は4層に分層できる。周縁にベッド状遺構とみられる幅44~84cm高さ約10cmの段をもつ。

EH1は遺構中央に位置し、長軸検出長124cm短軸94cm深度6cmを測る、断面浅い皿状を呈する楕円形土坑である。埋土は1層で、被熱した灰黄色粘質土ブロックを含むことから炉跡と判断した。

EK1は遺構北西側に位置し、長軸60cm短軸46cm深度24cmを測る楕円形の土坑である。断面は不整な逆台形状で、埋土は1層である。

EP1は遺構東半部に偏り、柱穴のプランは不明。EP1は径32cm深度18cmを測る楕円形の小穴である。断面はU字状で、埋土は2層である。EP2は径24cm深度20cmを測る円形の小穴である。断面はU字状で、埋土は1層である。EP3は径30cm深度8cmを測る円形の小穴である。断面は皿状で、埋土は1層である。

遺構出土の遺物は357点あり、土器336点のうち13点を図化した。15~23は深鉢。15・18は2条の刻目凸帯が確認できる。15~19の口縁部凸帯は口縁部に接した位置にあり、20~22は口縁部からやや下がった位置に貼り付けられる。凸帯の刻目は15・18が算盤玉状、残りはD字状である。15・20は口縁部内面に1条の沈線、18・19は口縁部端にも刻目を施す。23は頸~胴部であるが、肩部に凸帯はみられない。24は鉢、頸部上下に沈線が施される。25・26は浅鉢、浅い椀形で口縁部内面に2条の沈線がある。27は鉢または浅鉢の底部である。いずれも縄文時代晚期の特色とみて違和感ないものである。なお、18・20~22・25~27には結晶片岩粒とみられる砂粒が含まれており、三波川帯を流域にもつ河川の下流域（県内であれば勝浦川~吉野川）より搬入された可能性がある。

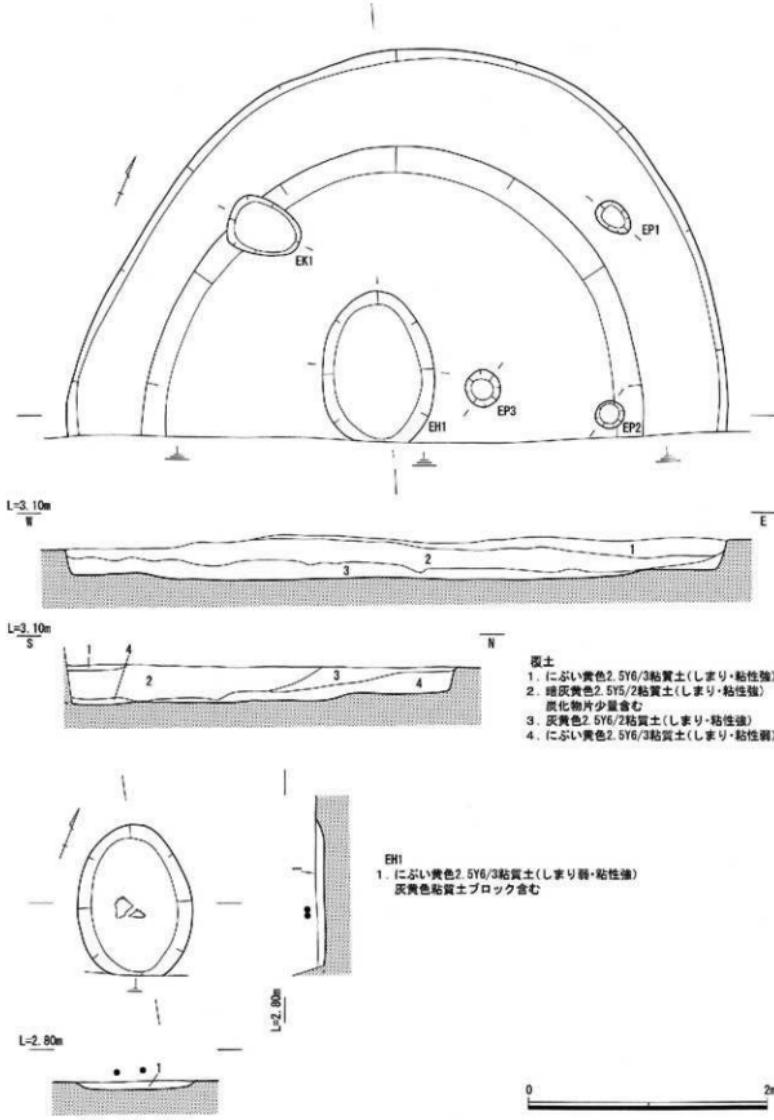
石器は28・29ともサヌカイト製の小型石鎌で、先端を欠損した基部にあたる。28が凹基、29が平基式である。他にサヌカイト片、被熱砂岩礫、石灰岩片などが出土している。

### 竪穴住居跡 2号 (II地区 SB3002) (第19~21図)

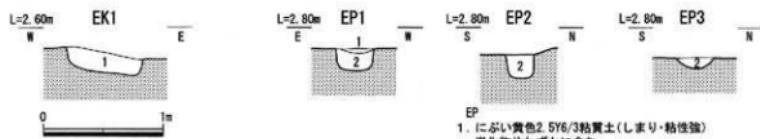
II-4区中央部、h・i 3・4グリッドに位置し、南と北は調査区外に延びる。東西残存長4.56m南北検出長4.27m深度18cmを測る、不整円形の竪穴住居である。断面は逆台形状で、底面は概ね平坦である。埋土は2層で、第2層に炭化物片をわずかに含む。

EH1は遺構中央部に位置し、長軸106cm短軸96cm深度32cmを測る、不整形の炉跡である。断面は不整な逆台形状で、埋土は8層である。第2・3・5層で焼土粒を含み、第2層で多く含むことから中央部をやや掘り廻めた状態で火を焚いたものと推測される。

EP7は基検出したが、位置や柱間距離などから主柱穴として確定できるものはない。EP1~3はEII1の東側に近接した位置にある。EP1は径38cm深度16cmを測る楕円形の小穴である。断面はU字状で、埋土は2層である。EP2は径48cm深度20cmを測る楕円形の小穴である。断面はU字状で、埋土は2層である。EP3は径54cm深度22cmを測る不整円形の小穴である。断面は逆台形状で、埋土は2層である。EP4・5は遺構南西部に位置する。EP4は径36cm深度34cmを測る円形の小穴である。断面はU字状で、埋土は2層である。EP5は径44cm深度16cmを測る、楕円形の小穴である。断面はU字状で、埋土は2層である。EP4・5とともに柱状の土層を示す。EP6・7は遺構北西部に位置する。EP6は径36cm深さ26cmを測る円形の小穴である。断面はU字状で、埋土は2層である。EP7は径50cm深度10cmを測る円形の小穴である。断面は浅い逆台形状で、埋土は1層である。



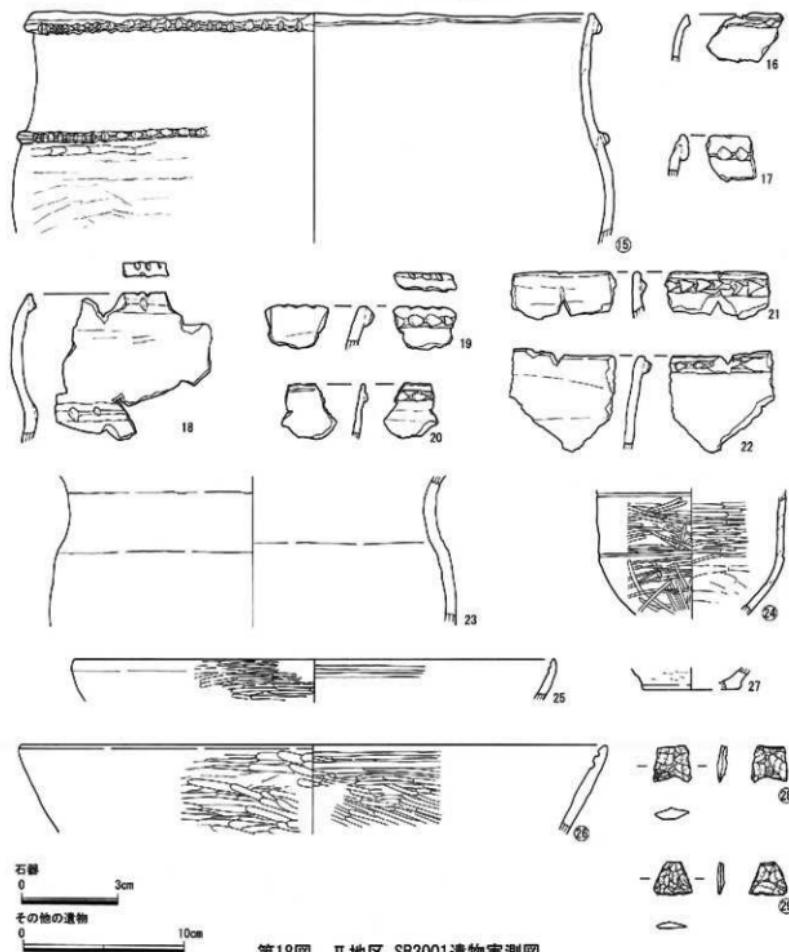
第16図 II地区 SB3001造構実測図



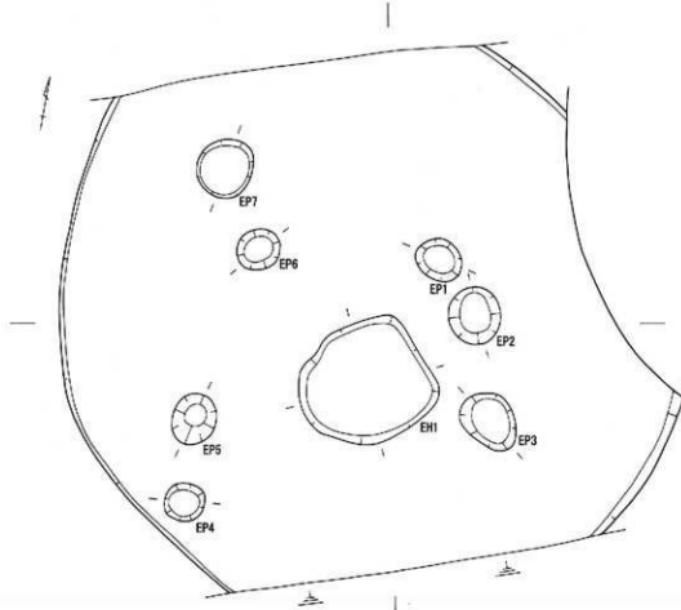
EK1  
1. 黄褐色2.5Y5/3粘質土(しまり・粘性強)

- EP  
1. にぶい黄褐色2.5Y6/3粘質土(しまり・粘性強)  
炭化物片わずかに含む  
2. 黄褐色2.5Y5/3粘質土(しまり・粘性強)  
灰黄色粘質土ブロック含む

第17図 II地区 SB3001遺構断面図



第18図 II地区 SB3001遺物実測図



L=2.90m

L=2.90m

E

N

L=2.80m

L=2.80m

EH1

EH1



E

表土  
1. 黄褐色2.5Y5/3粘質土(しまり・粘性強)  
2. 黄褐色2.5Y5/4粘質土(しまり・粘性強)  
炭化物片わずかに含む

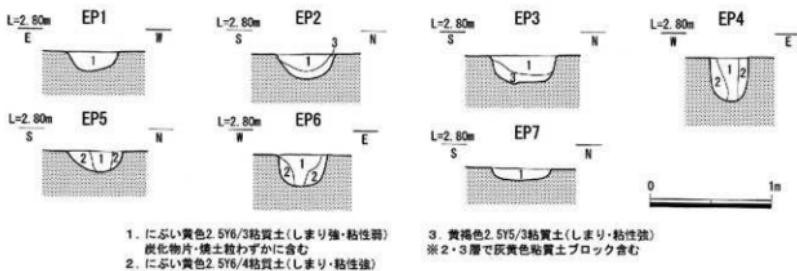
底全層で灰黄色粘質土ブロック含む

EH1

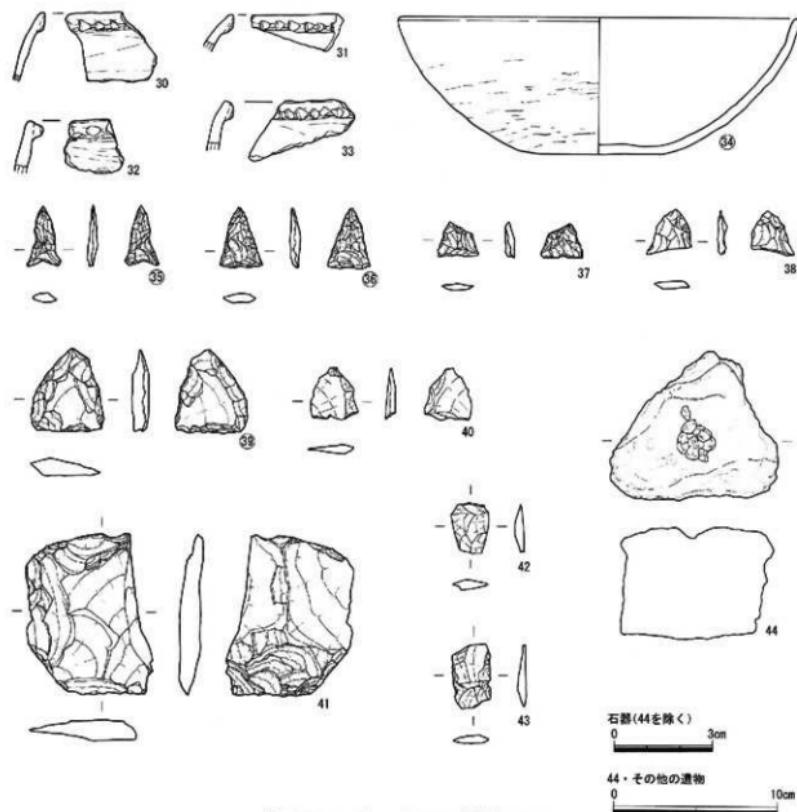
1. 棕褐色10YR4/6粘質土(しまり・粘性弱)
2. 棕褐色10YR4/6粘質土(しまり強・粘性弱)焼土粒多く含む
3. 棕褐色10YR4/4粘質土(しまり・粘性弱)焼土粒少含む
4. にぶい棕褐色10YR5/4粘質土(しまり・粘性強)
5. にぶい棕褐色10YR5/3粘質土(しまり・粘性弱)焼土粒わずかに含む
6. オリーブ褐色2.5Y4/4粘質土(しまり・粘性弱)
7. 緑オリーブ褐色2.5Y3/3粘質土(しまり・粘性弱)炭化物片少量含む
8. オリーブ褐色2.5Y4/3粘質土(しまり・粘性弱)

0 2m

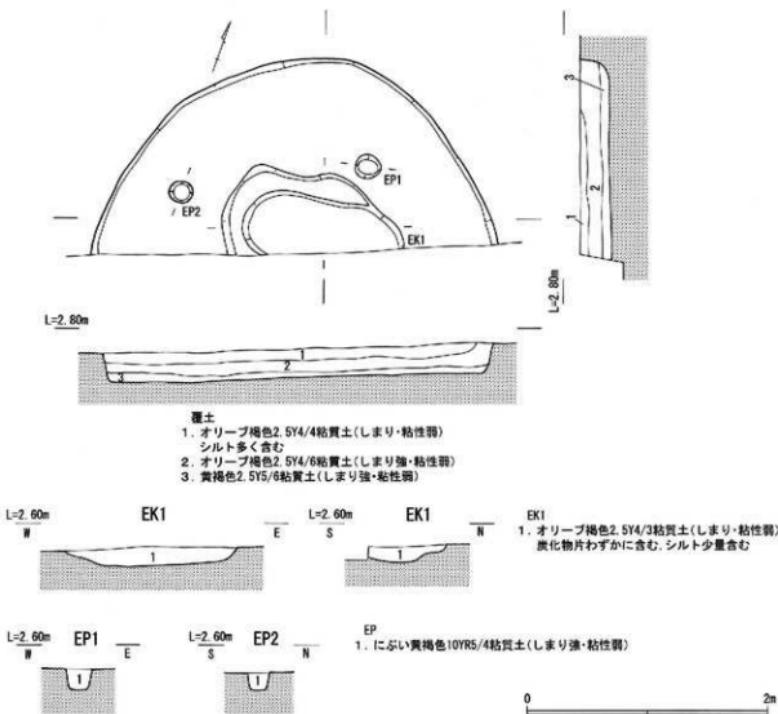
第19図 II地区 SB3002造構実測図



第20図 II地区 SB3002造構断面図



第21図 II地区 SB3002遺物実測図



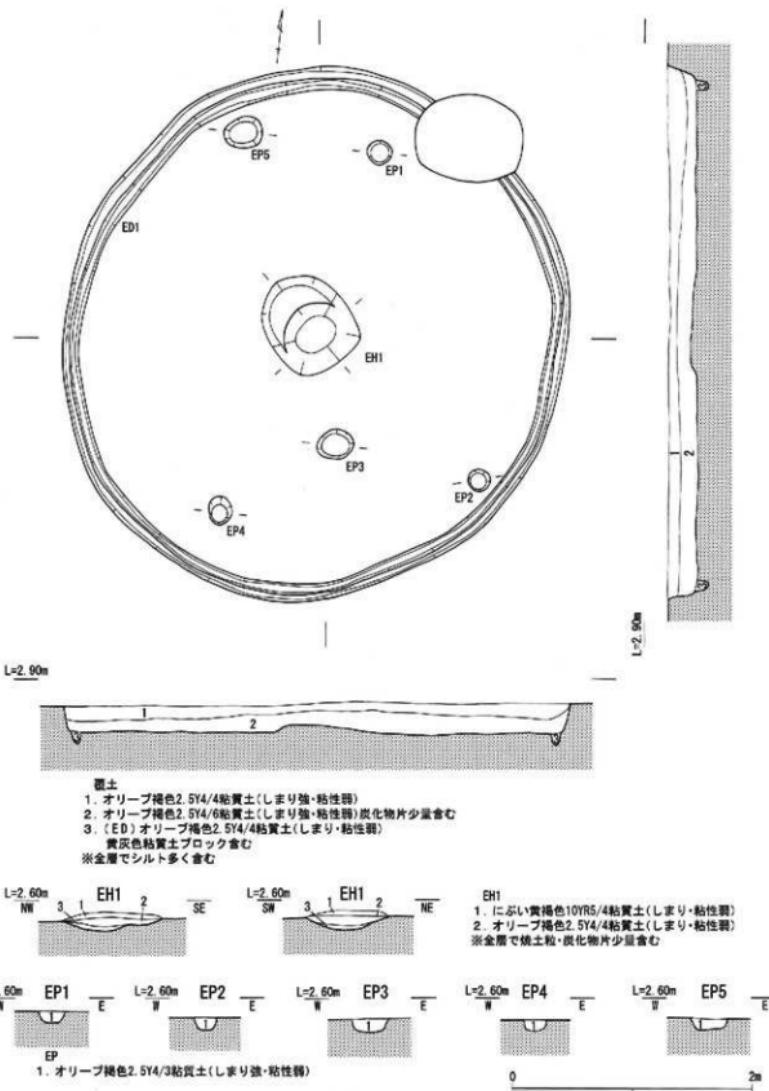
第22図 II地区 SB3003遺構実測図

遺構出土の遺物は210点あり、土器は122点のうち5点図化した。30~33は深鉢、いずれも口縁部に接して刻目凸帯を貼り付けている。刻目はいずれもD字状を呈する。また、図化は困難であるが、肩部に凸帯をもつ二条凸帯文を含んでおり、縄文時代晩期末に位置づけられる。34は浅鉢、浅い楕形である。31・33・34は結晶片岩粒を含んでいる。

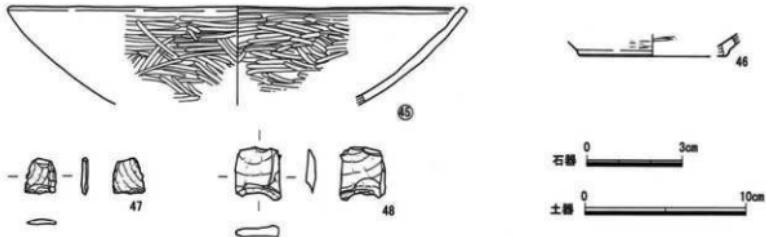
35~38はサヌカイト製の石鏃、35・38はいわゆる五角形鏃で、基部が翼状に張り出すもの、36・37は二等辺三角形を呈する。39・40はサヌカイト製の石鏃未製品と考えられる。41はサヌカイト製のスクレイパー、不整方形で三辺に調整が確認できる。42・43は加工痕のあるサヌカイト剥片。44は凹石、砂岩の中央部を敲打により凹ませている。他にサヌカイト片が71点、結晶片岩の剥片が出上している。

#### 竪穴住居3号（II地区 SB3003）（第22図）

II-5区中央部南端、i 2グリッドに位置し、南半部は調査区外に延びる。東西3.36m南北検出長1.60m深度26cmを測る、円形の竪穴住居である。断面は逆台形状で、底面は概ね平坦である。埋土は3層で



第23図 II 地区 SB3004造構実測図



第24図 II地区 SB3004遺物実測図

ある。

EK 1は遺構中央に位置し、南は調査区外に延びる。東西148cm 南北検出長74cm 深度16cmを測る。不整形土坑である。断面は不整な浅い逆台形状で、埋土は1層である。炭化物片をわずかに含むが、炉跡とする確証を欠く。EP1は2基検出し、位置的に主柱穴になりうる。EP 1は遺構北側に位置し、径20cm 深度16cmを測る円形の小穴である。EP 2は遺構西側に位置し、径20cm 深度14cmを測る円形の小穴である。ともに断面は逆台形状で、埋土は1層である。

遺構出土の遺物は43点であるが、土器は細片のため図化不能。土器の胎土や器面調整等から縄文時代晚期に属するものと考えられる。他にサヌカイト剥片が細片を含め28点出土している。

#### 竪穴住居4号（II地区 SB3004）(第23・24図)

II-5区中央部南寄り、i・j 2・3グリッドに位置し、長軸4.44m短軸4.14m深さ26cmを測る、円形の竪穴住居である。断面は逆台形状で、底面は概ね平坦である。覆土は2層で、第3層は周壁溝の埋土である。EH 1は遺構中央部に位置し、長軸84cm 短軸70cm 深度16cmを測る、不整形の炉跡である。断面は皿状で、南東側がやや深い。埋土は3層である。全ての層で焼土粒と炭化物片を含む。周壁溝ED 1は全周するとみられる。幅12cm 深度10cmを測り、U字状断面をもつ。EP 1・5は遺構北端部に位置し、EP 2・3・5は遺構南半部に位置する。主柱穴としてのプランは見いだせない。EP 1は径20cm 深度10cmを測り、円形を呈する。EP 2は径19cm 深度10cmを測り、円形を呈する。EP 3は径30cm 深度12cmを測り、不整円形を呈する。EP 4は径24cm 深度8cmを測り、楕円形を呈する。EP 5は径32cm 深度10cmを測り、楕円形を呈する。いずれも断面は逆台形状で、埋土は1層である。

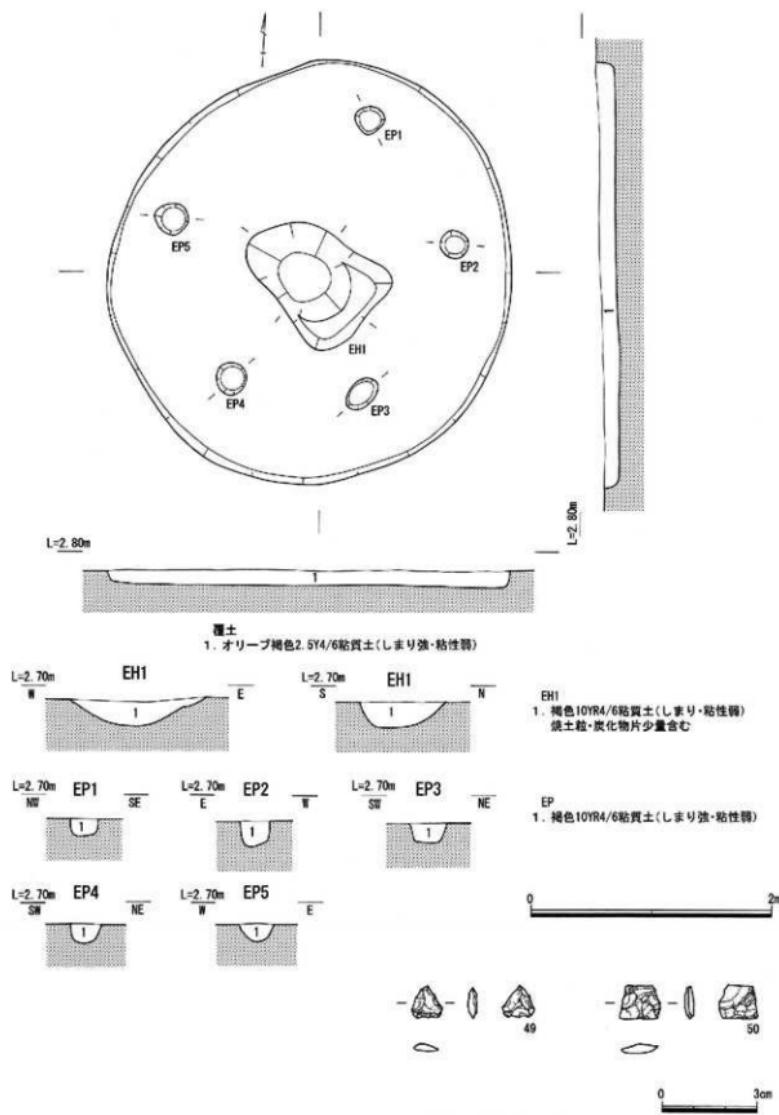
遺構出土の遺物は93点あり、土器は65点のうち2点を図化した。深鉢は図化不能であるが口縁部に凸帯が含まれるもののが7点含まれている。45・46は浅鉢、45は浅い鉢形を呈し、口縁部内面に1条の沈線を施す。46は平底の底部である。これらの特色から縄文時代晩期後葉の様相をもつ。

47は先端部を欠損した小型のサヌカイト製石鏃、48はサヌカイトの剥片である。他にも25点のサヌカイト剥片が出土した。

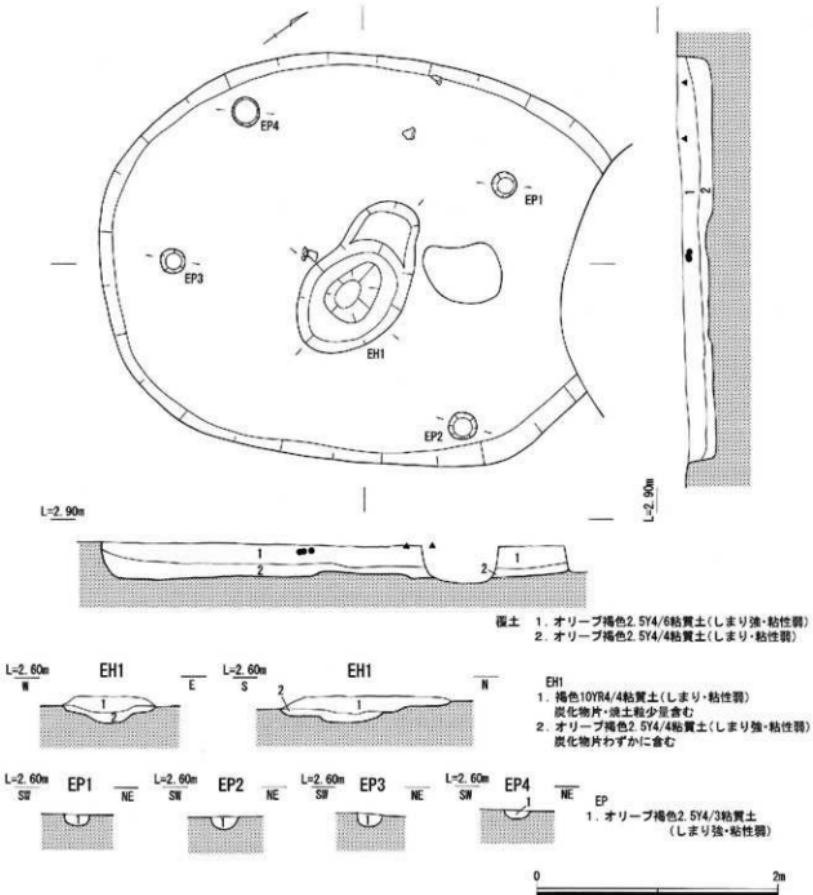
なお、土層観察アゼ下部の埋土洗浄により、コメと疑われる炭化種子（写真2）が1点出土している。

写真2 コメと疑われる炭化種子  
(目盛りは1mm)





第25図 II地区 SB3005構造・遺物実測図

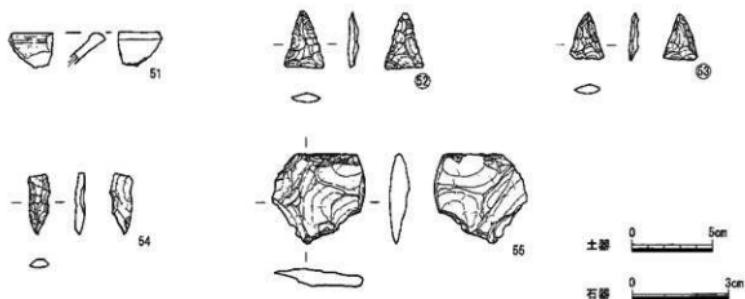


第26図 II地区 SB3006遺構実測図

#### 豎穴住居5号（II地区 SB3005）(第25図)

II-5区東部、j・k 4グリッドに位置し、南北3.50m東西3.32m深度16cmを測る、円形の豎穴住居である。断面は逆台形状で、底面は概ね平坦である。埋土は1層である。

EH1は遺構中央部に位置し、長軸114cm 短軸88cm 深度20cmを測る、不整形の炉跡である。断面は皿状で、埋土は1層である。焼土粒と炭化物片を少量含む。EP1は5基検出し、位置的に全てが主柱穴に



第27図 II地区 SB3006遺物実測図

なりうる。EP 1は遺構北側に位置し、径24cm深度14cmを測る。EP 2は遺構東側に位置し、径24cm深度20cmを測る。EP 3は遺構南東側に位置し、径32cm深度16cmを測る。EP 4は遺構南西側に位置し、径26cm深度16cmを測る。EP 5は遺構北西側に位置し、径28cm深度14cmを測る。平面形は円形または梢円形を呈し、断面はU字状または逆台形状で、埋土は1層である。

遺構出土の遺物は15点あり、土器は4点であるが細片で図化不能。胎土や器面調整から縄文時代晩期の特徴をもつとみてよい。石器は2点図化した。49・50はサヌカイト製の石鏃。49は小型の正三角形状、50は先端を大きく欠損した基部でいずれも平基式。他に砂岩磨石が出土している。

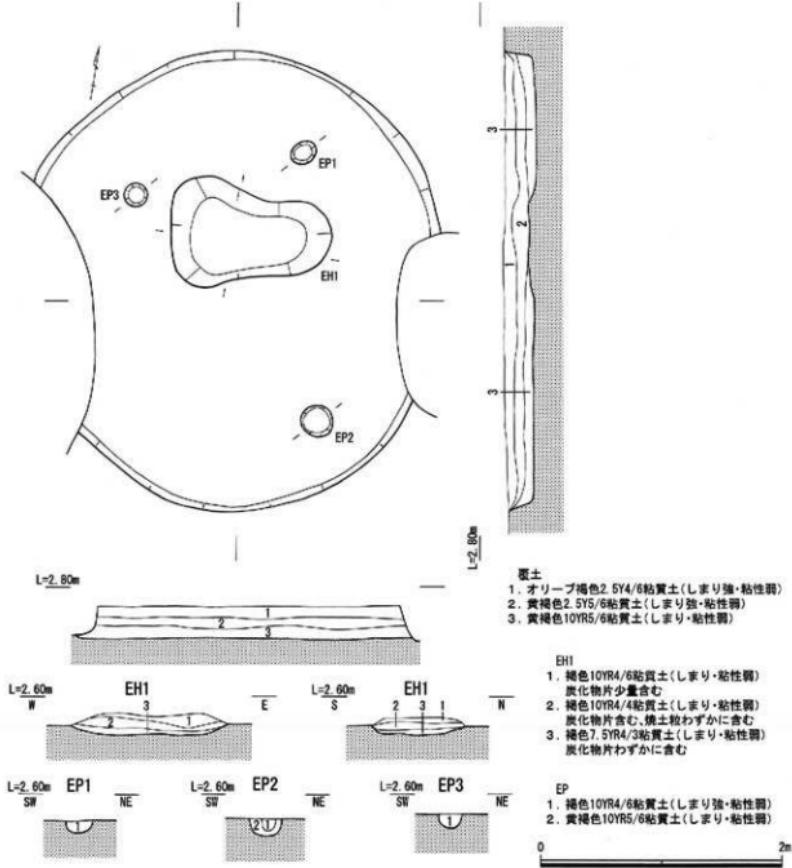
#### 竪穴住居6号(II地区 SB3006)(第26・27図)

II-5区東部、j 3・4グリッドに位置し、長軸4.30m短軸3.48m深度28cmを測る、梢円形を呈する竪穴住居である。断面は逆台形状で、底面は概ね平坦である。埋土は2層に分層できる。

EH 1は遺構中央部に位置し、長軸140cm短軸80cm深度24cmを測る、不整形の炉跡。断面は梯形で、南側の底面が落ち込む。埋土は2層で、焼土粒や炭化物片を含む。EP 1は遺構北側に位置し、径20cm深度8cmを測る。EP 2は遺構東側に位置し、径24cm深度10cmを測る。EP 3は遺構南側に位置し、径22cm深度10cmを測る。EP 4は遺構西側に位置し、径24cm深度6cmを測る。いずれも円形を呈し、断面はU字状で、埋土は1層である。

遺構出土の遺物は107点あり、土器は17点のうち1点を図化した。51は浅鉢である。口縁部内面を肥厚してゆるい段を形成している。また図化はしていないが、深鉢胴部の器面調整は外面ケズリのちナデ、内面には2枚貝条痕の痕跡残る。胎土は砂粒を大量に含んで粗いが、焼成はしっかりしている。いずれも縄文時代晩期中葉に属する特色をもっている。ただし、凸帯文は確認できないが、器面調整は凸帯文土器と伴出する土器に近いものが大半を占めているので、遺構の所属年代は縄文時代晩期後葉とみてよいと考えられる。

52・53はサヌカイト製石鏃、平基式で平面形は二等辺三角形を呈す。54はサヌカイト製石錐である。先端部がやや摩耗している。55の剥片は図の上辺が両極打法によるものとみられるが、他の縁辺には規則性がない。他にサヌカイト片が82点出土している。



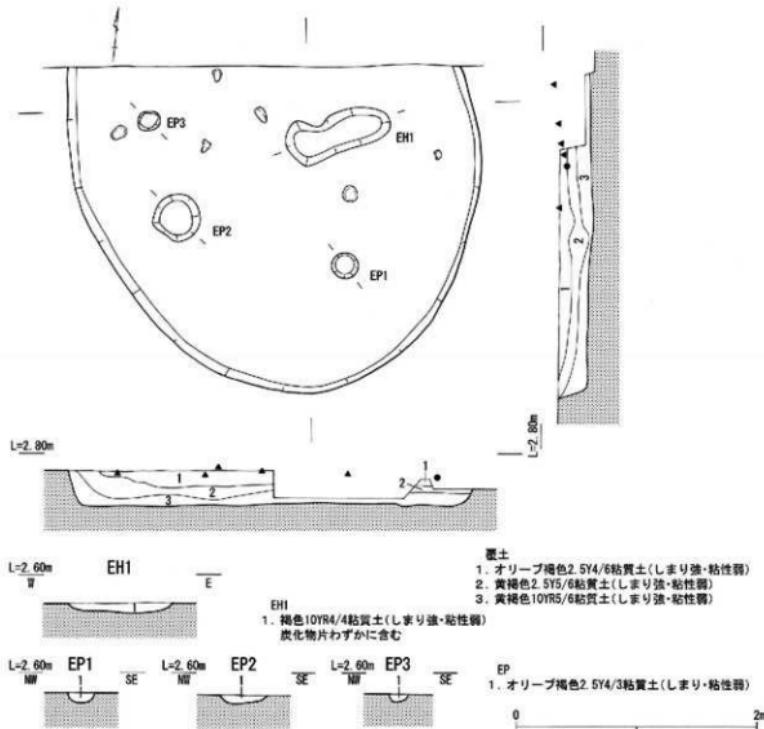
第28図 II地区 SB3007遺構実測図

#### 豎穴住居7号（II地区 SB3007）（第28図）

II-5区東部、j・k 4・5グリッドに位置し、東西を遺構に切られる。南北3.72m東西残存長2.50m深度26cmを測る、楕円形の豎穴住居である。断面は逆台形状、底面は概ね平坦で、埋土は3層である。

EH1は、遺構中央北寄りに位置し、長軸134cm 短軸92cm 深度18cmを測る、不整形の炉跡である。断面は皿状で、埋土は3層である。炭化物片や焼土粒を含む。

EPは3基検出した。配置がやや不規則でいずれも浅いが、主柱穴の可能性がある。EP1は遺構北東に位置し、径22cm 深度10cmを測る。EP2は遺構南東に位置し、径26cm 深度14cmを測る。EP3は遺



第29図 II地区 SB3008遺構実測図

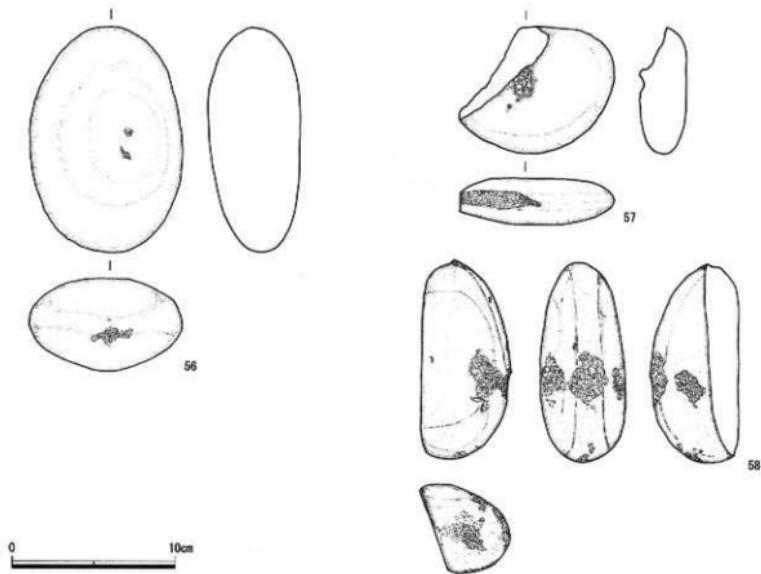
構北西に位置し、径18cm 深度12cmを測る。いずれも円形を呈し、断面はU字状である。埋土はEP 1・3が1層、EP 2が2層である。

遺構出土の遺物は39点であるが、土器は細片のため図化不能。土器の胎土や表面調整等から他の遺構と同様に縄文時代晚期後葉であると考えられる。他にサスカイト片23点が出土している。

#### 竪穴住居8号 (II地区 SB3008) (第29・30図)

II-5区東部北端、k 3・4グリッドに位置し、北は調査区外に延びる。東西3.36m南北検出長2.68m深度30cmを測る、不整円形の竪穴住居である。断面は逆台形状で、底面は概ね平坦である。埋土は3層に分層できる。

EH 1は遺構中央東寄りに位置し、長軸88cm 短軸38cm 深度8cmを測る、不整形の炉跡である。断面は皿状で、埋土は1層である。少量の炭化物片を含む。EP1は3基検出した。配置が不規則で、いずれもきわめて浅い。EP 1は遺構南側に位置し、径22cm 深度8cmを測る。EP 2は遺構南西側に位置し、径



第30図 II地区 SB3008遺物実測図

40cm 深度 6cm を測る。EP 3 は造構西側に位置し、径 18cm 深度 6cm を測る。円形または不整円形を呈し、断面は浅いU字状または逆台形状、埋土は1層である。

造構出土の遺物は30点あり、第1層からの出土が多い。うち土器は23点あるが細片のため図化不能。土器の胎土や表面調整等から他の造構と同様に縄文時代晚期後葉であると考えられる。

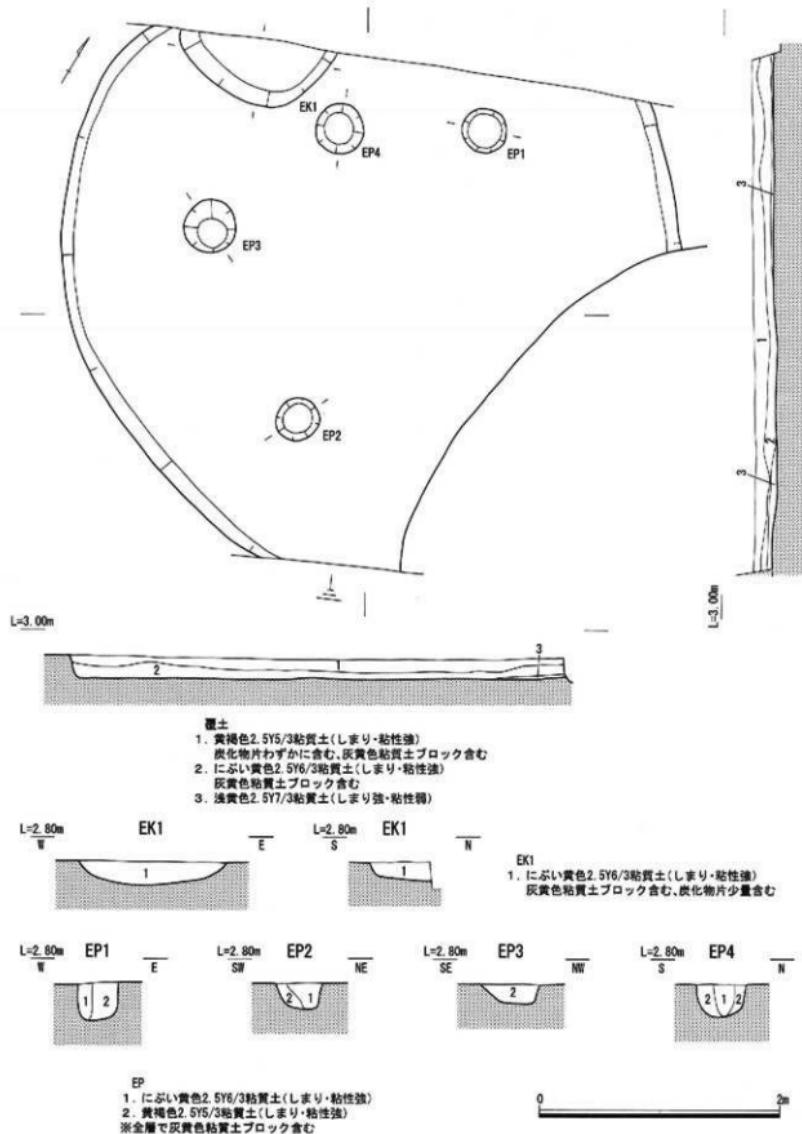
石器は磨石が4点あり、叩石としても用いられた敲打痕のある3点を図化した。56～58は扁平でふくらみのある砂岩の楕円形の自然縫を利用し、表面あるいは側面に明瞭な平坦面はないが磨面があり、敲打痕も表面中央あるいは側面に集中している。56・58は砂岩の中でも硬質で比重の高い緻密な石材を用いる。他に円盤状の円礫に弱い研磨痕があるものが出土している。

南東部の埋土洗浄により、木本植物の種子とみられる炭化物が出土している。

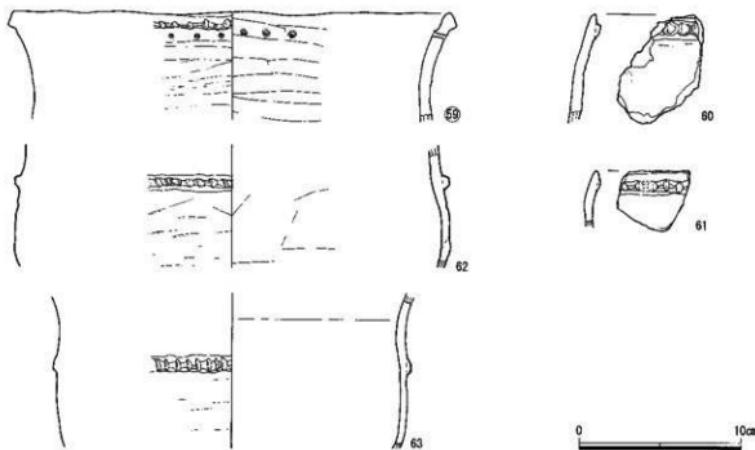
#### 不明造構 1号 (II地区 SX3001) (第31・32図)

II-4区東部、h・i 3・4グリッドに位置し、南北は調査区外に延びる。東西504cm 南北検出長418cm 深度18cm を測る、不整円形の竪穴住居状造構である。断面は逆台形状で、底面はわずかに起伏がある。埋土は3層で、第1層に炭化物片をわずかに含む。柱穴状の小穴を伴うものの炉跡が確認できないため、住居状造構とした。

EK 1 は造構北西端に位置し、北は調査区外に延びる。東西130cm 南北検出長56cm 深度18cm を測る、隅丸方形状の土坑である。断面は皿状で、埋土は1層である。炭化物片を少量含むが、造構の中心から



第31図 II地区 SX3001構造実測図



第32図 II地区 SX3001遺物実測図

大きく外れるため炉跡の認定を避けた。EPは4基確認した。EP 1は造構北東側に位置し、径38cm 深度30cm を測る。EP 2は造構南側に位置し、径36cm 深度22cm を測る。EP 3は造構西側に位置し、径44cm 深度16cm を測る。EP 4は造構北西側に位置し、径40cm 深度26cm を測る。断面はEP 3が逆台形状で、埋土は1層である。その他がU字状断面をもち、埋土は2層で柱痕状の土層を示す。

造構出土の遺物は99点あり、上器は84点のうち5点を図化した。いずれも凸帯文のある深鉢である。59は口縁部直下に刻目凸帯がつき、凸帯下に焼成前穿孔列がある。60・61は口縁部よりやや下がった位置に凸帯がつくもの。62・63は肩部に刻目凸帯文が付く2条凸帯文土器である。60・62の凸帯の刻目はD字状である。2条凸帯が主体をなす縄文時代晩期末に位置づけられる。なお小片のため図化していないが、浅鉢とみられる口縁部内面の沈線内に、赤色物質の付着が観察された。蛍光X線分析の結果はベンガラの可能性を示すものであった。

他に両極打法による打痕のあるものを含めサヌカイト片11点等が出土した。

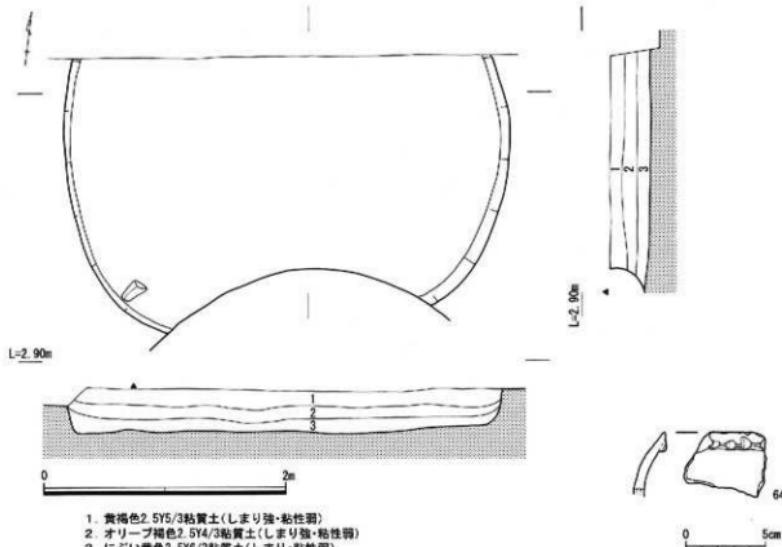
#### 不明造構3号(II地区 SX3003)(第33図)

II-5区東部北端、k・14・5グリッドに位置し、東西370cm 南北検出長176cm 深度34cm を測る。円形の豊穴住居状造構である。断面は逆台形状で、底面はわずかに起伏がある。埋土は3層である。炉跡や柱穴は確認できない。

造構出土の遺物は5点あり、64は深鉢である。口縁端部に不明瞭だが刻目が施され、口縁部直下に凸帯が付く。刻目はD字状である。縄文時代晩期後葉に位置づけられる。

#### 不明造構4号(II地区 SX3004)(第34図)

II-5区東部南端、i・j 4グリッドに位置し、長軸306cm 短軸210cm 深度30cm を測る。不整な椭円



第33図 II地区 SX3003遺構・遺物実測図

形の土坑状遺構である。断面は逆台形状で、底面は概ね平坦である。埋土は2層である。柱穴や炉跡などは確認できない。

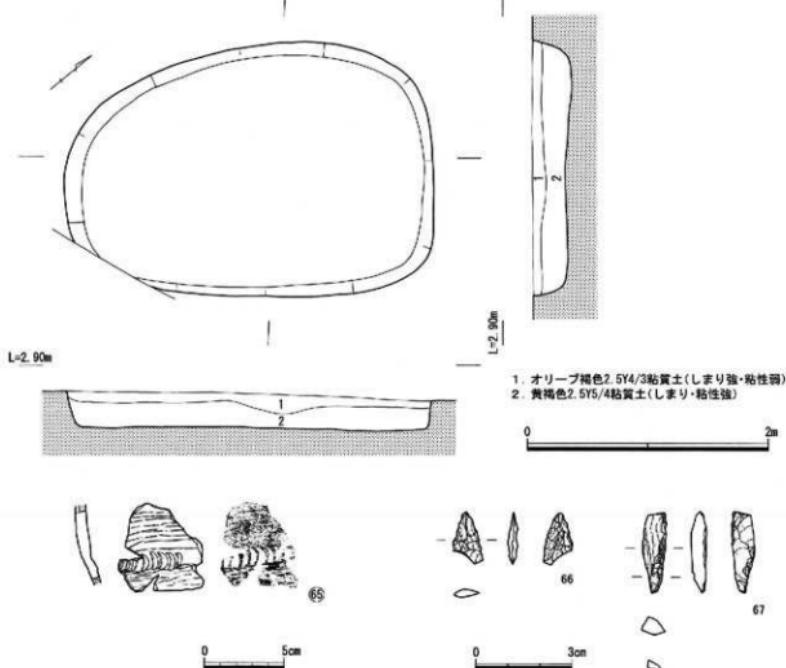
遺構出土の遺物は34点。65は深鉢の肩部である。爪形の連続刺突文が施され、器面調整には上半二枚貝条痕、下半ケズリが用いられる。本遺構では凸帯文そのものは出土していないが、その可能性のあるものが含まれておらず、前池式のように爪形文と凸帯文をあわせても可能性も考えられるので、縄文時代晩期後葉と考えておきたい。

66はサヌカイト製石錐の先端部、67はサヌカイト製石錐である。他にサヌカイト片が出土している。

#### 不明遺構5号 (II地区 SX3005) (第35図)

II-5区東部南端、j 5・6グリッドに位置し、南は調査区外に延びるが、隣接するII-4区では確認されない。東西450cm 南北検出長264cm 深度36cmを測る、円形の竪穴住居状遺構である。断面は逆台形状で、底面はやや起伏がある。埋土は3層である。

EK 1は遺構中央部に位置し、南は調査区外に延びる。東西142cm 南北検出長106cm 深度30cmを測る、不整形の土坑である。断面は皿状で、埋土は1層である。EK 2は遺構東側に位置し、西はEK 1に切られ南は調査区外に延びる。東西残存長90cm 南北検出長80cm 深度30cmを測る、不整形の土坑である。断面は皿状で、埋土は1層である。EK 3は、遺構北東側に位置し、南をEK 1・2に切られる。東西72cm 南北残存長58cm 深度20cmを測る、不整形の土坑である。断面は逆台形状で、埋土は1層である。EK 4は、遺構北西側に位置し、長軸100cm 短軸72cm 深度26cmを測る、不整形の土坑である。断面は皿状で、



第34図 II地区 SX3004遺構・遺物実測図

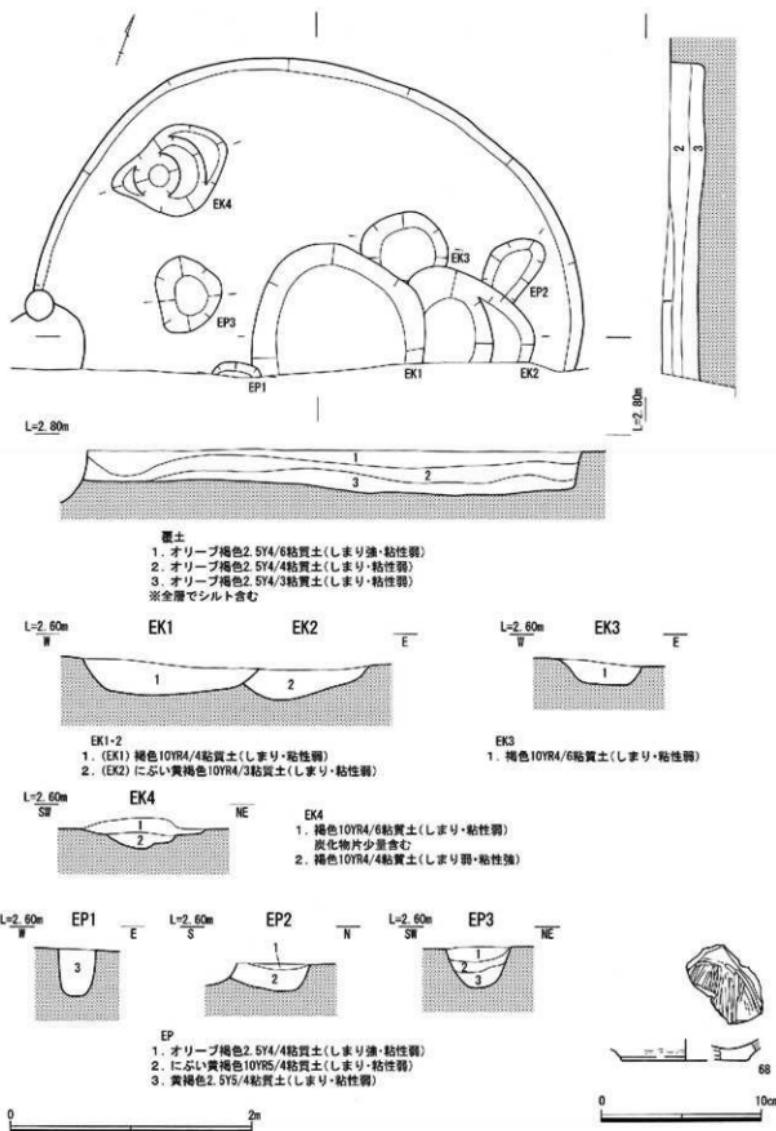
緩い段をもつ。埋土は2層である。第1層に炭化物片を少量含むが、遺構の中心から大きく外れるため炉跡の認定を避けた。

EP1は3基検出したが、配置に規則性はない。EP1は遺構中央西寄りに位置し、南は調査区外に延びる、径40cm 深度38cmを測る、不整円形とみられる小穴である。断面はU字状で、埋土は1層である。EP2は遺構北東側に位置し、南をEK2に切られる。残存長径52cm 深度22cmを測る、不整な楕円形の小穴である。断面は不整な逆台形状で、埋土は2層である。EP3は遺構北西側に位置する。径62cm 深度32cmを測る、不整形の小穴である。断面はU字状で、埋土は3層である。

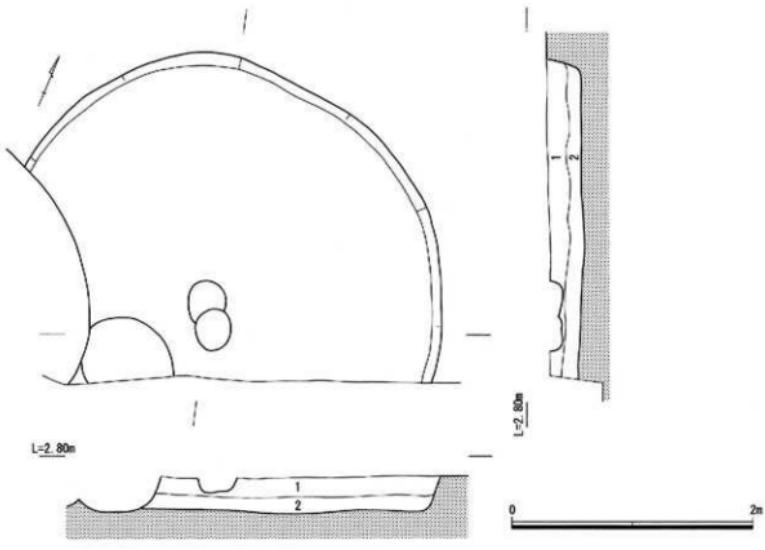
遺構出土の遺物は21点。68は浅鉢の底部である。深鉢の器面調整は凸帯文期に通有のものであり、縄文時代晚期後葉に属すると考えられる。他にサヌカイト片が出土した。

#### 不明遺構6号(II地区 SX3006)(第36図)

II-5区東部南端、j-k 5-6グリッドに位置し、南は調査区外に延びるが、隣接するII-4区では確認されない。東西378cm 南北検出長270cm 深度30cmを測る、円形の竪穴住居状遺構である。断面は逆台形状で、底面は概ね平坦である。埋土は2層である。柱穴や炉跡は確認できない。



第35図 II地区 SX3005遺構・遺物実測図



1. オリーブ褐色2.5Y4/6粘質土(しまり・粘性弱)  
2. オリーブ褐色2.5Y4/3粘質土(しまり弱・粘性強)

第36図 II 地区 SX3006遺構実測図

遺構出土の遺物は8点。図化できる上器はないが、器面調整や胎土の特色から縄文時代晩期に属すると考えられる。

#### 土坑2号（II地区 SK3002）（第37図）

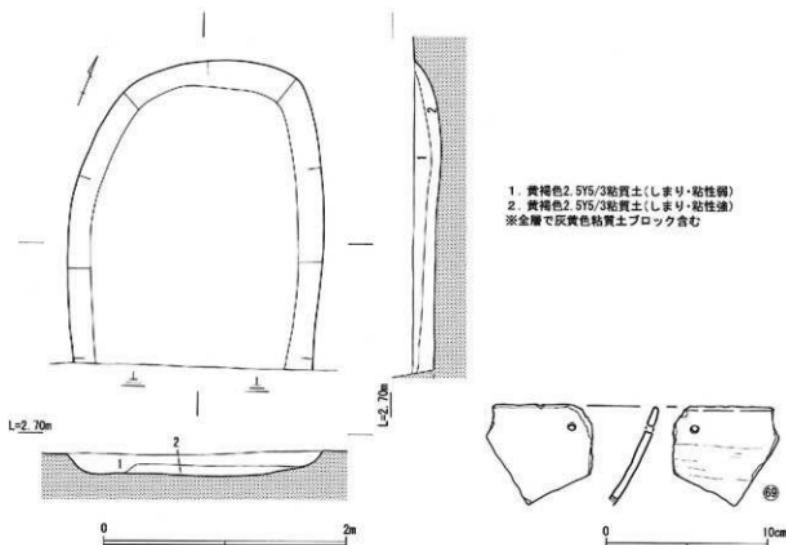
II-4区中央部、h 2グリッドに位置し、南は調査区外に延びる。長軸検出長252cm 短軸210cm 深度22cmを測る、不整な楕円形の土坑である。断面は逆台形状で、埋土は2層である。

遺構出土の遺物は18点。69は浅い椀形を呈するとみられる浅鉢である。口縁部やや下に穿孔がある。縄文時代晩期の後半に属すると考えられる。なおこの土器は胎土に角閃石粒が多く含まれる搬入品である。また外面にタール状の付着物がある。

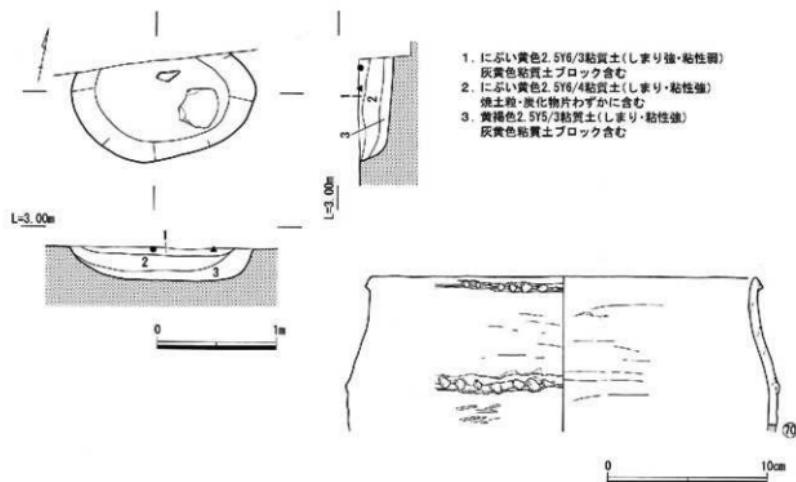
#### 土坑4号（II地区 SK3004）（第38図）

II-4区東部北端、i 4・5グリッドに位置し、北は調査区外に延びる。長軸152cm 短軸検出長82cm 深度28cmを測る、楕円形の土坑である。断面は逆台形状で、埋土は3層である。遺構東側の検出面で20~30cm 大の砾を2点検出。

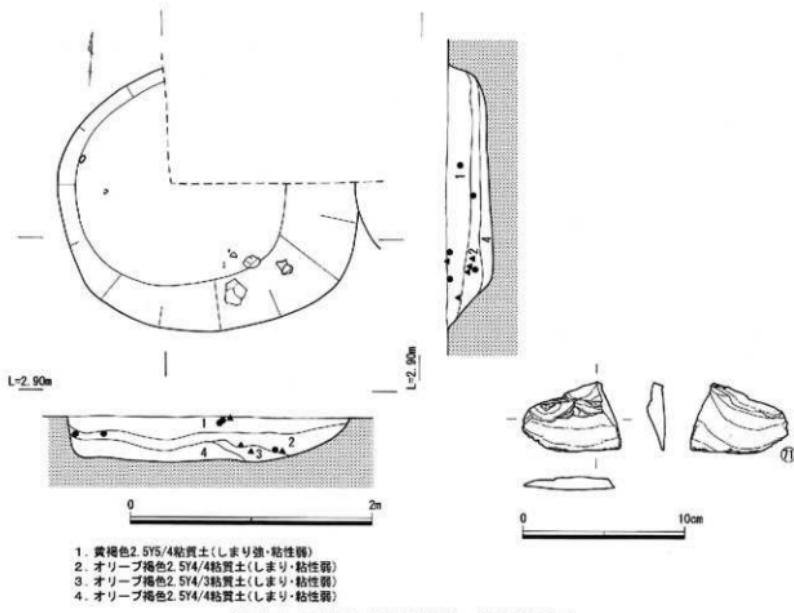
遺構出土の遺物は3点。70は2条凸帯を有する深鉢で、口縁部直下と肩部に凸帯を巡らせる。刻目はD字状である。全体形状は口縁部がやや窄まる長原式に典型的なプロポーションであり、縄文時代晩期末に位置づけられる。他にサヌカイト片が出土した。



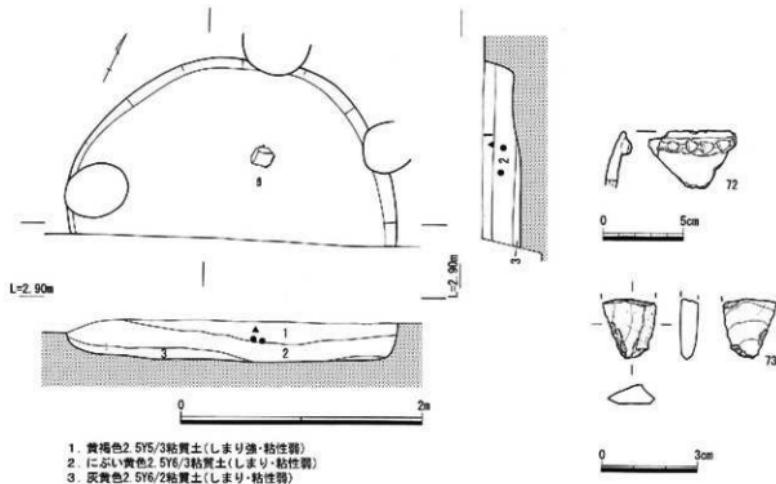
第37図 II地区 SK3002造構・遺物実測図



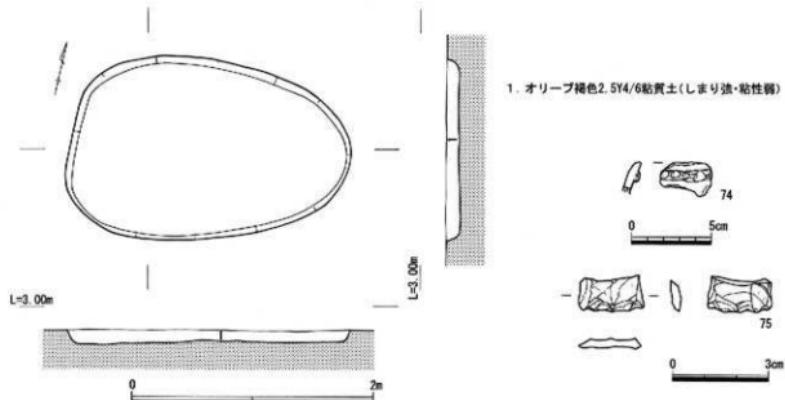
第38図 II地区 SK3004造構・遺物実測図



第39図 II地区 SK3013遺構・遺物実測図



第40図 II地区 SK3018遺構・遺物実測図



第41図 II地区 SK3021遺構・遺物実測図



第42図 II地区 SP3064遺物実測図

#### 土坑13号（II地区 SK3013）（第39図）

II-5区中央部北側、k 2グリッドに位置し、東西250cm 南北216cm 深度38cm を測る、不整円形の土坑である。断面は逆台形状で、埋土は4層である。

遺構出土の遺物は28点。土器は細片で図化不能だが、器面調整や胎土から縄文時代晩期後葉に属すると考えられる。71はサヌカイト製石器で縦長剥片のエッジを刃部として使用した石器である。

#### 土坑18号（II地区 SK3018）（第40図）

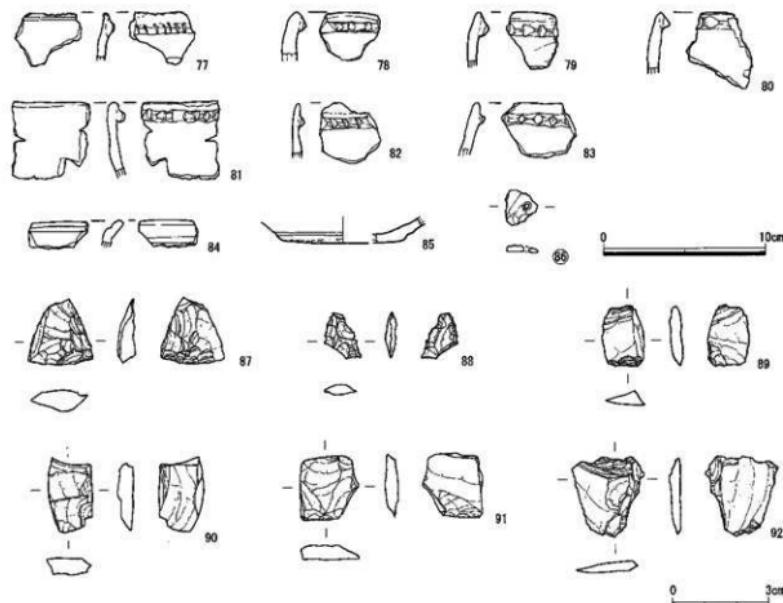
II-5区東部南端、i 3・4グリッドに位置し、南は調査区外に延びる。東西270cm 南北残存長148cm 深度34cm を測る、円形の土坑である。断面は逆台形状で、埋土は3層である。

遺構出土の遺物は21点。72は第1層から出土した深鉢で、口縁端部よりやや下がった位置に凸帯を巡らせる。刻目はD字状である。縄文時代晩期後葉に属すると考えられる。73はサヌカイト製のスクレイバー、欠損しているが縦長剥片のエッジを刃部とした石器である。

#### 土坑21号（II地区 SK3021）（第41図）

II-5区東部、k 5・6グリッドに位置し、長軸232cm 短軸150cm 深度12cm を測る、不整な楕円形の土坑である。断面は浅い逆台形状で、埋土は1層である。

遺構出土の遺物は3点。74は深鉢で、口縁端部より下がった位置に凸帯を巡らせる。刻目はD字状である。縄文時代晩期後葉に属する。75はサヌカイト剥片の一辺に丁寧な調整を加えている。石器製作中に欠損したものとみられる。



第43図 II地区 第3包含層遺物実測図

#### 小穴64号 (II地区 SP3064) (第42図)

II-5区東部, k 6 グリッドに位置し, 径66cm 深度31cm を測る, 不整円形の小穴である。

遺構出土の遺物は5点。76は深鉢で, 口縁端部より下がった位置に凸帯を巡らせる。刻目は逆D字状ないしは算盤玉状の形状を示す。縄文時代晚期後葉に位置づけられる。

#### 〈II地区 第3包含層出土遺物〉(第43図)

77~83は凸帯文のある深鉢である。77~80は口縁部直下に凸帯を貼り付け, 81~83はやや下がった位置に凸帯を巡らせる。刻目は, 77は線状で細く, 78~82はD字状, 83は算盤玉状である。77の口縁部内面には1条の沈線がある。また84は小片であるが, 口縁部で内面に1条の沈線があり, 外面には幅広の沈線が段を形成している。晩期中葉の浅鉢の可能性が考えられる。85は浅鉢の底部, 脊部との境が沈線状になっている。86は穿孔があるが部位不明。なお, 79と82の胎土には結晶片岩粒が含まれているとみられる。

87の下辺は両極打法によるものだが, 右辺の調整からみて石縫の木製品か。88は先端と基部を欠損する石縫。89は一方に裁断面があり, 弱い両極打法によるものとみられる調整が, 90は右辺に両極打法がみられ, いずれも楔形石器に分類される。91・92は調整痕のあるサヌカイト片である。

## 【2】弥生時代の遺構・遺物

### 〈II地区 第2遺構面〉(第44図)

弥生時代の遺構は、II地区でのみ確認された。範囲はII-3区東端部、II-4・7・9区北半部、II-5区、II-10区である。II-4区北半～II-5区東半部にかけて遺構が密集し、II-7～10区にかけては疎らである。竪穴住居(SB)11棟、竪穴住居状遺構を含む不明遺構(SX)20基、土坑(SK)113基、溝(SD)6条、小穴(SP)273基を検出した。

### 竪穴住居1号 (II地区 SB2001) (第45図)

II-4区西部北端、g・h19・20グリッドに位置する。北側は調査区外に延び、東西428cm 南北検出長366cm 深度36cm を測る円形の竪穴住居。断面は逆台形状で、埋土は5層である。中央部が不整円形状に下がり、周囲に幅約35～100cm のベッド状遺構を作る。

周壁溝ED1は住居東側に位置し、全長246cm 幅20cm 深度6cm を測る。周壁溝ED2は住居西側に位置し、全長118cm 幅16cm 深度7cm を測る。ともに断面は浅いU字状で、埋土は1層である。EIII1は住居北側に位置し、北側は側溝により切られる。東西長92cm 南北検出長84cm 深度8cm を測る、不整円形の炉跡である。断面は浅い皿状で、埋土は1層である。EK1は住居北東に位置し、北側は側溝により切られる。東西長80cm 南北検出長38cm 深度22cm を測る円形土坑。断面は緩い逆台形状で、埋土は2層である。EPは3基検出されたが、主柱穴としては数が不足する。径24～40cm 深度22～32cm を測る。EP3で柱痕とみられる土層が確認できる。

遺物は弥生土器片・甕、サヌカイト片、砂岩製叩石・砥石、被熱砂岩礫が出土しているが、いずれも小片で図化し得なかった。

### 竪穴住居2号 (II地区 SB2002) (第46図)

II-4区中央部、g・h 3グリッドに位置する。東西370cm 南北420cm 深度20cm を測る円形の竪穴住居。断面は逆台形状で、埋土は3層、底面は概ね平坦である。炉跡は確認できない。

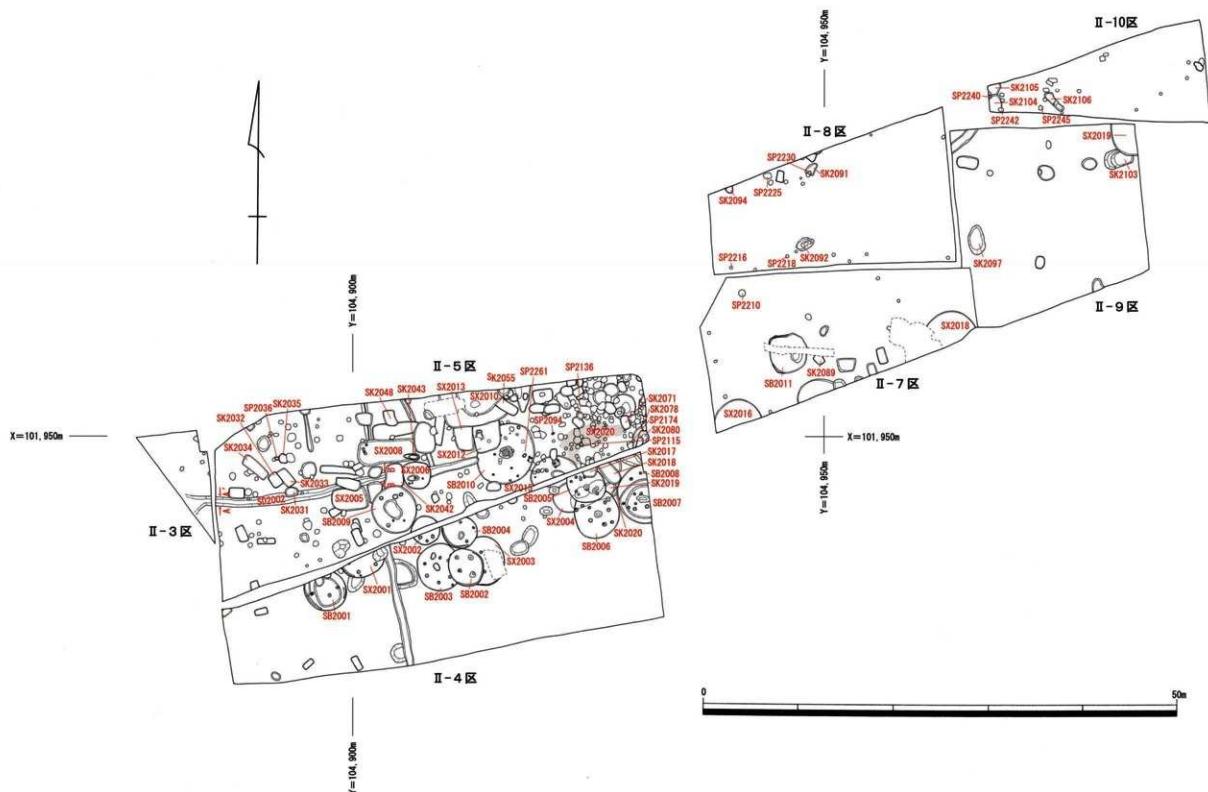
周壁溝ED1は住居の北東から南西で検出した。全長596cm 幅16cm 深度10cm を測る。断面はU字状で、埋土は1層である。EPは4基検出し、径40～64cm 深度22～32cm を測る。やや不規則な配置ではあるが主柱穴と考えられる。すべてのEPで柱痕とみられる土層が確認できる。

遺物は弥生上器片・甕・壺、土師質土器片・皿、瓦器碗、砂岩製叩石、凝灰岩礫が出土しているが、中世遺物は混入である。93は逆L字形口縁をもつ甕。口縁端部に凸帯を貼り付ける。胎土に結晶片岩を含む。94は壺の底部。底部は器壁が厚い。体部外面の一部にヘラミガキの痕跡を残す。胎土は粗く、チャート・泥岩を含む。

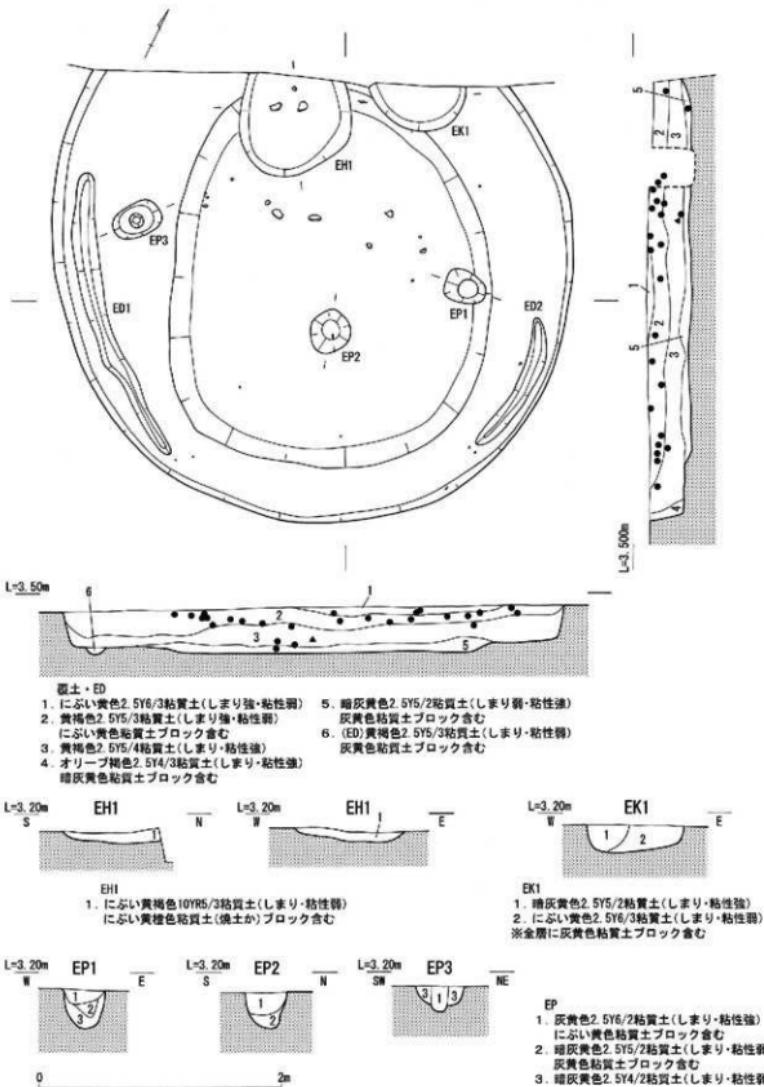
### 竪穴住居3号 (II地区 SB2003) (第47～49図)

II-4区中央部、g・h 2・3グリッドに位置する。南北500cm 東西490cm 深度32cm を測る円形の竪穴住居。断面は逆台形状で、埋土は3層である。

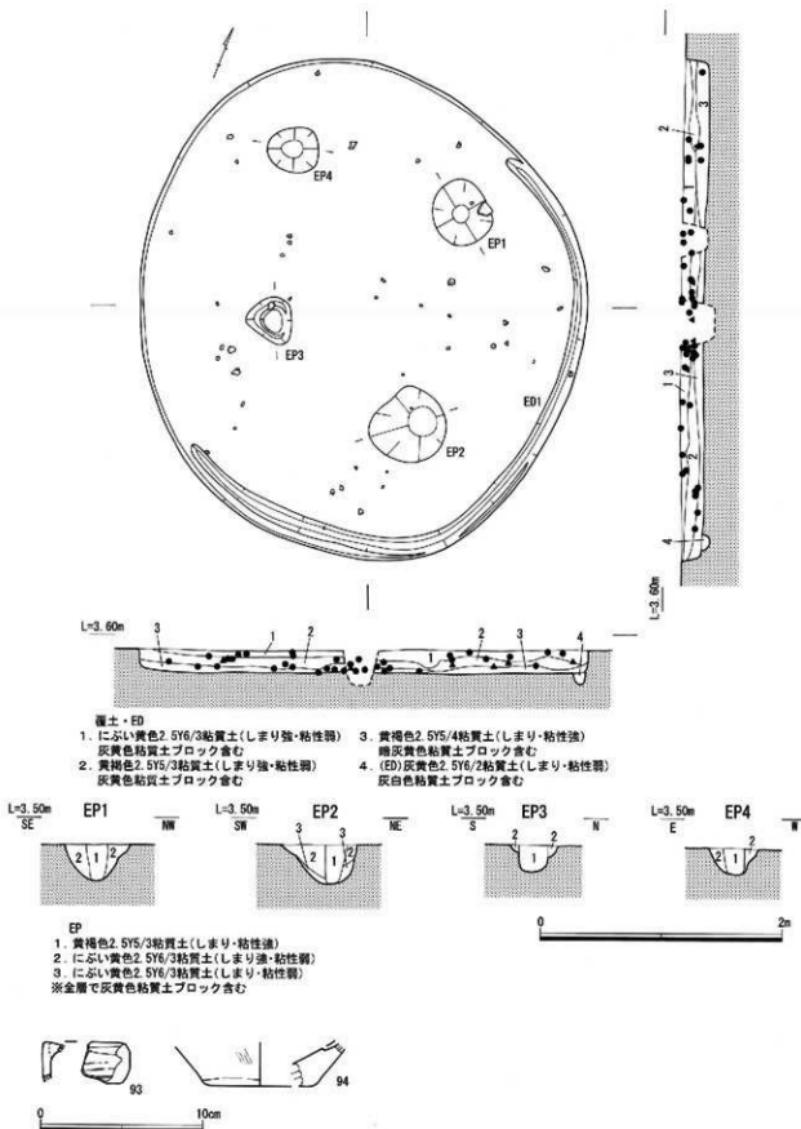
EK1は住居中央部に位置する。長軸84cm 短軸58cm 深度4cm を測る不整形土坑。断面はきわめて浅い皿状で、埋土は1層である。炭化物片をわずかに含む。EK2は住居北側に位置する、長軸74cm 短軸



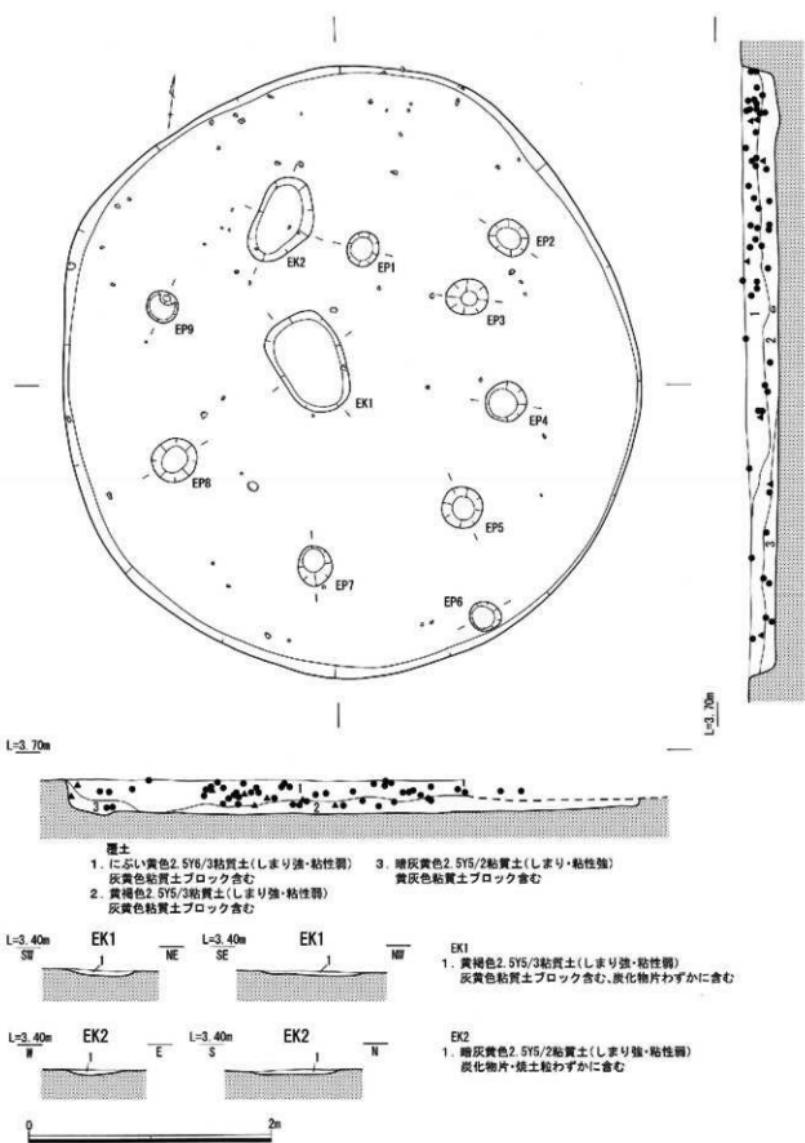
第44図 II-3~5・7~10区 第2遺構面 遺構配置図



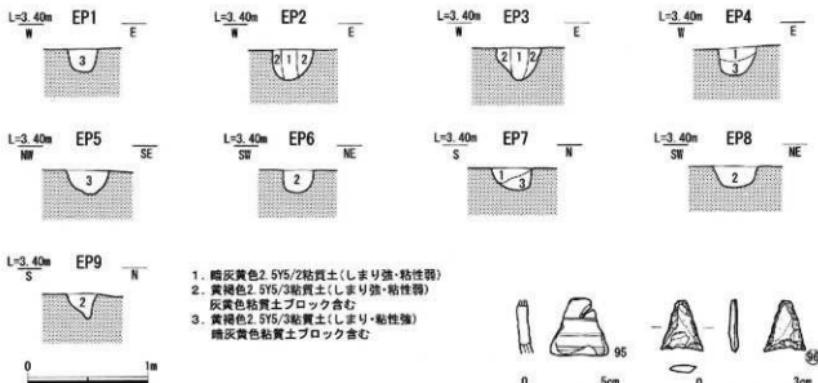
第45図 II地区 SB2001構造実測図



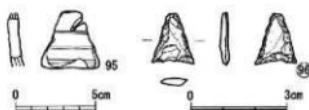
第46図 II地区 SB2002構造・遺物実測図



第47図 II 地区 SB2003造構実測図



第48図 II地区 SB2003遺構断面図



第49図 II地区 SB2003遺物実測図

46cm 深度4cmを測る不整形土坑。断面はきわめて浅い皿状で、埋土は1層である。炭化物片と焼土粒をわずかに含む。EPは9基検出し、径26~38cm 深度18~26cmを測る。EP2・3で柱痕とみられる土層が確認できる。配置からEP2・6を除くEPが主柱穴になりうる。

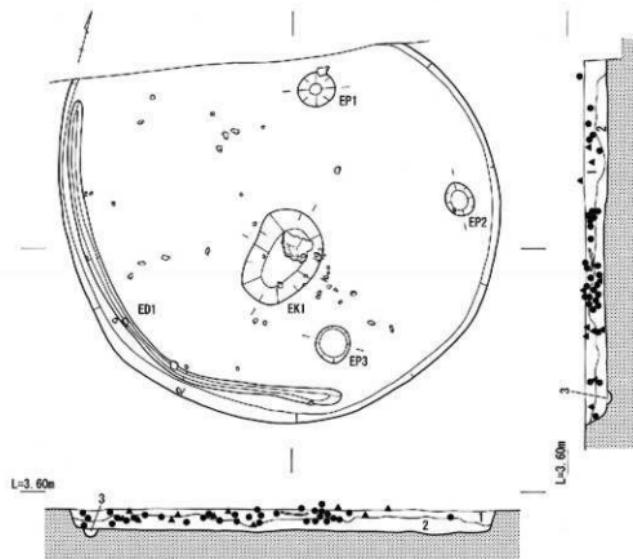
遺物は弥生土器片・甕、須恵器片・甕、土師質土器片(回転糸切り)、瓦器片、サヌカイト片・石鐵、被熱砂岩礫、炭化物片が出土しているが、古代・中世遺物は混入である。95は甕の体部。外側にヘラ描の平行線文を施す。胎土は粗く、チャートを含む。96はサヌカイト製の凹基式打製石鐵。先端部分をわずかに欠失する。調整は縁辺部に限られ、身の大部分には本来の剥片の剥離面を残す。側縁部は直線的で、基部は両端を尖らせる。

#### 竪穴住居4号(II地区 SB2004)(第50図)

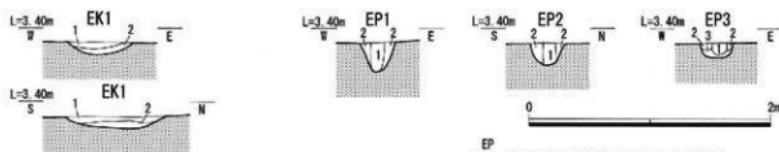
II-4区中央部北端、h・i 2・3グリッドに位置し、北側は調査区外に延びる。東西360cm 南北検出長298cm 深度20cmを測る円形の竪穴住居。断面は逆台形状で、埋土は2層、底面は概ね平坦である。

周壁溝ED1は住居東側へ南側に位置する。全長384cm 幅14cm 深度6cmを測る。断面はU字状で、埋土は1層である。EK1は住居中央部南寄りに位置する。長軸80cm 短軸54cm 深度10cmを測る不整形土坑。断面は皿状で、埋土は2層である。EPは3基検出し、径28~30cm 深度12~24cmを測る。柱痕とみられる上層が確認できる。

遺物は弥生土器壺・甕、土師質土器片、サヌカイト片、被熱砂岩礫が出土。97は広口壺と考えられる。球形の体部と平底の底部をもつ。胎土は粗く、チャートを含む。98は甕で、口縁外面に粘土帯を貼り付けて逆L字形に仕上げる。口縁端部に刻目を施す。体部外面上位に横位の細い沈線を1条引く。胎土は粗く、チャートとみられる粒子を含む。99は如意型口縁をもつ甕。外反する短い口縁を持ち、端部は平坦に仕上げる。体部は直立し、外面上位に横位のヘラ描き集合沈線を4~5条施文する。胎土は粗く、チャート・砂岩を含む。

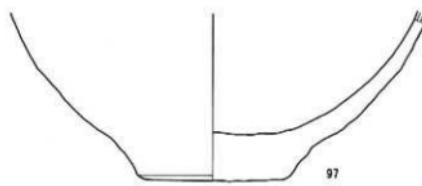


- 覆土-ED 1. にぶい黄色2.5Y6/3粘質土(しまり強・粘性弱)  
灰黄色粘質土ブロック含む  
2. 黄褐色2.5Y5/3粘質土(しまり強・粘性弱)  
灰黄色粘質土ブロック含む  
3. (ED)にぶい黄色2.5Y6/3粘質土(しまり・粘性弱)  
灰白色粘質土ブロック含む



- EK1 1. にぶい黄色2.5Y6/3粘質土(しまり・粘性弱)  
2. 黄褐色2.5Y5/3粘質土(しまり・粘性強)  
※全層で灰黄色粘質土ブロック含む

- EP 1. にぶい黄色2.5Y6/3粘質土(しまり・粘性強)  
2. 灰質色2.5Y6/2粘質土(しまり・粘性弱)  
黄灰色粘質土ブロック含む  
3. 暗灰質色2.5Y5/2粘質土(しまり・粘性強)  
黄灰色粘質土ブロック含む



第50図 II地区 SB2004遺構・遺物実測図

## 竪穴住居 5号（Ⅱ地区 SB2005）（第51・52図）

II-4区東部北端、i・j 5・6グリッドに位置し、北側は調査区外に延びる。東西388cm 南北検出長330cm 深度22cm を測る円形の竪穴住居。断面は逆台形状で、埋土は3層、底面は概ね平坦である。

周壁溝ED 1は途切れなく回る。幅17cm 深度14cm を測る。断面はU字状で、埋土は1層である。EK 1は住居中央部南寄りに位置し、長軸64cm 短軸52cm 深度12cm を測る不整円形土坑。断面は浅い皿状で、埋土は2層である。EK 2は住居北東部に位置し、長軸50cm 短軸34cm 深度6cm を測る楕円形土坑。断面は浅い逆台形状で、埋土は1層である。EK 3は住居南東部に位置し、長軸70cm 短軸44cm 深度6cm を測る不整形土坑。断面は浅い皿状で、埋土は1層である。EK 4は住居北部に位置し、長軸54cm 短軸26cm 深度8cm を測る不整形土坑。断面は浅い皿状で、埋土は1層である。EP 1は7基検出し、配置は不規則である。径26~34cm 深度8~32cm を測る。EP 3・4・6・7で柱痕とみられる土層が確認できる。

遺物は弥生土器片・壺・甕、土師質土器皿、瓦器柄、サヌカイト製石鏃、砂岩製叩石・磨石、被熱砂岩礫が出土しているが、中世遺物は混入である。

100は広口壺。口縁端部は丸く仕上げる。外面の頸部下位から体部上位にかけて横位の櫛描平行線文を施し、その下には櫛描の波状文を描く。胎土に結晶片岩・網雲母を含む。101は甕で、直立する体部と大きく外反する口縁をもつ。体部外面はタテハケ調整を施す。胎土に結晶片岩を含む。102~104は甕の底部。102はわずかに上げ底で、胎土に結晶片岩を含む。104は平底で、胎土にチャートを含む。

105はサヌカイト製の凸基式打製石鏃。片方の側縁が大きく外側に膨らむ左右非対称の形態をもつ。106~109は砂岩の自然縁を叩石や磨石として使用したもの。使用される縁は不整橢円形や不整円形のものが多い。いずれも端部と平坦部に敲打痕が集中するが、109は表裏両面を磨石として使用する。

## 竪穴住居 6号（Ⅱ地区 SB2006）（第53~55図）

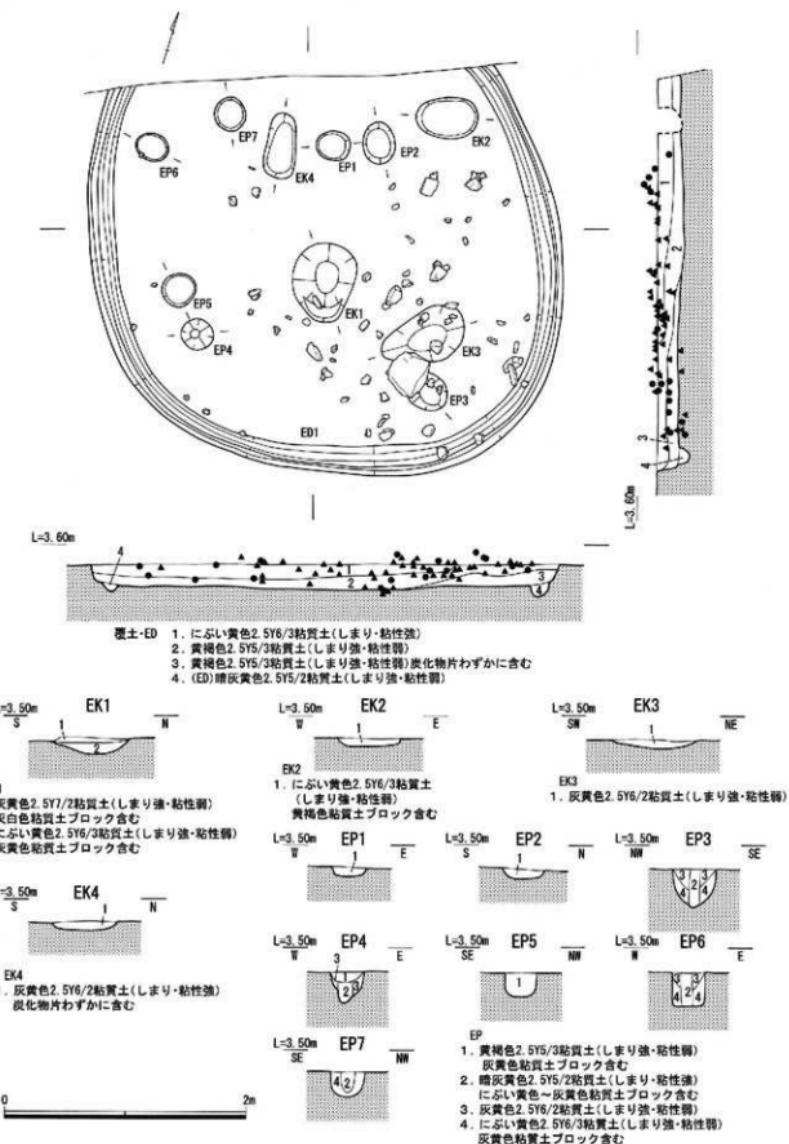
II-4区東部北側、h・i 5・6グリッドに位置する。東西490cm 南北516cm 深度30cm を測る円形の竪穴住居。断面は逆台形状で、埋土は2層、底面は概ね平坦である。

ED 1は住居北側で途切れる。幅11cm 深度20cm を測る。断面はU字状で、埋土は1層である。EH 1は住居中央部に位置し、長軸78cm 短軸72cm 深度8cm を測る不整円形の炉跡。断面は浅い皿状で、埋土は2層である。EK 1は住居北西部に位置し、長軸94cm 短軸64cm 深度6cm を測る不整形土坑。断面は浅い皿状で、埋土は1層である。EP 1は10基検出し、径32~50cm 深度6~38cm を測る。EP 3・5・7・8・10で柱痕とみられる土層が確認できる。配置からEP 2・3・5・6・9・10が上柱穴になる可能性がある。

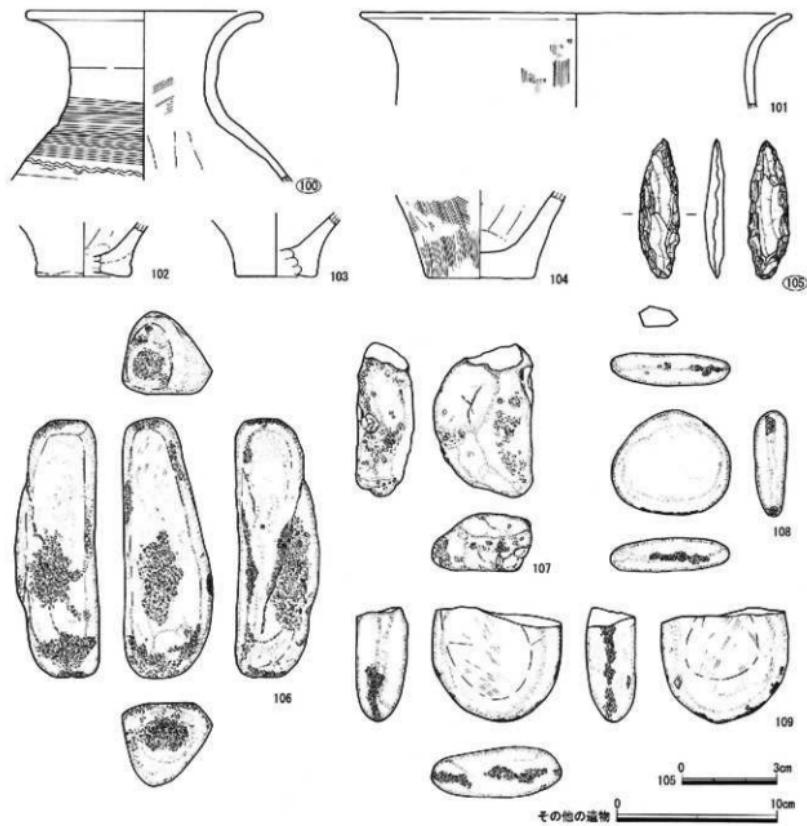
遺物は弥生土器片・壺・甕、須恵器杯、土師質土器片・皿・土鉢、瓦器柄、サヌカイト片・石鏃、被熱砂岩・結晶片岩礫が出土しているが、古代・中世遺物は混入である。

110は広口壺。口縁端部は横ナデにより浅くくぼむ。外面にタテハケ、内面にヨコハケを施す。胎土に結晶片岩を含む。111も広口壺と考えられる。卵形の体部をもち、上半部に櫛描直線文と扇状文で疑似流水文を描き、下半部に横位の丁寧なヘラミガキを施す。胎土に結晶片岩を含む。112は甕で、口縁端部に粘土帯を貼り付け逆L字形に仕上げる。端部には刻目を施し、体部外面上位に3条のヘラ描き沈線を施す。113・114は甕の底部。ともに上げ底で、底体部の境に括れをもつ。胎土に結晶片岩を含む。

115はサヌカイト製の凹基式打製石鏃。両側縁部には浅い抉りを施し、基部中央は浅くくぼみ両端を丸く仕上げる。



第51図 II地区 SB2005構造実測図



第52図 II地区 SB2005遺物実測図

#### 竪穴住居7号（II地区 SB2007）（第56～59図）

II-4区東端部、I・J 6・7グリッドに位置し、東側は調査区外に延びる。東西検出長318cm 南北長468cm 深度66cm を測る円形の竪穴住居。断面は逆台形状で、埋土は6層である。中央部が不整円形状に下がり、周囲に幅約20～50cm のベッド状造構を作る。

周壁溝ED 1は残存部で全周し、幅31cm 深度13cm を測る。断面はU字状で、埋土は1層である。EK 1は住居中央部に位置し、東端は調査区外に延びる。東西検出長136cm 南北82cm 深度6cm を測る不整形土坑。断面は浅い皿状で、埋土は1層で炭化物片をわずかに含む。炉跡の可能性も考えられる。EPは7基検出し、径28～44cm 深度22～36cm を測る。EP 1・3～7で柱痕とみられる土層が確認できる。配置

